

2025年度 大学院人間社会研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2025/5/1〕最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（<https://syllabus.hosei.ac.jp/>）で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

福祉社会専攻_専門共通科目【S0001】福祉社会研究法Ⅰ〔野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英〕春学期授業/Spring	1
福祉社会専攻_専門共通科目【S0002】福祉社会研究法Ⅱ〔岡田 栄作〕秋学期授業/Fall	2
福祉社会専攻_専門共通科目【S0003】地域共生社会特論〔水野 雅男、図司 直也、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ、眞保 智子、渡辺 寛人〕秋学期授業/Fall	3
福祉社会専攻_専門共通科目【S0004】社会福祉学特論〔岩崎 晋也〕秋学期授業/Fall	4
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0005】ソーシャルワーク特論Ⅰ〔佐藤 繭美〕春学期授業/Spring	5
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0006】ソーシャルワーク特論Ⅱ〔高良 麻子〕春学期授業/Spring	6
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0007】ソーシャルワーク理論研究特論〔伊藤 正子〕秋学期授業/Fall	7
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0009】ソーシャルワーク・スーパービジョン〔佐藤 繭美、伊藤 正子、高良 麻子〕秋学期授業/Fall	8
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0010】地域福祉特論〔宮城 孝〕春学期授業/Spring	9
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0012】高齢者福祉特論〔中村 律子〕春学期授業/Spring ..	10
臨床心理学専攻_専門展開科目（関連専門領域科目）【S0012】高齢者福祉特論〔中村 律子〕春学期授業/Spring ..	11
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0013】障害者福祉特論〔眞保 智子〕秋学期授業/Fall	12
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0015】生活問題特論〔結城 俊哉〕オータムセッション/Autumn Session	13
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0016】社会リハビリテーション特論〔行實 志都子〕秋学期授業/Fall	14
福祉社会専攻_専門展開科目（システム・マネジメント系）【S0018】保健医療福祉システム特論〔小島 香〕春学期授業/Spring	15
福祉社会専攻_専門展開科目（システム・マネジメント系）【S0019】ケアマネジメント特論〔山井 理恵〕サマーセッション/Summer Session	16
福祉社会専攻_専門展開科目（システム・マネジメント系）【S0020】福祉経営特論〔服部 真治〕春学期授業/Spring ..	17
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0021】ソーシャル・イノベーション特論〔土肥 将敦〕春学期前半/Spring(1st half)	18
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0022】住宅政策特論〔水野 雅男〕秋学期前半/Fall(1st half)	19
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0023】内発的農村発展特論〔図司 直也〕春学期前半/Spring(1st half)	20
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0024】地域文化と教育特論〔杉浦 ちなみ〕秋学期後半/Fall(2nd half)	21
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0025】環境社会学特論〔野田 岳仁〕秋学期後半/Fall(2nd half)	22
福祉社会専攻_専門展開科目（研究基盤）【S0027】実用英語講読〔高取 康之〕春学期授業/Spring	23
福祉社会専攻_専門展開科目（研究基盤）【S0028】学術英語〔山本 五郎〕秋学期授業/Fall	24
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0033】地域経営特論〔土肥 将敦〕春学期前半/Spring(1st half)	25
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0034】都市・住宅政策特論〔水野 雅男〕秋学期前半/Fall(1st half)	26

福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0035】 地域空間学特論 [図司 直也] 春学期前半/Spring(1st half).....	27
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0036】 地域マネジメント特論 [杉浦 ちなみ] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	28
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0037】 地域環境特論 [野田 岳仁] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	29
福祉社会専攻_演習科目 【S0101】 論文研究演習Ⅰ [伊藤 正子] 年間授業/Yearly.....	30
福祉社会専攻_演習科目 【S0102】 論文研究演習Ⅰ [岩崎 晋也] 年間授業/Yearly.....	31
福祉社会専攻_演習科目 【S0103】 論文研究演習Ⅰ [岡田 栄作] 年間授業/Yearly.....	32
福祉社会専攻_演習科目 【S0104】 論文研究演習Ⅰ [高良 麻子] 年間授業/Yearly.....	34
福祉社会専攻_演習科目 【S0105】 論文研究演習Ⅰ [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly.....	35
福祉社会専攻_演習科目 【S0106】 論文研究演習Ⅰ [眞保 智子] 年間授業/Yearly.....	36
福祉社会専攻_演習科目 【S0107】 論文研究演習Ⅰ [宮城 孝] 年間授業/Yearly.....	37
福祉社会専攻_演習科目 【S0121】 論文研究演習Ⅱ [伊藤 正子] 年間授業/Yearly.....	39
福祉社会専攻_演習科目 【S0122】 論文研究演習Ⅱ [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly.....	40
福祉社会専攻_演習科目 【S0123】 論文研究演習Ⅱ [野田 岳仁] 年間授業/Yearly.....	41
福祉社会専攻_演習科目 【S0124】 論文研究演習Ⅱ [宮城 孝] 年間授業/Yearly.....	42
福祉社会専攻_演習科目 【S0201】 実践研究演習Ⅰ [伊藤 正子] 年間授業/Yearly.....	44
福祉社会専攻_演習科目 【S0202】 実践研究演習Ⅰ [岩崎 晋也] 年間授業/Yearly.....	45
福祉社会専攻_演習科目 【S0203】 実践研究演習Ⅰ [岡田 栄作] 年間授業/Yearly.....	46
福祉社会専攻_演習科目 【S0204】 実践研究演習Ⅰ [高良 麻子] 年間授業/Yearly.....	48
福祉社会専攻_演習科目 【S0205】 実践研究演習Ⅰ [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly.....	49
福祉社会専攻_演習科目 【S0206】 実践研究演習Ⅰ [眞保 智子] 年間授業/Yearly.....	50
福祉社会専攻_演習科目 【S0207】 実践研究演習Ⅰ [宮城 孝] 年間授業/Yearly.....	51
福祉社会専攻_演習科目 【S0221】 実践研究演習Ⅱ [伊藤 正子] 年間授業/Yearly.....	53
福祉社会専攻_演習科目 【S0222】 実践研究演習Ⅱ [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly.....	54
福祉社会専攻_演習科目 【S0223】 実践研究演習Ⅱ [野田 岳仁] 年間授業/Yearly.....	55
福祉社会専攻_演習科目 【S0224】 実践研究演習Ⅱ [宮城 孝] 年間授業/Yearly.....	56
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1001】 臨床心理基礎実習 [久保田 幹子、末武 康弘] 年間授業/Yearly.....	58
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1003】 臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践) [末武 康弘] 春学期授業/Spring.....	60
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1004】 臨床心理面接特論Ⅱ [末武 康弘] 秋学期授業/Fall.....	61
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1005】 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践) [小野 純平] 春学期授業/Spring.....	62
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1006】 臨床心理査定演習Ⅱ [小野 純平] 秋学期授業/Fall.....	63
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1007】 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習) [金築 優、丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly.....	64
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1008】 臨床心理実習Ⅱ [金築 優、丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly.....	65
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目) 【S1009】 心理学研究法特論 [金子 真人] 春学期授業/Spring.....	66
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目) 【S1010】 データ分析法 [服部 環] 秋学期授業/Fall.....	67
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 【S1010】 データ分析法 [服部 環] 秋学期授業/Fall.....	68
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目) 【S1011】 臨床心理学研究法特論 [小林 由佳] 秋学期授業/Fall.....	69
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目) 【S1012】 認知心理学特論 [望月 聡] 秋学期授業/Fall.....	70
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目) 【S1013】 教育心理学特論 [望月 聡] 春学期授業/Spring.....	72
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目) 【S1014】 発達心理学特論 [齋藤 慈子] 春学期授業/Spring.....	73
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目) 【S1015】 社会病理学特論 [久田 満] オータムセッション/Autumn Session.....	75
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目) 【S1016】 家族心理学特論 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall.....	76
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目) 【S1017】 犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) [西田 俊男] 秋学期授業/Fall.....	77
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1018】 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) [関谷 秀子] 春学期授業/Spring.....	79
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1019】 障害者 (児) 心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) [金子 真人] 秋学期授業/Fall.....	80
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1020】 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 [小林 由佳] 春学期授業/Spring.....	82
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1023】 教育分野に関する理論と支援の展開 [谷 由紀子] 春学期集中.....	83

臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1024】グループ・アプローチ特論[大竹 直子] 秋学期授業/Fall	85
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1025】家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践[飯田 敏晴] 春学期授業/Spring	86
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1026】投映法特論[北村 麻紀子] サマーセッション/Summer Session	87
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1027】心の健康教育に関する理論と実践[金築 優] 秋学期授業/Fall	88
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1028】力動的心理療法特論[関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	89
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1029】心理療法特論[小林 由佳] 秋学期授業/Fall	90
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1030】心理臨床演習[丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	91
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1031】医療心理学特論[上倉 安代] 春学期授業/Spring	92
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1032】臨床心理学特論Ⅰ[金築 優] 春学期授業/Spring	93
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1033】臨床心理学特論Ⅱ[金築 優] 秋学期授業/Fall	94
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1101】論文研究指導[小野 純平] 年間授業/Yearly	95
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1102】論文研究指導[金築 優] 年間授業/Yearly	96
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1103】論文研究指導[久保田 幹子] 年間授業/Yearly	97
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1104】論文研究指導[小林 由佳] 年間授業/Yearly	98
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1105】論文研究指導[末武 康弘] 年間授業/Yearly	99
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1106】論文研究指導[関谷 秀子] 年間授業/Yearly	100
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1107】論文研究指導[丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly	101
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1108】論文研究指導[服部 環] 年間授業/Yearly	102
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1109】論文研究指導[望月 聡] 年間授業/Yearly	103
【S1201】福祉社会系特殊講義Ⅰ[岩崎 晋也] 春学期授業/Spring	104
【S1202】福祉社会系特殊講義Ⅰ[岡田 栄作] 春学期授業/Spring	105
【S1203】福祉社会系特殊講義Ⅰ[眞保 智子] 春学期授業/Spring	106
【S1204】福祉社会系特殊講義Ⅱ[岩崎 晋也] 秋学期授業/Fall	107
【S1205】福祉社会系特殊講義Ⅱ[岡田 栄作] 秋学期授業/Fall	108
【S1206】福祉社会系特殊講義Ⅱ[眞保 智子] 秋学期授業/Fall	109
【S1207】福祉臨床系特殊講義Ⅰ[伊藤 正子] 春学期授業/Spring	110
【S1208】福祉臨床系特殊講義Ⅰ[高良 麻子] 春学期授業/Spring	111
【S1209】福祉臨床系特殊講義Ⅰ[佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	112
【S1210】福祉臨床系特殊講義Ⅰ[宮城 孝] 春学期授業/Spring	113
【S1211】福祉臨床系特殊講義Ⅱ[伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	114
【S1212】福祉臨床系特殊講義Ⅱ[高良 麻子] 秋学期授業/Fall	115
【S1213】福祉臨床系特殊講義Ⅱ[佐藤 蘭美] 秋学期授業/Fall	116
【S1214】福祉臨床系特殊講義Ⅱ[宮城 孝] 秋学期授業/Fall	117
【S1215】地域・政策系特殊講義Ⅰ[関司 直也] 春学期授業/Spring	118
【S1216】地域・政策系特殊講義Ⅰ[土肥 将敦] 春学期授業/Spring	119
【S1217】地域・政策系特殊講義Ⅱ[関司 直也] 秋学期授業/Fall	120
【S1218】地域・政策系特殊講義Ⅱ[土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	121
【S1219】地域・文化系特殊講義Ⅰ[野田 岳仁] 春学期授業/Spring	122
【S1220】地域・文化系特殊講義Ⅰ[水野 雅男] 春学期授業/Spring	123
【S1221】地域・文化系特殊講義Ⅱ[野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	124
【S1222】地域・文化系特殊講義Ⅱ[水野 雅男] 秋学期授業/Fall	125
【S1223】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ[金築 優] 春学期授業/Spring	126
【S1224】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ[小林 由佳] 春学期授業/Spring	127
【S1225】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ[末武 康弘] 春学期授業/Spring	128
【S1226】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ[丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	129
【S1227】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ[服部 環] 春学期授業/Spring	130
【S1228】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ[金築 優] 秋学期授業/Fall	131
【S1229】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ[小林 由佳] 秋学期授業/Fall	132
【S1230】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ[末武 康弘] 秋学期授業/Fall	133
【S1231】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ[丹羽 郁夫] 秋学期授業/Fall	134
【S1232】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ[服部 環] 秋学期授業/Fall	135
【S1233】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ[小野 純平] 春学期授業/Spring	136
【S1234】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ[久保田 幹子] 春学期授業/Spring	137
【S1235】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ[関谷 秀子] 春学期授業/Spring	138

【S1236】	臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ	〔望月 聡〕	春学期授業/Spring	139
【S1237】	臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ	〔小野 純平〕	秋学期授業/Fall	140
【S1238】	臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ	〔久保田 幹子〕	秋学期授業/Fall	141
【S1239】	臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ	〔関谷 秀子〕	秋学期授業/Fall	142
【S1240】	臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ	〔望月 聡〕	秋学期授業/Fall	143
【S1251】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔伊藤 正子〕	年間授業/Yearly	144
【S1252】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔岩崎 晋也〕	年間授業/Yearly	145
【S1253】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔小野 純平〕	年間授業/Yearly	146
【S1254】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔金築 優〕	年間授業/Yearly	147
【S1255】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔久保田 幹子〕	年間授業/Yearly	148
【S1256】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔高良 麻子〕	年間授業/Yearly	150
【S1257】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔佐藤 繭美〕	年間授業/Yearly	151
【S1258】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔眞保 智子〕	年間授業/Yearly	152
【S1259】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔末武 康弘〕	年間授業/Yearly	153
【S1260】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔関司 直也〕	年間授業/Yearly	154
【S1261】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔関谷 秀子〕	年間授業/Yearly	155
【S1262】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔土肥 将敦〕	年間授業/Yearly	156
【S1263】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔丹羽 郁夫〕	年間授業/Yearly	157
【S1264】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔服部 環〕	年間授業/Yearly	158
【S1265】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔水野 雅男〕	年間授業/Yearly	159
【S1266】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔宮城 孝〕	年間授業/Yearly	160
【S1267】	人間福祉特別演習Ⅰ	〔望月 聡〕	年間授業/Yearly	161
【S1271】	人間福祉特別演習Ⅱ	〔末武 康弘〕	年間授業/Yearly	162
【S1272】	人間福祉特別演習Ⅱ	〔望月 聡〕	年間授業/Yearly	163
【S1281】	人間福祉特別演習Ⅲ	〔末武 康弘〕	年間授業/Yearly	164

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会研究法 I

野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

【到達目標】

研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「DP9」「DP10」関連

【授業の進め方と方法】

福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第2回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第3回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第4回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第5回	量的研究の方法⑤（金）	量的研究論文の精読
第6回	量的研究の方法⑥（金）	量的研究論文の執筆ポイントの解説
第7回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第8回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第9回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第10回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第11回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第12回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第13回	質的調査の方法⑥（野田）	ライフヒストリー（生活史）の方法
第14回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。

[第1-4回] 近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018年）

[第8-14回] 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016年）

その他の回については、講義内で適宜指示がある。

【参考書】

参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】

授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

【担当教員の専門分野等】

【野田岳仁】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方―暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析―環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ―福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【土肥将敦】

〔専門領域〕

企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

〔研究テーマ〕

ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

〔主要業績〕

『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【岡田栄作】

〔専門領域〕

福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論

〔研究テーマ〕

介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康

〔主要業績〕

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）

『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【金慧英】

〔専門領域〕

高齢者福祉、介護専門職支援

〔主要業績〕

「介護職員のバーンアウト要因についての一考察：職場環境の管理体制に着目して」『Human Welfare』11(1)（共著、2019年）

「韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究」『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018年）

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance (Reaction papers and reports) (20%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会研究法Ⅱ

岡田 栄作

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究デザインと論文の構成、研究倫理について復習をし、基本的な多変量解析法を中心として、統計解析用のパソコンソフトウェアを利用しながらデータ解析法を学びます。

【到達目標】

研究仮説に応じて適切なデータ解析技法を適用することができ、それぞれの技法についてのメカニズムについて理解をし、適切に解釈できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義と統計ソフトを用いた実習を繰り返していきます。授業の前半では1変数と2変数の記述統計、後半では統計的仮説検定、分散分析、基本的な多変量解析の方法を学びます。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容や進め方について説明をし、使用機器やSPSSの使用方法について学びます
第2回	基本的な統計ソフトの扱い方（SPSS）	統計についての基礎用語や演算記号を理解し、使用してみます
第3回	要約統計量	1変数の特徴や要約統計量について学びます
第4回	量的変数の分析	量的2変数の関係や共分散と相関係数について学びます
第5回	質的変数の分析	質的2変数の関係や記述統計量について学びます
第6回	平均と相関係数、信頼区間	平均と相関係数、信頼区間について学びます
第7回	平均に関する仮説検定	1標本と2標本の平均の仮説検定について学びます
第8回	相関係数のメカニズムと仮説検定	相関係数のメカニズムと仮説検定について学びます
第9回	1要因の分散分析	分散分析の考え方と被験者間1要因の分散分析について学びます
第10回	多重比較	被験者間1要因の多重比較について学びます
第11回	2要因の分散分析	被験者間2要因の分散分析について学びます
第12回	単純主効果と多重比較	被験者間2要因における交互作用、単純主効果、多重比較について学びます
第13回	重回帰分析	重回帰分析の考え方と留意点について学びます
第14回	因子分析	因子分析の考え方について学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ解析技法の実践的な利用方法を知るには研究論文を読むことが必要です。それによって技法に関する理解を深めることもできます。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。適宜必要な資料を配布します。

【参考書】

- ・阿部正人（2021）データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門、ソシム
- ・江崎貴裕（2020）分析者のためのデータ解釈学入門、ソシム

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度60%、自己評価20%、最終レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

なるべく数式を少なくしてデータ解析法を説明します。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、SPSSを使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
＜研究テーマ＞介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
＜主要業績＞『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline (in English)】

・ Course outline

The aim of this course is to learn research design and dissertation structure, research ethics and the elements necessary for research.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to focusing on basic multivariate analysis methods, you will learn data analysis methods while using the computer software SPSS for statistical analysis.

・ Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

・ Grading Criteria /Policies

① Learning status and participation in class 60%

② self-evaluation 20%

③ final report 20%

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

地域共生社会特論

水野 雅男、関司 直也、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ、眞保 智子、渡辺 寛人

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

【到達目標】

人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】

教員7名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または【対面型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開①（宮城）	包括的支援システム構築への展望と課題
第2回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開②（宮城）	包括的支援システム構築とコミュニティソーシャルワークの展開
第3回	高齢者介護と介護専門職の支援①（金）	介護をめぐる課題
第4回	高齢者介護と介護専門職の支援②（金）	外国人を含む介護専門職の支援
第5回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク①（眞保）	企業等産業分野における包摂
第6回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク②（眞保）	ダイバーシティマネジメント
第7回	貧困に対する支援①（渡辺）	貧困問題の基礎理論と貧困対策の展開
第8回	貧困に対する支援②（渡辺）	貧困に対する支援の実践
第9回	地域マネジメントと地域経済循環①（関司）	農村コミュニティの基礎的理解
第10回	地域マネジメントと地域経済循環②（関司）	内発的発展の考え方とその実践

第11回	地域における学習の組織化と展開①（杉浦）	地域社会教育の基本的課題
第12回	地域における学習の組織化と展開②（杉浦）	地域課題の解決と社会教育
第13回	障害者の社会的包摂を目指した市民事業①（水野）	社会的包摂を目指すローカルビジネスの展開
第14回	障害者の社会的包摂を目指した市民事業②（水野）	障害者の就業支援を目指すメダカ育成ビジネス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

主な研究領域

- 1) 宮城（コミュニティソーシャルワーク、包括的支援システム）
- 2) 金（介護施設の組織的管理体制の構築）
- 3) 眞保（障害者雇用と就労支援 若者支援）
- 4) 渡辺（若者の労働・貧困問題と生活保護）
- 5) 関司（農山村における地域経営の仕組みづくりと地域経済循環）
- 6) 杉浦（地域文化の継承と創造）
- 7) 水野（社会的包摂の市民事業）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work and community management. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%: including in-class reports) within class.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

社会福祉学特論

岩崎 晋也

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉学の論点を検討する。

【到達目標】

社会福祉学に関わる原理・思想・歴史・政策などに関して、近年発表された論文を素材にして、現在の社会福祉が検討すべき論点の理解を深めることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】

社会福祉学に関わる学術雑誌の中から、教員が指定する論文、または発表者が興味を持った論文を事前に参加者に提示し、全員が読了した上で、論文で示された論点やトピックをテーマに議論を深めたいと思います。

そのため、発表者に限らず参加者全員が毎回論文を読み込み、予習することが参加条件となりますので、受講者はその点を了解した上で履修してください。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文研究1	論文とは何かを講義する
第2回	論文研究2	社会福祉学の論点について講義する
第3回	論文研究3	指定論文（原理論）を読み論文の方法論について論じる1
第4回	論文研究4	指定論文（歴史）を読み論文の方法論について論じる2
第5回	論文研究5	指定論文（政策）を読み論文の方法論について論じる3
第6回	論文研究6	指定論文（制度）を読み論文の方法論について論じる4
第7回	論文研究7	指定論文（ソーシャルワーク）を読み論文の方法論について論じる5
第8回	論文研究8	指定論文（地域福祉）を読み論文の方法論について論じる6
第9回	論文研究9	指定論文（国際比較）を読み論文の方法論について論じる7
第10回	論文研究10	指定論文（貧困）を読み論文の方法論について論じる8
第11回	論文研究11	指定論文（高齢）を読み論文の方法論について論じる9
第12回	論文研究12	指定論文（児童）を読み論文の方法論について論じる10
第13回	論文研究13	参加者の自らの研究テーマについて研究方法論を検討する1
第14回	論文研究14	参加者の自らの研究テーマについて研究方法論を検討する2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を予習すること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい解説をしたいと思います。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Discuss the issues of social welfare studies.

The goals of this course are to understanding of current issues that need to be considered in social welfare.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ソーシャルワーク特論Ⅰ

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められるつつある。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第2回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第3回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第4回	死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第5回	ソーシャルワーク実践における死別ケア	先行研究および文献検討
第6回	死別ケアについての討議	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第7回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第8回	自らの死生観についての検討	文献検討とグループディスカッション
第9回	死別に関するDVD鑑賞	死別に関するDVDを鑑賞する
第10回	全体討議	死別に関するDVD鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第11回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	説明とディスカッション
第12回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第13回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえたディスカッション

第14回 総括

生と死についてのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。

①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ』、②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの理論と方法』 なお、本講義の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

坂口幸弘（2010）『悲嘆学入門』 昭和堂

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、知識・技術の習得（50%）を総合的に評価する。

特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・ セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号. 2019

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to be able to express one's views on life and death.

【Learning activities outside of classroom】 The preparation and review time for this lecture will be about 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

ソーシャルワーク特論Ⅱ

高良 麻子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的に不利な立場におかれている人びとの権利の実現を目的に、主に社会福祉関連法制度の改廃や創設等から、排除や抑圧構造等の社会構造の変革を目指すソーシャルワークにおけるソーシャルアクションについて学ぶ。

【到達目標】

- ・ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションについて説明できる。
- ・ソーシャルアクションの実践事例を分析できる。
- ・ソーシャルアクションの活動計画を策定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点からソーシャルワークにおけるソーシャルアクションを理解する。また、ソーシャルアクションの実践事例の分析や具体的な計画を作成する。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。オンラインによる授業も活用するため、授業形態を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標) 社会問題の連鎖
第4回	人権と社会正義	ソーシャルアクションの原理
第5回	ソーシャルアクションの変遷	ソーシャルアクションの歴史からの理解
第6回	ソーシャルアクションの概要	ソーシャルアクションの定義と方法
第7回	パワーアセスメント	ターゲットシステムのパワーアセスメント
第8回	プログラム評価	ロジックモデル
第9回	ソーシャルアクションの実践事例分析①	ソーシャルアクションの要素等による分析
第10回	ソーシャルアクションの実践事例分析②	ソーシャルアクションの実践事例分析の発表
第11回	ソーシャルアクションの活動計画①	社会問題の構造的把握
第12回	ソーシャルアクションの活動計画②	目標の設定と可視化・組織化の方法検討
第13回	ソーシャルアクションの活動計画③	ターゲットシステムへの働きかけの方法検討
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルー「制度からの排除」への対処』中央法規
空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規
木下大生・鴻巣麻里香編著（2019）『ソーシャルアクションあなたが社会を変えようーはじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点60%
- ・ソーシャルアクションの活動計画 40%

【学生の意見等からの気づき】

知識を習得してから分析を行うために、授業計画を変更しました。

【ソーシャルワーク論】

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルー「制度からの排除」への対処』中央法規
高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会。

【Outline (in English)】

This course is designed to explore social action which is a coordinated effort to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%)and term-end report (40%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク理論の変遷とそれぞれの時代における実践モデルについて学び、日本社会での適用可能性について批判的検討を行う。

【到達目標】

ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。
 ソーシャルワークの各実践モデルの特徴と限界について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながらソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の7つの項目について整理していく。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第3回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第4回	実践モデル②	機能的アプローチ
第5回	実践モデル③	問題解決モデル
第6回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第7回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第8回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第9回	実践モデル⑦	生態学的(エコロジカル) アプローチ
第10回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第11回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第12回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第13回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第14回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

久保紘章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 2005年、一部の理論、近年の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 課題発表 (50%)
2. 授業への能動的参加 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは未実施

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
 ＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】

This course introduce the different perspectives and skills of social work theory to students taking course. By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Explain how aid perspectives, methods, and goals have changed over the course of social work development.
- B. Explain the characteristics of each practical model of social work.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Grading will be decided based on reports and presentation (50%), in-class contribution (50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ソーシャルワーク・スーパービジョン

佐藤 蘭美、伊藤 正子、高良 麻子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、専門職として、ソーシャルワーク実践を言語化、文章化できるよう学習し、そのうえで、実践者としての支援のあり方を省察できるよう、スーパービジョンの実践を学習し、そのスキルを向上していくことを目的とします。

【到達目標】

専門職として、自らの実践を振り返り省察することにより、スーパービジョンを含む実践力の質を向上していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの実践について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。※授業の内容等によっては、オンラインにて実施します。※講義内容については授業進度により変更の可能性があり。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スーパービジョンとは何か①	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第2回	スーパービジョンとは何か②	スーパービジョンの歴史と定義・種類
第3回	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン①	ジェネラリスト視点に基づくソーシャルワークの概要説明
第4回	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン②	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける倫理的ジレンマとスーパービジョン
第5回	医療領域におけるスーパービジョンの実際①	医療領域におけるスーパービジョンの方法
第6回	医療領域におけるスーパービジョンの実際②	医療領域におけるスーパービジョンについての討議
第7回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際①	ゲスト・スピーカーによる講義
第8回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際②	ゲスト・スピーカーとの討議
第9回	事例を用いたスーパービジョン①	講義と事例検討
第10回	事例を用いたスーパービジョン②	事例検討と討議

第11回 北米におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの実際

①

第12回 北米におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの実際

②

第13回 事例を用いたスーパービジョン③

第14回 スーパービジョンのグループディスカッション課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実践者向けの講義となる部分が多いので、スーパービジョンを実施したい事例についてまとめておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜紹介していきます。

【参考書】

・福山和女/渡辺律子/小原真知子他編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』ミネルヴァ書房

・山崎美貴子監修（2018）『ソーシャルワーカーの成長を支えるグループスーパービジョン』中央法規

【成績評価の方法と基準】

①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。

②成績評価：リアクションペーパー、授業内課題の提出が50%、最終課題50%の割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の現場経験を考慮した授業展開を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

【担当教員の専門分野】

【高良麻子】

ソーシャルワーク、ソーシャルアクション

【伊藤正子】

多文化ソーシャルワーク、医療福祉論

【佐藤蘭美】

ソーシャルワーク、グリーフケア、セルフヘルプグループ

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will learn how to verbalize social work practice and will enhance their necessary skills including social work supervision by reflecting on their own practice.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goal is to improve the quality of practice skills, including supervision, by reflecting and reflecting on one's own practice as a professional.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on in-class assignments (50%) and term-end assignments(50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

地域福祉特論**宮城 孝**

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

【到達目標】

コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。
地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。
自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】

講義、演習、事例分析などによる。課題に対して学生個人、また学生が協力して演習による作業を通して課題解決型学習を重視する。レポートへのコメントやリアクションペーパーなどを通して、疑問等へのフィードバックを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、CSWの概念等
第2回	CSWの理論と今日的意義	理論と今日的意義、先進事例分析
第3回	個別課題アセスメントの視点と方法	演習（個別課題アセスメントの視点と方法）
第4回	個別課題アセスメントの実際	演習（個別課題アセスメントの実際）
第5回	地域アセスメントの視点と方法	地域アセスメントの視点と方法
第6回	地域アセスメントの実際	演習（地域アセスメントの実際）
第7回	アセスメントの統合の視点と方法	演習（アセスメントの統合の実際）
第8回	ソーシャルサポートマップの作成	演習（ソーシャルサポートマップの作成）
第9回	プランニングの方法	コミュニティソーシャルワークのプランニングの方法
第10回	プランニングの実際	演習（プランニングの実際）
第11回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第12回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第13回	地域福祉計画と包括的支援システムについて	地域福祉計画と包括的支援システムについての視座
第14回	包括的支援システムの先進事例について	先進事例の分析、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開- 理論と先進事例-』中央法規、2019年

【参考書】

宮城 孝『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』明石書店、2022年
宮城 孝共編『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』明石書店、2021年、
宮城 孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018年
中島 修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2015年 他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、レポート等の提出とその内容30%により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

・『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』（共編著）中央法規、2021年
・『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』（単著）明石書店、2022年
・『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』（共編著）明石書店、2021年
・『仮設住宅 その10年-陸前高田における被災者の暮らし-』（共編著）御茶の水書房、2020年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（共編著）中央法規、2019年、
・『地域福祉とファンドレイジング-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（編集担当・共著）中央法規、2015年
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course learn about practical understanding and thinking skills about the Community social work.

【Learning Objectives】

The goals of this course A and B.A Practical understanding and thinking skills about the Community social work.

B To consider about Community welfare problem and system having to do with today.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab(70%) Short report(30%)

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

高齢者福祉特論

中村 律子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、高齢者福祉関連分野の研究をとおして、老いやケアをめぐる諸説を整理し、その特質を理解します。さらには、今後の高齢者福祉研究方法論を展望します。

【到達目標】

高齢者福祉論、老いの文化論、老年社会学などに関する研究論文や実践事例を分析検討し、高齢者福祉研究のあり方を展望することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の講義テーマにしたがって、具体的な現実（生きる場としての地域と高齢者の生活世界）のなかから、高齢者福祉研究のあり方（老いと近代社会論、高齢期と家族、社会的ネットワーク、老いとケア）を考察します。また、老いの文化論に関する文献を取り上げ、高齢者福祉研究の議論を深めていくことが狙いです。そのため、授業内発表やディスカッションなどを取り入れます。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、方法授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容及びスケジュール説明、参考図書や文献紹介
第2回	老いと近代化論①	社会福祉学における老いと福祉に関する文献整理
第3回	老いと近代化論②	老いと近代に関する人類学、民俗学、社会学の文献整理
第4回	老いとアイデンティティ	老年心理学、老年精神学が捉える老いとアイデンティティに関する理論整理
第5回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい①	家族や地域の視点で、高齢者の社会活動や生きがいに関する先行研究（人類学、民俗学、社会学など）を整理し議論する
第6回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい②	現代社会における職業、人間関係、社会関係との関連で、生きがいに関する先行研究（社会学、社会福祉学の参考文献）を整理し議論する
第7回	高齢者をとりまく福祉・医療・ケアについて	福祉・医療・ケアに関する諸制度の現状と課題を整理し議論する
第8回	高齢者をとりまく福祉的支援論について	支援困難事例から専門的援助・支援のあり方を検討し議論する
第9回	高齢者福祉制度政策研究①	日本における高齢者福祉制度政策の変遷と到達点を検討し議論する
第10回	高齢者福祉制度政策研究②	近年の高齢者福祉制度政策の発展と課題を、公・共・私の組織論や制度論を中心に検討する
第11回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）①	北欧の高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第12回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）②	アジアの高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第13回	国際比較研究方法論の再検討	諸外国と日本との比較研究と日本の高齢者福祉を展望する
第14回	まとめ	高齢者福祉研究方法論の再構築と今後の研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高齢者福祉に限らず、文化人類学、老年社会学、老年精神学の領域で取り上げられている「高齢者」に関する文献を事前に読み、老いやケアの研究に関する視角ならびに、実社会の中から問題の背景、特質などを整理してください。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しませんが、受講者と相談のうえ、講義内容によって決定する場合があります。

【参考書】

小川公代（2021）『ケアの倫理とエンパワメント』講談社、高橋絵里香（2013）『老いを歩む人びと』勁草書房、上野千鶴子他編（2008）『ケアその思想と実践』岩波書店、日本社会福祉学会『社会福祉学』や日本老年社会学会『老年社会科学』掲載論文など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢(70%),課題レポート(30%)によって評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

日本における高齢者福祉論の最新の研究状況、海外（北欧、アジア圏など）の高齢者福祉論との比較研究にも積極的に取り組みたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉

主要業績：

- ・「重なる災害と小さなコミュニティの対応（その2）－ネパールにおけるコロナ感染を経験したコミュニティの高齢者ケア実践－」（共著、現代福祉研究第23号、法政大学現代福祉学部、2023年）
- ・「オランダの高齢者福祉（認知症ケア）の現状について-2028年、2019年視察、2020年COVID-19下のコロナ対策を通じて-」（共著、淑徳大学社会福祉研究所、2022年）
- ・「2016年度学界回顧と展望 高齢者福祉部門」『社会福祉学58-3』（単著、日本社会福祉学会、2017年）
- ・『実践としてのコミュニティ 移動・国家・運動』（共著、京都大学出版会、2012年）

【Outline (in English)】

【Course outline】This lecture will organize various theories on aging and care and understand their characteristics through research in the field related to welfare for the elderly. Furthermore, we will look at future research methodologies in the field of welfare for the elderly.

【Learning Objectives】The aim of this course is to analyze and examine research papers and practical cases on the welfare of the elderly, the culture of aging, and the sociology of gerontology, and to look at the ideal form of welfare research for the elderly.

【Learning activities outside the classroom】Students will read literature on "the elderly" in the fields of cultural anthropology, sociology of aging, and geropsychology, as well as welfare for the elderly, in advance to organize the background and characteristics of issues from the perspective of research on aging and care, and from the perspective of the real world. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each session.

【Grading Criteria/Policies】Students will be evaluated based on their participation in the lecture (70%) and assignment reports (30%).

SOW500J2（社会福祉学 / Social Welfare 500）

高齢者福祉特論

中村 律子

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、高齢者福祉関連分野の研究をとおして、老いやケアをめぐる諸説を整理し、その特質を理解します。さらには、今後の高齢者福祉研究方法論を展望します。

【到達目標】

高齢者福祉論、老いの文化論、老年社会学などに関する研究論文や実践事例を分析検討し、高齢者福祉研究のあり方を展望することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の講義テーマにしたがって、具体的な現実（生きる場としての地域と高齢者の生活世界）のなかから、高齢者福祉研究のあり方（老いと近代社会論、高齢期と家族、社会的ネットワーク、老いとケア）を考察します。また、老いの文化論に関する文献を取り上げ、高齢者福祉研究の議論を深めていくことが狙いです。そのため、授業内発表やディスカッションなどを取り入れます。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、方法授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容及びスケジュール説明、参考図書や文献紹介
第2回	老いと近代化論①	社会福祉学における老いと福祉に関する文献整理
第3回	老いと近代化論②	老いと近代に関する人類学、民俗学、社会学の文献整理
第4回	老いとアイデンティティ	老年心理学、老年精神学が捉える老いとアイデンティティに関する理論整理
第5回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい①	家族や地域の視点で、高齢者の社会活動や生きがいに関する先行研究（人類学、民俗学、社会学など）を整理し議論する
第6回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい②	現代社会における職業、人間関係、社会関係との関連で、生きがいに関する先行研究（社会学、社会福祉学の参考文献）を整理し議論する
第7回	高齢者をとりまく福祉・医療・ケアについて	福祉・医療・ケアに関する諸制度の現状と課題を整理し議論する
第8回	高齢者をとりまく福祉的支援論について	支援困難事例から専門的援助・支援のあり方を検討し議論する
第9回	高齢者福祉制度政策研究①	日本における高齢者福祉制度政策の変遷と到達点を検討し議論する
第10回	高齢者福祉制度政策研究②	近年の高齢者福祉制度政策の発展と課題を、公・共・私の組織論や制度論を中心に検討する
第11回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）①	北欧の高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第12回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）②	アジアの高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第13回	国際比較研究方法論の再検討	諸外国と日本との比較研究と日本の高齢者福祉を展望する
第14回	まとめ	高齢者福祉研究方法論の再構築と今後の研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高齢者福祉に限らず、文化人類学、老年社会学、老年精神学の領域で取り上げられている「高齢者」に関する文献を事前に読み、老いやケアの研究に関する視角ならびに、実社会の中から問題の背景、特質などを整理してください。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しませんが、受講者と相談のうえ、講義内容によって決定する場合があります。

【参考書】

小川公代（2021）『ケアの倫理とエンパワメント』講談社、高橋絵里香（2013）『老いを歩む人びと』勁草書房、上野千鶴子他編（2008）『ケアその思想と実践』岩波書店、日本社会福祉学会『社会福祉学』や日本老年社会学会『老年社会科学』掲載論文など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢(70%)、課題レポート(30%)によって評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

日本における高齢者福祉論の最新の研究状況、海外（北欧、アジア圏など）の高齢者福祉論との比較研究にも積極的に取り組みたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉

主要業績：

- ・「重なる災害と小さなコミュニティの対応（その2）－ネパールにおけるコロナ感染を経験したコミュニティの高齢者ケア実践－」（共著、現代福祉研究第23号、法政大学現代福祉学部、2023年）
- ・「オランダの高齢者福祉（認知症ケア）の現状について-2028年、2019年視察、2020年COVID-19下のコロナ対策を通じて-」（共著、淑徳大学社会福祉研究所、2022年）
- ・「2016年度学界回顧と展望 高齢者福祉部門」『社会福祉学58-3』（単著、日本社会福祉学会、2017年）
- ・『実践としてのコミュニティ 移動・国家・運動』（共著、京都大学出版会、2012年）

【Outline (in English)】

【Course outline】This lecture will organize various theories on aging and care and understand their characteristics through research in the field related to welfare for the elderly. Furthermore, we will look at future research methodologies in the field of welfare for the elderly.

【Learning Objectives】The aim of this course is to analyze and examine research papers and practical cases on the welfare of the elderly, the culture of aging, and the sociology of gerontology, and to look at the ideal form of welfare research for the elderly.

【Learning activities outside the classroom】Students will read literature on "the elderly" in the fields of cultural anthropology, sociology of aging, and geropsychology, as well as welfare for the elderly, in advance to organize the background and characteristics of issues from the perspective of research on aging and care, and from the perspective of the real world. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each session.

【Grading Criteria/Policies】Students will be evaluated based on their participation in the lecture (70%) and assignment reports (30%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

障害者福祉特論

眞保 智子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では障害者の地域での「あたりまえ」の暮らしと社会参加を考える上で重要なトピックである「就労」について注目する。障害者雇用現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援関する諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。

【到達目標】

- ①障害者雇用促進法と障害者雇用率制度を理解する。
- ②就労支援に関わる社会資源や制度を理解する。
- ③障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。
- ④企業やA型事業所における障害者雇用の事例から合理的配慮のプロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用の現状と障害者雇用の根拠法や支援制度についての講義とともに、視聴覚教材やゲストスピーカーによる実践報告やロールプレイなど演習を通して企業やA型事業所における合理的配慮提供の実践力について考察します。また、教室内での講義と演習だけでなく実際に企業やA型事業所等を訪問し、見学と意見交換をさせて頂くことによって、障害者雇用の現場で経営サイドと従業員サイドが抱える課題を理解し、その解決方法について検討します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	障害者雇用の現状	厚生労働省の調査等をもとに現状を把握し、課題を検討する
第2回	雇用率制度と各種支援制度と社会資源	高齢・障害・求職者雇用支援機構の役割と支援サービス提供事業者について理解する
第3回	就労支援の現状	視聴覚教材で障害者雇用の現場の実情を学ぶ
第4回	企業における合理的配慮の提供	ノーマライゼーションを実現するための労務管理を「同僚性」キーワードに理解する
第5回	合理的配慮提供のためのアセスメント	アセスメント方法の講義と演習を通じて学ぶ
第6回	合理的配慮提供のための環境調整①	障害特性の理解と職場における協働について学ぶ
第7回	合理的配慮提供のための環境調整②	障害特性の理解と職場における協働と支援実践について学ぶ
第8回	合理的配慮提供のための環境調整③	障害特性の理解と職場における協働と課題について学ぶ
第9回	障害者雇用の現場理解	A型事業所の見学およびディスカッション
第10回	事例検討①	A型事業所の見学の振り返りとディスカッション
第11回	障害者雇用の現場理解	企業の見学およびディスカッション

第12回	事例検討②	企業の見学の振り返りとディスカッション
第13回	フィールドワーク	各自の興味に応じて障害者雇用の現場での参与観察
第14回	フィールドワーク報告	フィールドワークの振り返りとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

厚生労働省障害者雇用実態調査の通読を行うなど本授業の準備・復習時間は、各4時間を時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定し、資料等も配布します。

【参考書】

中川昭一（2013）『特例子会社における障害者雇用：知的障害者雇用の実践事例』学苑社

中島隆信（2011）『障害者の経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】

proposal paper 50% 講義内での発言と報告50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

障害者福祉政策 障害者雇用・就労支援

< 研究テーマ >

1 障害者の就労とキャリアデザイン

2 障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題

3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar, We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50%) and in-class presentation (50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

生活問題特論**結城 俊哉**

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位
 備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、9月12日（金）・16日（月）・17日（火）。
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本社会における生活問題について検討する。そのための方法として社会問題の反映としての生活問題を構造的に理解する方法と支援の意義について事例を通して学ぶ。

【到達目標】

この授業を通して、個別の生活問題の背景にある社会（病理）問題についてソーシャルワーク的なケアの視点をとおして理解する力を涵養することができる。具体的には、「貧困問題（生活保護・ホームレス・子供の貧困）」、「障害者・高齢者虐待問題」、「差別・偏見（スティグマ）」の問題を事例としながらソーシャルワーク・スキルとしてのアセスメント力、問題解決力を育てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】

本講義は「対面」での開講となります。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本講義は、集中講義ですので、課題解決型学習を取り入れフィールド・ワーク等の体験によるリアクションペーパー及びフィードバックとしての学習課題レポート（まとめ）の提出と発表（報告）が必要となります。さらに、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる各自の研究テーマと関わらせた議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：生活問題とは何か＝	生活問題と社会問題の関係についてケアの視点から検討する。
2	ケアの視点から ケアの担い手が対峙する生活問題と社会病理及び精神病理現象との関係について。	顕在化する生活問題としての社会病理と精神病理の関係とは何かについて考える。
3	生活問題としての「いじめ」問題とのケアの関係	いじめ現象の理解についてその対処方法について検討する。
4	生活問題における「ひきこもり」問題へのケアの視点からのアプローチ	生活問題としての「ひきこもり」現象の意味について考える。
5	生活問題と「非行」問題の関連とケアのアプローチ	非行問題としての「少年非行・少女売春」について検討する。
6	生活問題における「虐待」問題の位置とケアの介入方法	児童虐待・障害者虐待・高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス（DV）等の「虐待」問題の背景について考える。
7	生活問題と「自殺」問題へのケアのアプローチ	日本社会における「自殺」問題は、各世代ごとにことなる背景の意味について検討する。

8	生活問題における「ハラスメント問題とケアと人権について	日常の人間関係における「人権侵害」をハラスメント問題の視点から検討する。
9	生活問題と「嗜癖（アディクション）」問題へのケアの視点	アルコール依存・ギャンブル依存・買い物依存等々の「依存症」問題が描き出す生活問題における社会問題を考える。
10	生活問題としての「貧困・ホームレス」問題	福祉問題の原点でもある「貧困」問題について「生活保護（公的扶助）」の視点から再検討する。
11	生活問題に対処する援助者（ケアの担い手）の視点と役割	ソーシャルワークの視点から生活問題の構造を理解する方法について学ぶ
12	生活問題に向き合う援助者（ケアの担い手）の精神病理について	対人援助職の病理と言われる「バーン・アウト（燃え尽き症候群）」について考える。
13	生活問題と「対象喪失」問題（＝喪の仕事を中心に）へのケアの視点	援助者として「対象喪失」・「メメント・モリ」の問題との向き合い方について検討する。
14	社会問題の構造的変化と生活問題	生活問題解決に向けた諸課題と各自の研究テーマを関わらせた発表（報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、本授業の準備学習・復習時間には、各回4時間を標準とします。その中で、各自の研究テーマ（課題興味・関心）に近いテーマに引きつけながら文献レビュー等の学習を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

結城俊哉著（2022）『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』（初版4刷）高学出版

【参考書】

神谷美恵子（2013）『ケアへのまなざし』みすず書房
 江口英一編（1991）『生活分析から福祉へ～社会福祉の生活理論』（第6刷版）光生館
 社会病理学会監修（2019）『社会病理学の足跡と再構成』学文社
 堤 未果（2023）『堤未果のショック・ドクトリン』幻冬舎新書

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（25%）・中間レポート（25%）・平常点（50%）
 授業における参加度及び授業内容を反映した深く考察力のあるレポート課題の提出によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

生活問題とケア（支援）の方法について履修希望者の興味・関心に応じた講義内容も適宜、計画します。

【Outline (in English)】

Consider living problems in Japanese society. As a method for that, we will learn through examples how to structurally understand life problems as a reflection of social problems and the significance of support.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 25%、Mid-term report: 25%、in class contribution: 50%.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

社会リハビリテーション特論

行實 志都子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リハビリテーションの哲学、歴史、領域、制度、実践を踏まえ、国際的な視点から最先端の研究について学ぶ。

【到達目標】

1. リハビリテーションの哲学と科学について自身の言葉で説明することができる。
2. 社会的リハビリテーションについて、理解し説明することができる。
3. リハビリテーションの研究課題について論じ、解決すべき研究課題について適切な研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。受講生は講義内容に対して口頭で所見を述べる事が求められる。また、グループディスカッションや事例検討などを通して、リハビリテーションについて学ぶ。

講義は、最初に、リハビリテーションの理念に関わる基本概念、およびそれと密接に関連する障害構造論について明確にする。その後、社会的リハビリテーションの授業な視点である、エンパワメント、リカバリー、社会生活力プログラムを学ぶ。最後に、各方面からの社会的リハビリテーションの現状や課題を整理する。受講生は、上記に挙げた3つ到達目標に関する口頭発表及びレポートの提出を求められ、その内容と質について評価を受ける。

課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションと何か	オリエンテーション リハビリテーションの定義 医学的・職業的・社会的・教育的 リハビリテーションの違い
第2回	社会的リハビリテーションの思想と理論の発展	社会的リハビリテーション論の世界的発展の過程
第3回	生活者としての障害者とその権利①	障害者の生活意識 QOLと社会的リハビリテーション
第4回	生活者としての障害者とその権利②	障害者の社会的人権の対応としての社会的リハビリテーション
第5回	社会リハビリテーションを学ぶ視点1	リカバリー概念
第6回	社会リハビリテーションを学ぶ視点2	社会生活力プログラム
第7回	社会リハビリテーションを学ぶ視点3	社会生活スキルトレーニング（SST）
第8回	社会リハビリテーションを学ぶ視点4	当事者研究
第9回	社会リハビリテーションを学ぶ視点5	WRAP
第10回	社会リハビリテーションを学ぶ視点6	心理教育プログラム
第11回	社会リハビリテーションを学ぶ視点7	生活訓練プログラム
第12回	地域に根差したリハビリテーション	地域ネットワーク

第13回	リハビリテーションの最新の動向1	ピアサポート セルフヘルプ
第14回	リハビリテーションの最新の動向2	マインドフルネス オープンダイアローグ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献等を事前学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

社会リハビリテーションの理論と実際 奥野英子著 誠信書房.2007
その他、必要に応じて適宜紹介する。また、資料を配付する。

【参考書】

1. 新・社会リハビリテーション（小嶋蓉子、奥野英子）.誠信書房.1995
2. 社会リハビリテーション論（澤村誠志）.三輪書房.2007
3. リハビリテーションの哲学（八重田淳）. 法律文化社, 2001
4. リハビリテーション連携論（澤村誠志、奥野英子編）、2009
5. Educational Transitions: Moving Stories from around the world. (Jindal-Snape, D.ed.), New York: Routledge. 2009
6. 発達障害支援ハンドブック：医療、療育、教育、心理、福祉、労働からのアプローチ.日本発達障害学会監修、金子書房, 2012
7. 職業リハビリテーション：松為信雄 ジアース教育新社、2024

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20％）講義への参加姿勢（80％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく理解しやすい講義を工夫する。一方的な講義ではなく、学生中心の論議を促し、アクティブラーニングに基づいた授業を進める。それゆえ、学生の皆さんとは、講義内容から触発を受けながらも、その範疇にとらわれない広範な質疑応答と論議のできることを期待している。その意味で、論議への積極的な参加を求めたい。

【その他の重要事項】

精神科病院での精神保健福祉士として急性期病棟、慢性期病棟、デイケアなどの勤務経験があり、行政機関においても障害福祉課において地域生活への支援を行っていたという実務経験がある。

質問等について、メールで受け付ける。タイトルに【法政大学】をつけてください。

yukizane-avs@kuhs.ac.jp

【担当教員の専門分野等】

精神科リハビリテーション、ピアサポート、精神保健福祉士のキャリアラダーに関する研究、

【オフィスアワー】

授業の開始前や教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about cutting-edge research from an international perspective based on the philosophy, history, domain, system, and practice of rehabilitation

(Learning Objectives)

1. To be able to explain the general idea of rehabilitation philosophy and science with your own words.
2. To be able to explain social rehabilitation.
3. To be able to design rehabilitation research by stating research questions and future research issues.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture(two-credits)

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Report 20%and in-class contribution 80%

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

保健医療福祉システム特論

小島 香

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保健・医療・福祉に関連した制度や関係法規、基礎知識や理論についての理解を深め、保健医療福祉行政のマネジメントの視点から、社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。

【到達目標】

- ①保健医療・福祉活動における基本理念と目標について理解し、説明できる。
- ②保健医療と福祉、各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動や福祉政策の実際や動向について理解できる。
- ③行政における保健医療活動や福祉政策の役割と重要性が理解できる。
- ④住民の健康を支え、健康な地域づくりをすすめるための制度や活用方法が理解できる。
- ⑤保健医療に携わる専門職の役割と、連携・協働体制について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義および課題を中心に学生同士で議論をしながら、講義を進めていく。場合によっては受講者に事前課題を与え、プレゼン等、話題提供してもらうこともある。オンラインを基本とする。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義内でその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	保健医療と福祉を学ぶ意義	保健医療福祉活動の基本理念と健康とは何かについて学ぶ。
第2回	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーション	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーションを推進する重要性について学ぶ。
第3回	成人保健と健康増進	健康増進法や健康日本21、生活習慣病対策について学ぶ。
第4回	母子保健と児童福祉	母子保健と児童福祉は密接に関連していることを知り、育児環境整備について学ぶ。
第5回	高齢者保健と介護予防	高齢者の保健事業と介護予防は一体的に進めていけるのか可能性と実際について学ぶ。
第6回	保健医療福祉のチームマネジメント	保健医療福祉専門職の役割を理解し、チームマネジメントについて理解する。
第7回	居住環境と健康	居住環境は健康と福祉に密接に関連することを学ぶ。
第8回	労働衛生と健康	働き方と健康は密接に関連することを学ぶ。
第9回	ソーシャルキャピタルと健康	地域のつながりは健康に関連することを学ぶ。
第10回	国際保健と医療	国際保健と医療の関連について学ぶ。
第11回	健康危機管理Ⅰ～感染症編～	感染症に対する健康危機管理について学ぶ。

第12回	健康危機管理Ⅱ～防災編～	災害に対しての身の守り方、地域協働、健康危機管理について学ぶ。
第13回	地域包括ケアと多職種連携	地域包括ケアの実際と専門職連携の課題について学ぶ。
第14回	住民と協働して地域づくりをすすめるための保健と福祉	住民と地域づくりを進めながら、どうやったら皆と協働して、保健と福祉を推進できるかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はなし。毎回、講義資料を提示し、適宜、参考図書等を紹介

【参考書】

公衆衛生がみえる（医療情報科学研究所）

【成績評価の方法と基準】

レポート50％、講義毎の振り返りシートによる自己評価50％

【学生の意見等からの気づき】

講義後の振り返りで皆さんからの要望を聞いて、随時、講義に反映していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（オンライン学習環境）

【その他の重要事項】

受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course students will learn about systems and related laws and regulations as well as basic knowledge and theories related to health, medical care and welfare. Students will systematically learn the principles and systems of social welfare from the perspective of health and welfare administration management.

Learning Objectives: 1) Understand and explain the basic principles and objectives of health and welfare activities.

2) Understand the structure and function of health and welfare systems and policies and each area, as well as the current situation and trends of health and welfare activities. 3) Understand the role and importance of health and welfare activities and policies in public administration.

3) Understand the role and importance of health activities and welfare policies in public administration. 4) Understand the systems and methods of using them to support the health of residents and promote healthy community development.

5) Understand the role of professionals involved in health and medical care and the system of cooperation and collaboration.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this course is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy: Report 50%, self-assessment 50% by review sheet for each lecture.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ケアマネジメント特論

山井 理恵

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月6日（水）・7日（木）・8日（金）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケアマネジメントの歴史的展開を踏まえながら、その概念とモデルについて理解を図る。そのうえで、先駆的なケアマネジメントの取り組み事例を検討することにより、ケアマネジメントをめぐる課題についての研究スキルを高める。

【到達目標】

ケアマネジメントの概念や歴史的展開、モデルについて説明できる。
ケアマネジメントの実態と課題について説明できる。
各自の研究領域におけるケアマネジメントの研究状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および演習形式にて授業を行います。
また、授業は対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容及びスケジュール説明、参考図書や文献紹介を行う。
第2回	研究テーマとケアマネジメント特論の接点	研究テーマの発表とケアマネジメントの概要と意義について議論する。
第3回	ケアマネジメントの歴史的展開と国際比較	アメリカやイギリスにおけるケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史的展開を踏まえながら、ケアマネジメントの日本における発展経緯および対象と活動を歴史的展開の中で明らかにする
第4回	ケアマネジメントの構造と機能	ケアマネジメントの構造と機能を理解する
第5回	ケアマネジメントプロセス	ケアマネジメントプロセスの理解と課題について解説する
第6回	ケアマネージャーの役割	ケアマネージャーの役割の理解と主任介護支援専門員の課題について解説する
第7回	ケアマネージャーに求められる役割	資格取得の変遷、研修制度や免許更新制度の理解、地域包括支援センターとの関連での役割について解説する
第8回	演習 ケアマネジメントのモデル 仲介モデル他	仲介モデルの視点から、ケアマネジメントを実践事例を通して具体的に理解する

第9回	演習 ケアマネジメントのモデル ストレンレングスモデル他	ストレングスモデルの視点から、ケアマネジメントを実践事例を通して具体的に理解する
第10回	多職種の連携と協働	多様な専門職との連携と協働、および課題について解説する
第11回	演習 多職種の連携と協働をめぐる課題	多職種連携の理念と課題について話し合う
第12回	演習 地域包括ケアシステムとケアマネジメントにおける社会資源開発	地域包括ケアシステムの視点から、地域課題の取り組みや社会資源開発について、先駆的事例を踏まえ、検討する
第13回	演習 事例検討	多領域にわたる事例を踏まえ、ケアマネジメントをめぐる課題について検討する
第14回	まとめ	受講者の研究テーマに即した成果報告とフィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示した文献や課題等をレポートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

一般社団法人日本ケアマネジメント学会、2021、『ケアマネジメント事典』中央法規出版、ISBN 978-4-8058-8386-0 14000円(税別)
日本社会福祉学会『社会福祉学』（英語版含む）、日本地域福祉学会『日本の地域福祉』、日本老年社会学会『老年社会科学』、日本ケアマネジメント学会『ケアマネジメント学』などの掲載論文や行政資料を適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢(70%)、最終レポート(30%)によって評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のための学習支援システム

【その他の重要事項】

担当教員は、病院や社会福祉協議会における実務経験、自治体の高齢者福祉計画・介護保険計画専門部会会長等の経験を有しており、その経験を活かしてケアマネジメントのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】

高齢者福祉領域におけるケアマネジメント、ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This course aims to understand the concept, meaning and model of care management based on historical development of care management. It also enhances the development of students' skills in studying issues of care management, discussing pioneering models.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. to explain the concepts, historical development, and models of care management.
- B.to explain the situation and issues of care management,
- C.to review the development of care management in each research area.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Final reports: 30 %, in class contribution: 70 %

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉経営特論**服部 真治**

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織と経営の基礎理論を学びつつ、福祉サービスの特性や地域マネジメントを理解し、地域や現場で活用できる課題発見、課題解決の型を身に着ける。

【到達目標】

・組織と経営に関する基礎理論を説明できる。
 ・福祉サービスの特性や地域マネジメントの視点を踏まえて、地域や現場の課題を解決できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は用いず、配布資料に基づいて組織と経営に関する基礎理論を講義する。
 また、学習した基礎理論を活用して、実際に各自が直面している現場や地域の課題の解決を目指す課題解決型（PBL）の授業とする。そこで、各自が作成したロジックモデルは複数回、授業内で発表・共有し、継続的に検討することで、相互に学びあい、課題解決力を高めていく。
 なお、リアクションペーパーや課題の内容は適宜、授業内で共有し、議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地域マネジメントが求められる背景	地域包括ケアシステムと地域共生社会、CSWとCSV、コレクティブインパクト
第2回	組織に関する基礎理論①	管理論、人間関係論、近代組織論、意思決定論、現代組織論、主な組織の形態
第3回	組織に関する基礎理論②	モチベーション理論（内容理論、過程理論）
第4回	経営に関する基礎理論①	ガバナンス、経営戦略（SWOT分析）
第5回	経営に関する基礎理論②	経営戦略（PEST分析、PPM、ポジショニング、資源ベース）
第6回	管理運営に関する基礎理論①	PDCAサイクル、ドナベディアモデル
第7回	管理運営に関する基礎理論②	ロジックモデル、アジャイル型政策形成
第8回	集団の力学に関する基礎理論	集団の凝集性、同調圧力、グループとチーム
第9回	リーダーシップに関する基礎理論	特性理論、行動理論、コンティンジェンシー理論、フォロワーシップ理論
第10回	適切なサービス提供体制の確保①	福祉サービスの特性、サービスマネジメント、第三者評価、情報公表
第11回	適切なサービス提供体制の確保② 働きやすい労働環境の整備①	リスクマネジメント、ナレッジマネジメント

第12回	働きやすい労働環境の整備②	キャリア、人事管理
第13回	福祉サービスに係る組織や団体	社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人等
第14回	総括	ロジックモデルの共有、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業後にリアクションペーパーを提出
 ・ミニレポート2題
 ・ロジックモデルを活用し、自身が関わる地域、現場における課題解決に向けて、継続的に検討すること
 ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「マネジメントの航海図—個人と組織の複眼的な経営管理」馬場 杉夫ほか, 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（40％）
 ミニレポート（30％）
 ロジックモデル（30％）

【学生の意見等からの気づき】

経済学や経営学の履修経験がない場合でも理解できるよう、具体例や資料を用いて講義を構成するように配慮している。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題などは学習支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

地域包括ケアシステム, 介護保険制度

【オフィスアワー】

授業終了後にオンラインで質問、相談を受け付ける

【Outline (in English)】

< Course outline >

While learning the basic theories of organization and management, students will understand the characteristics of welfare services and community management, and acquire problem-finding and problem-solving methods that can be used in the community and on the job.

< Learning Objectives >

- Ability to utilize the basic theories of organization and management.
 - Ability to solve community and on-site issues based on the characteristics of welfare services and the perspective of community management.

< Learning activities outside of classroom >

- Reaction papers must be submitted after each class
 - Two mini reports
 - Utilize logic models to continually consider ways to solve problems in the areas and fields in which you are involved.
 - The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each session.

< Grading Criteria /Policy >

- Reaction paper (40%)
 - Mini report (30%)
 - Logic model (30%)

MAN500J1（経営学/Management 500）

ソーシャル・イノベーション特論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0033 地域経営特論」を受講すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える①
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える②
第4回	輪読とディスカッション①（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】

講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にすること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ENG500J1 (その他の工学 / Engineering 500)

住宅政策特論**水野 雅男**

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位
 備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0034 都市・住宅政策特論」を受講すること。
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】

国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】

「世界の空き家対策」 米山秀隆編著、学芸出版社、2018年

「空き家幸福論」 藤木哲也著、日経B P、2020年

【参考書】

「マイホームの彼方に」 平山洋介、筑摩書房、2020年
 「アメリカの空き家対策とエリア再生」 平修久、2020年
 「老いた家、衰えぬ町」 野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
 「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
 『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
 『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.

< Learning Objectives >

This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

内発的農村発展特論

図司 直也

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0035 地域空間学特論」を受講すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、それを乗り越えようと各地で地域づくり活動が先発するフロンティア地域でもある。本講義では、その事例のプロセスや背景にあるカラクリを読み解き、地域づくりにおける内発的発展のあり方を学ぶ。

【到達目標】

本講義では、農山村地域の社会構造や経済構造を読み解き、内発的発展に求められる要素とプロセスデザインを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴Ⅰ	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴Ⅱ	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、事前に目を通し、疑問点や論点を挙げ、授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50％、指摘課題・報告内容50％

【学生の意見等からの気づき】

過年度ではアンケートを実施していないが、毎年の受講者の声を踏まえて、授業内容を改善していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

＜研究テーマ＞ 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

＜主要研究業績＞

『新しい地域をつくる』（共著、岩波書店、2022年）

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will mainly focus on the agricultural and mountainous areas of Japan as an approach to capture the regional space. In the agricultural and mountainous village areas where the population is declining, there are various regional developments, and we will learn from the cases and discuss them.

【Learning Objectives】 Understand the social and economic structures of Japan's rural areas behind the regional space.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare the text in advance and raise questions and issues. After class, look back on the content and sort out the main points. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Discussion : 50%, Report content : 50%.

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域文化と教育特論

杉浦 ちなみ

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0036 地域マネジメント特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。

【到達目標】

本授業では、市民一人ひとりが文化を楽しむ学ぶことで地域がつけられていく道筋について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴Ⅰ	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴Ⅱ	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、担当者はレジュメを用意する。担当者以外はテキスト等に事前に目を通し、疑問点や論点を挙げる。授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50%、指摘課題・報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 教育学、社会教育・生涯学習論、地域文化論

＜研究テーマ＞ 地域文化の伝承に教育・文化行政が果たす役割についての歴史的研究

＜主要研究業績＞

「1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿児島県を事例に―」（教育学研究87(4)、2020）

『地域文化の再創造―暮らしのなかの表現空間』（共著、水曜社、2024）

『地域に根ざす民衆文化の創造―「常民大学」の総合的研究』（共著、藤原書店、2016）

『成人教育と文化の発展』（共訳、東洋館出版社、2016）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will consider the role of culture and education in developing communities through case studies from various regions.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students will be able to learn about the way in which citizens can develop their community through enjoying and learning about culture.

【Learning activities outside of classroom】 The student in charge of reporting will prepare a resume. Other students are required to read the text in advance and raise questions and points to discuss. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following :

in-class contribution : 50%, Report content : 50%

ENV500J1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境社会学特論

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0037 地域環境特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】

地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせる授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範

第13回 生活環境主義の経験 行為論から経験論へ

第14回 生活環境主義の実践 有効性のある政策論への模索性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生一暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

LANe500J1 (英語 / English language education 500)

実用英語講読

高取 康之

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた福祉系、心理系、地域系を含む様々な話題を取り上げ、総合的に英語の読解力を向上させることを主眼とする。最終的に、辞書を使わないで長文の英文をより早く理解出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

英語の文章を辞書に頼らず読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回異なる様々な話題に関する英文を読み込み、日本語に要約してもらう。そして、日本語に要約した内容を都度都度確認し、適切なアドバイスを行う。課題等も適時提示し、内容を確認し、個別に指導する形式でフィードバックする。

*本授業はオンライン授業7回、対面授業7回、計14回で実施します。

*全ての指示はオンラインを申し出しますので、学習支援システムを適時見て、確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方の説明	授業の進め方や、勉強の仕方等を説明します。
第2回	エピソード1	心理系の話題① (プリント配布)
第3回	エピソード2	福祉系の話題① (プリント配布)
第4回	エピソード3	歴史関連の話題① (プリント配布)
第5回	エピソード4	ビジネス系の話題① (プリント配布)
第6回	エピソード5	サイエンス関連の話題① (プリント配布)
第7回	エピソード6	異文化についての話題① (プリント配布)
第8回	エピソード7	心理系の話題② (プリント配布)
第9回	エピソード8	福祉系の話題② (プリント配布)
第10回	エピソード9	ビジネス系の話題② (プリント配布)
第11回	エピソード10	サイエンス関連の話題② (プリント配布)
第12回	エピソード11	心理系の話題③ (プリント配布)
第13回	エピソード12	心理・福祉二つの領域に関連した話題 (プリント配布)
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備学習・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

英文の要約80%

平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

まめに授業支援システムをチェックし学生に対応することの重要性を認識した。

【Outline (in English)】

・ The objective of this class is to improve comprehensive reading

capability. To do so, you will read various kinds of reading materials

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend

4hours to read various English materials regarding this course.

・ Your overall grade in the class will be based on the following summarize the story 80%, in class contribution 20%.

*Every information is going to send through On-Line so please check the learning support system regularly.

LANe500J1 (英語 / English language education 500)

学術英語

山本 五郎

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の文献を研究計画に取り込むためのスキルを身に着けることを目的とする。文献の検索方法や先行研究の扱い方、専門書及び学術論文の輪読、また必要に応じて論文や研究発表のための要旨(abstract)作成のライティングスキル演習等を行う。

【到達目標】

英語で書かれた専門書・研究論文を批判的に読解できるようになること。

英語の論文や研究発表のタイトルの付け方、スライドの構成、参考文献のフォーマットなどについて理解すること。

論文や研究発表の要旨（abstract）が英語で書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトを配布してリーディング及びライティング演習に取り組んでいきます。

課題等に対するフィードバックについては、学習支援システムのコメント欄等に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材・授業内演習についての説明
第2回	Academic reading 1	Selected readings: Online articles
第3回	Academic writing 1	Abstract: Vocabulary items
第4回	Academic reading 2	Selected readings: Research papers
第5回	Academic writing 2	Abstract: Common phrases
第6回	Academic reading 3	Selected readings: Global issues 1
第7回	Academic writing 2	Abstract: Sentence structures
第8回	Academic reading 4	Selected readings: Global issues 2
第9回	Academic writing 2	Voice /Rephrasing
第10回	Academic reading 5	Selected readings: Current social issues in Japan
第11回	Academic writing 2	Tense
第12回	Academic reading 6	Translation
第13回	Academic writing 2	Abstract writing
第14回	Academic reading 7	Summarization

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる題材については予習復習を行うこと。

教材として取り上げる論文や専門書について主体的に選定すること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト,各種学術誌の論文

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%(授業内演習等), レポート等課題50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究トピックと英語力に応じて適宜授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子辞書可）

【Outline (in English)】

This course is tailored for graduate students aiming to enhance their academic reading and writing proficiency. The course materials and topics will align closely with students' individual research interests. Therefore, it's crucial for each student to clearly outline their specific areas of study or research topics within their graduate program during the initial class session. By the end of the course, students will have developed a practical approach to reading English research papers and will be proficient in citing data, suggestions, or findings from previous studies. Additionally, students will gain the ability to compose an abstract for their own research project in English, following the format required by academic journals.

Following each class session, students are expected to dedicate four hours to grasp the course content thoroughly.

Grading will be determined by in-class participation (50%) and reports (50%).

MAN500J1（経営学/Management 500）

地域経営特論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位
 備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0021 ソーシャル・イノベーション特論」を受講すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える①
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える②
第4回	輪読とディスカッション①（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】

講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ENG500J1 (その他の工学 / Engineering 500)

都市・住宅政策特論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0022 住宅政策特論」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】

国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】

「世界の空き家対策」 米山秀隆編著、学芸出版社、2018年

「空き家幸福論」 藤木哲也著、日経B P、2020年

【参考書】

「マイホームの彼方に」 平山洋介、筑摩書房、2020年
「アメリカの空き家対策とエリア再生」 平修久、2020年
「老いた家、衰えぬ町」 野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.

< Learning Objectives >

This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域空間学特論

図司 直也

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0023 内発的農村発展特論」を受講すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、それを乗り越えようと各地で地域づくり活動が先発するフロンティア地域でもある。本講義では、その事例のプロセスや背景にあるカラクリを読み解き、地域づくりにおける内発的発展のあり方を学ぶ。

【到達目標】

本講義では、農山村地域の社会構造や経済構造を読み解き、内発的発展に求められる要素とプロセスデザインを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴Ⅰ	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴Ⅱ	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、事前に目を通し、疑問点や論点を挙げ、授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50％、指摘課題・報告内容50％

【学生の意見等からの気づき】

過年度ではアンケートを実施していないが、毎年の受講者の声を踏まえて、授業内容を改善していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

<研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

<主要研究業績>

『新しい地域をつくる』（共著、岩波書店、2022年）

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】In this lecture, we will mainly focus on the agricultural and mountainous areas of Japan as an approach to capture the regional space. In the agricultural and mountainous village areas where the population is declining, there are various regional developments, and we will learn from the cases and discuss them.

【Learning Objectives】Understand the social and economic structures of Japan's rural areas behind the regional space.

【Learning activities outside of classroom】Prepare the text in advance and raise questions and issues. After class, look back on the content and sort out the main points. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】Discussion : 50%, Report content : 50%.

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域マネジメント特論

杉浦 ちなみ

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0024 地域文化と教育特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。

【到達目標】

本授業では、市民一人ひとりが文化を楽しむ学ぶことで地域がつけられていく道筋について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴 I	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴 II	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通した議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、担当者はレジュメを用意する。担当者以外はテキスト等に事前に目を通し、疑問点や論点を挙げる。授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50%、指摘課題・報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 教育学、社会教育・生涯学習論、地域文化論

＜研究テーマ＞ 地域文化の伝承に教育・文化行政が果たす役割についての歴史的研究

＜主要研究業績＞

「1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿児島県を事例に―」（教育学研究87(4)、2020）

『地域文化の再創造―暮らしのなかの表現空間』（共著、水曜社、2024）

『地域に根ざす民衆文化の創造―「常民大学」の総合的研究』（共著、藤原書店、2016）

『成人教育と文化の発展』（共訳、東洋館出版社、2016）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will consider the role of culture and education in developing communities through case studies from various regions.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students will be able to learn about the way in which citizens can develop their community through enjoying and learning about culture.

【Learning activities outside of classroom】 The student in charge of reporting will prepare a resume. Other students are required to read the text in advance and raise questions and points to discuss. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following :

in-class contribution : 50%, Report content : 50%

ENV500J1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

地域環境特論

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位
 備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0025 環境社会学特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】

地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせる授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範

第13回 生活環境主義の経験 行為論から経験論へ

第14回 生活環境主義の実践 有効性のある政策論への模索性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生一暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた研究計画の作成。

【到達目標】

修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」
とに関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討

第23回 研究構想の基盤作り③ 研究データ収集方法の検討

第24回 研究構想の基盤作り④ 研究データ分析方法の検討

第25回 研究計画書の作成① 研究実施体制の検討

第26回 研究計画書の作成② 研究実施フィールドの確認

第27回 研究計画書の作成③ データ収集のスケジュール検討

第28回 まとめ 研究計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 演習への積極的参加（20％）
2. 演習内課題（60％）
3. 論文構想発表会（20％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】

This course introduces academic writing to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to create a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and presentation (20%), in-class contribution (20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマを決定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定などの研究手法を学ぶ。

【到達目標】

論文作成の基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

事前に課題を提示し、その報告と検討により授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	論文作成の方法①	論文作成の方法の概略を学ぶ
第3回	論文作成の方法②	テーマを設定することの意義を学ぶ
第4回	論文作成の方法③	先行研究を検討することの意義を学ぶ
第5回	論文作成の方法④	研究テーマの絞り方を学ぶ
第6回	関心領域・テーマの検討①	自分が関心がある研究テーマを発表する
第7回	関心領域・テーマの検討②	そのテーマの歴史的意義を検討する
第8回	関心領域・テーマの検討③	そのテーマの現代的意義を検討する
第9回	関心領域・テーマの検討④	そのテーマの国際比較の意を検討する
第10回	先行研究のレビュー①	先行研究（歴史）を検討する
第11回	先行研究のレビュー②	先行研究（現代的意義）を検討する
第12回	先行研究のレビュー③	先行研究（国際比較）を検討する
第13回	先行研究のレビュー④	先行研究（研究方法）を検討する
第14回	中間総括	前期の研究を総括する
第15回	テーマの明確化①	先行研究との関係で研究テーマを絞る
第16回	テーマの明確化②	研究テーマのオリジナリティを明確化する
第17回	テーマの明確化③	予想される成果を整理する
第18回	発表会原稿の作成①	発表原稿のドラフトを作成する
第19回	発表会原稿の作成②	発表原稿のパワーポイントを作成する
第20回	発表会原稿の作成③	発表の読み上げ原稿を作成する
第21回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う
第22回	【論文構想発表会】	発表会で指導する
第23回	論文構想の明確化①	論文の起承転結の承の部分のアウトラインを構想する
第24回	論文構想の明確化②	論文の起承転結の転の部分のアウトラインを構想する

第25回	論文構想の明確化③	論文の起承転結の結の部分のアウトラインを構想する
第26回	論文構想の明確化④	論文の起承転結の起の部分のアウトラインを構想する
第27回	論文構想の明確化⑤	論文の起承転結のつながりを明確化する
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Learn research methods such as reviewing previous studies and setting hypotheses according to the research theme.

The goals of this course are to improve research methods ability.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

岡田 栄作

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を作成する上で核となるリサーチクエスションの作成、研究デザインの構築、文献検索、論文の批判的吟味、データの収集、分析、方法、結果のまとめ方など研究方法論の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ①学術論文の構成を理解している
- ②リサーチクエスションを組み立てることができる
- ③研究デザインを理解している
- ④学術論文を批判的に読むことができる
- ⑤自らでデータを収集し、研究データを適切に管理することができる
- ⑥自らで統計解析ソフトを使いこなし、データを分析することができる
- ⑦研究倫理を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

講義と個人指導を交えた形で進めていきます。修士論文作成のための第1ステージとしての重要な段階であり、研究に対するモラルや倫理規定を理解し、真摯な態度と積極的な意見交換と共に指導教官の助言を定期的に受けることが望まれます。準備段階の成果と今後の研究進展を目的に10月頃に1度、修士論文構想発表会を実施します。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスの実施
第2回	研究とは	どのようなプロセスをたどれば研究と言える成果物が出版できるのか。受講者とともに考える。
第3回	文献検索の方法	どのように文献を収集するか。文献検索の方法を学ぶ。
第4回	リサーチクエスションの組み立て方	研究仮説の立て方を学ぶ。
第5回	先行研究のレビューの仕方	自分の希望研究テーマに関連する文献の収集と整理の仕方を学ぶ。
第6回	量的研究デザインを理解する～横断研究～	横断研究の研究デザインを学ぶ。
第7回	量的研究デザインを理解する～ケースコントロール研究・コホート研究～	ケースコントロール研究とコホート研究の研究デザインを学ぶ。
第8回	質的研究デザインを理解する～現象学的アプローチ～	現象学的アプローチについて学ぶ。
第9回	質的研究デザインを理解する～グラウンデッドセオリーアプローチ～	グラウンデッドセオリーアプローチについて学ぶ。

第10回	混合研究法のデザインを理解する	混合研究法の研究デザインについて学ぶ。
第11回	リサーチクエスションと研究デザインのマッチング	作成したリサーチクエスションに対応した研究デザインを選択する方法を学ぶ。
第12回	研究の批判的吟味	先行研究の批判的吟味の方法について学ぶ。
第13回	先行研究のレビューをまとめる	先行研究を読み、どこが解決している、どこが解決していないのか論点を整理する。
第14回	先行研究のレビューを発表する	レビューを発表することで論点をより明確にする。
第15回	仮説の設定	研究仮説の設定方法について学ぶ。
第16回	研究対象者のペルソナの設定	研究対象者のペルソナを想定する。
第17回	研究のサンプリングの検討	サンプリングの意味と方法について学ぶ。
第18回	研究方法の検討	サンプリングに対応した研究方法を設定する。
第19回	研究データの分析計画の作成	データ分析の計画の立て方について学ぶ。
第20回	論文全体構想の検討	論文全体の構想を練る。
第21回	論文構想の発表	論文の構想をまとめ、プレゼンテーションを行う。
第22回	論文構想の修正	報告した論文構想について、多くの質問や意見を踏まえて修正する。
第23回	論文構想の研究計画への具体化	作成した論文構想について研究計画への落とし込みを行う。
第24回	研究計画作成の基礎	研究計画の作成の仕方を学ぶ。
第25回	研究計画の作成	研究計画を作成する。
第26回	研究対象の選出の検討	調査可能な研究対象の選出方法について学ぶ。
第27回	研究協力者への依頼方法の検討	研究協力者への依頼の仕方について学ぶ。
第28回	倫理審査の意味と方法	倫理審査の書類作成方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究方法に関する図書、統計や分析に用いるソフト関連の概説書などは各個人の努力で事前学習しておいて欲しい。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究方法論に関するテキストは各々の研究の関心領域や研究方法論の概観が出てきてから指定します。

【参考書】

近藤克則（2018）「研究の育て方」, 医学書院

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点・学習態度 30%
- ②提出課題の内容 50%
- ③研究構想までの過程への態度 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を聞きながら進めていきます。

【その他の重要事項】

学生の研究進度によっては計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
<研究テーマ>介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
<主要業績>
『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline (in English)】

・ Course outline

The aim of this course is to help students acquire the basics of research design and research methodologies that are important in writing a dissertation.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to How to write a dissertation

・ Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

・ Grading Criteria /Policies

- ① Learning attitude 30%
- ② Contents of the submitted assignment 50%
- ③ Attitude toward the process up to the research concept 20%

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

高良 麻子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けて、ソーシャルワークの研究方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・論文を作成するために必要な研究方法について理解できる。
- ・自分の研究計画を策定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるだけの基礎を習得できるように、個別やグループ指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行うなどで授業を進める。また、修士論文構想発表会に向けて準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	ソーシャルワーク研究とは	研究とは ソーシャルワーク研究の特徴
第3回	論文とは	論文の構成要素
第4回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報収集：定義
第5回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報収集：実態
第6回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報収集：文献
第7回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第8回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第9回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	リサーチクエスチョンに関する先行研究のレビュー
第10回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	関連領域の先行研究のレビュー
第11回	レビュー論文の検討	レビュー論文の批判的検討
第12回	研究の目的	研究の目的や仮説の設定
第13回	研究方法の決定	研究方法の検討
第14回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究成果の発表
第16回	研究計画の策定①	研究目的や方法の検討
第17回	研究計画の策定②	倫理的配慮の検討
第18回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第19回	発表会原稿の検討	発表会原稿の批判的検討
第20回	発表会原稿の完成	発表会原稿の修正
第21回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第22回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第23回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答の振り返り

第24回	研究計画の修正①	発表会のコメントを踏まえた検討
第25回	研究計画の修正②	研究計画の修正
第26回	研究計画の実施に向けた準備①	倫理的配慮等
第27回	研究計画の実施に向けた準備②	実施準備
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

計画的に修士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題提出 50%
- ・平常点 30%
- ・論文構想発表会 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究に関する知識によって指導の内容を変更する。

【担当者の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）, 42-54, 日本社会福祉学会。

【Outline (in English)】

This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about research methods in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend five hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), in-class contribution (30%), and presentation in the thesis proposal presentation meeting (20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成を目指し、論文執筆の方法を学習するとともに、研究課題の明確化、論文構想を明確化していくことを目的とする。

【到達目標】

修士論文が執筆可能となる文章力、表現力を体得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、論文執筆の方法について学習したうえで、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。次に、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。さらに、研究課題を遂行するための研究アプローチ、調査・分析方法を検討し、修士論文の執筆に向けて論文構想を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	論文作成方法の説明	研究論文についての講義
第3回	論文作成方法の検討	研究手法の選択に関する講義
第4回	論文作成方法に関するディスカッション	論文執筆に関する講義
第5回	論文作成方法の検討	論文作成に関するフリーディスカッション
第6回	関心領域の検討①	関心領域設定についての講義
第7回	関心領域の検討②	関心領域の設定
第8回	研究テーマの検討①	研究テーマ設定についての講義
第9回	研究テーマの検討②	研究テーマの設定
第10回	先行研究のレビューの方法	先行研究の検索方法についての講義
第11回	先行研究のレビューの実際	先行研究の検索の実際
第12回	先行研究のまとめ方	先行研究のまとめ方の検討
第13回	先行研究の報告	先行研究の検討結果発表
第14回	中間総括	研究についてのフリーディスカッション
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明と夏休みの課題についての報告
第16回	論文の方向性について	論文の方向性に関するフリーディスカッション
第17回	研究テーマの明確化①	論文テーマ等についての発表
第18回	研究テーマの明確化②	論文テーマ等の修正
第19回	研究テーマの明確化③	論文のテーマ等の確定
第20回	構想発表会の原稿作成①	原稿作成要領の説明
第21回	構想発表会原稿の作成②	原稿作成と指導

第22回	構想発表会原稿の作成③	原稿の読み合わせと見直し
第23回	構想発表会リハーサル	原稿報告と修正
第24回	【論文構想発表会】	研究論文の具体的内容の発表
第25回	論文構想の明確化①	指摘事項の再検討
第26回	論文構想の明確化②	論文内容の再検討
第27回	論文構想の明確化③	論文の方向性についての報告
第28回	総括	論文作成にむけての総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究領域、関心領域についての先行研究を概観し、不明な点、気づいた点などをまとめ、講義内で発表・説明できるよう学習をすすめておいてください。本講義の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

とくに使用しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加－60％
レポート（発表原稿等含む）－40％

特に、受講生各自の研究報告・論文報告を適切に行えるよう学習を進めておくことが成績評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文についての疑問点を質問しやすいよう環境づくりに努めていく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・ セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ① 自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク、明石書店 2011年
- ② 医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性、ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③ アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題、医療ソーシャルワーク 67号、2019

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

【Learning Objectives】 The purpose is to acquire the writing and expression skills required for a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

眞保 智子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について、論文執筆により研究成果を組織だてて発表できるように研究デザインを行います。

【到達目標】

学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について研究活動を実践し、成果を組織だてて発表できるように研究をデザインする基礎力をつけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

研究のために必要な①主題の選定、②理論・キー概念の把握と検討、③先行研究のレビューと研究意義の検討、④方法論の検討、⑤仮説の構築と検証方法の検討、⑥事例・資料・調査データへの接近を通して論文執筆に向けての準備を進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第2回	論文のジャンル・タイプの検討	学術論文のタイプの検討する
第3回	研究に向けて	何をなぜ、明らかにしたいのか議論する
第4回	先行研究のレビュー（アクセス法）	問題意識に関連する研究へのアクセス法の確認
第5回	先行研究のレビュー（近接領域）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究
第6回	先行研究のレビュー（報告）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究と報告
第7回	先行研究のレビュー（議論）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究の検討と議論
第8回	研究課題の焦点化	何を調査し、何を明らかにしたいのか
第9回	研究課題の検討	理論と独創性の検討
第10回	研究課題の価値	理論と研究意義の検討
第11回	研究課題へのアプローチ	調査の可能性の検討
第12回	研究方法の検討	方法論の検討
第13回	主題の選定	研究テーマの決定
第14回	研究仮説の設定	仮説と検証方法の検討
第15回	中間総括	研究テーマについてディスカッション
第16回	オリエンテーション	秋学期のスケジュールと目標の確認
第17回	問題意識の明確化	なぜ、研究テーマを取り上げるのか
第18回	問題意識の研究課題への返還	研究課題と理論・キー概念の検討

第19回	研究の構想に向けて	研究課題と理論・キー概念と独創性の検討
第20回	研究構想の検討（仮説の構築）	研究仮説と作業仮説の検討
第21回	研究構想の検討（研究手法）	実際に採用する研究手法と想定される結果についての検討
第22回	研究構想の検討（調査対象）	研究フィールドの確認
第23回	研究構想の検討（事前調査）	パイロット・スタディによる仮説構築、検証手法の検討
第24回	研究構想の発表（報告）	研究の全体構想について発表する
第25回	proposalの検討	課題解決のための見直し
第26回	proposal作成	研究対象の再検討
第27回	proposal作成（スケジュール）	研究方法・分析方法の再検討とスケジュール確認
第28回	proposal報告	研究の全体構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めますので、そのためのレジュメや資料を準備して演習に臨むようにしていただきたい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

proposal：40% 演習内報告・発表：60%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用、障害者福祉

<研究テーマ>

- 1 障害者の就労とキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (40%) and in-class presentation (60%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次における修士論文の作成に向け、テーマの設定、先行研究のレビュー、関連データの分析、データの収集と分析方法など、研究の方法について十分な準備を行う。

【到達目標】

自らの研究テーマに関する先行研究を十分にレビューできる。また、研究テーマに関する背景、目的を明らかにし、説明することができる。さらに研究方法に関する知識を広げ、自らの研究テーマに関する適切な研究方法を選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

関心のあるテーマについて、関連するデータや先行研究をレビューし、いまだ明らかにされていない内容を明確にしていく作業を行なう。先行研究のレビュー等のレポートによる報告などによる個別の指導を行う。提出されたレポートや課題については、適宜個別に内容についてのフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の分野と範囲	研究分野と範囲の明確化
第2回	研究の視点と実践の視点	研究の視点と実践の視点の相違
第3回	先行研究レビューの方法	先行研究のレビューの具体的な方法
第4回	先行研究のレビュー①	実際の先行研究のレビューの検討
第5回	先行研究のレビュー②	実際の先行研究のレビューの検討
第6回	先行研究のレビュー③	実際の先行研究のレビューの検討についての報告
第7回	先行研究のレビュー④	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第8回	レビュー論文のまとめ方	レビュー論文の執筆方法
第9回	先行研究のレビュー⑤	実際の先行研究のレビュー論文の検討
第10回	先行研究のレビュー⑥	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第11回	先行研究のレビュー⑦	実際の先行研究のレビューの追加の検討
第12回	先行研究のレビュー⑧	実際の先行研究のレビューの追加についての協議
第13回	先行研究のレビュー⑨	実際の先行研究のレビューの追加についての確認
第14回	先行研究のレビュー⑩	実際の先行研究のレビューの最終確認
第15回	レビュー論文の報告	レビュー論文の報告と検討
第16回	研究の設計方法案について	研究の設計方法案についての報告
第17回	研究の設計方法についての確認	研究の設計方法の検討

第18回	研究倫理について	研究における倫理的配慮
第19回	仮説の構築	仮説の構築方法の検討
第20回	仮説の内容について	仮説の内容について
第21回	データの範囲と収集方法	データの収集方法の検討
第22回	データの具体的な収集方法	データの具体報告方法についての報告検討
第23回	データの収集方法の最終確認	データの収集方法の最終確認
第24回	テーマの背景と意義についての研究指導	実際のテーマに基づく研究内容（背景と意義）
第25回	研究方法についての研究指導	研究方法について研究指導
第26回	結果の分析についての研究指導	結果の分析についての研究指導
第27回	考察についての研究指導	考察についての研究指導
第28回	論文の構成について	論文の構成方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究対象とテーマにより、今回の研究指導までにレポート等によりまとめて報告を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

岩田正美他編著『社会福祉研究法』有斐閣、2006年

【参考書】

研究テーマによって自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、研究画書の作成、レポートの報告とその内容60%により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その実践経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店、2022年
- ・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店、2020年
- ・『仮設住宅 その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房、2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンでレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表・共著）中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳、丸善出版、2012年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』（共著）中央法規、2014年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『新版コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善出版、2012年

【Outline (in English)】

【Course outline】

For its own research subject, it guides some advice in the setting subject, the research way and so on appropriately. Then it creates the research paper. Of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data

B. Students can make sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom)】

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on the quality of the students' experimental performance in the lab (40 %) , and research paper(60 %)

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆をめざす。

【到達目標】

論文演習Ⅰにおいて構想した研究デザインを明確化し、必要な研究データの収集・分析を行い、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究計画の進捗状況を確認することから始め、次に、研究データの分析を進めながら、先行研究のレビューの執筆を進める。秋学期に入ってから、研究データの考察を行いながら論文構想を確定させ、論文執筆を開始する。

オンラインまたは対面での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期目標の明確化
2	研究データの分析①	データの収集と分析方法
3	研究データの分析②	データの全体的分析
4	研究データの分析③	データの簡略化作業
5	研究データの分析④	データの信頼性の検討
6	研究データの分析⑤	分析結果の考察①
7	先行研究との比較①	分析結果の考察②
8	先行研究との比較②	隣接領域文献との比較
9	先行研究との比較③	関連領域文献との比較
10	先行研究との比較④	隣接領域論文との比較
11	先行研究との比較⑤	関連領域論文との比較
12	論文構想の確定①	全体のアウトライン検討
13	論文構想の確定②	各章における節立ての検討
14	論文構想の確定③	目次（第一次案）の確定
15	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
16	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
17	論文構成の検討	オリジナリティの検討
18	引用文献の確認①	本論概説箇所について
19	引用文献の確認②	本論調査箇所について
20	引用文献の確認③	考察・結論箇所について
21	引用文献の確認④	全体にわたっての確認
22	論文執筆指導①	序論について
23	論文執筆指導②	本論概説箇所について
24	論文執筆指導③	本論概説箇所について
25	論文執筆指導④	考察・結論について
26	論文執筆指導⑤	全体にわたって
27	論文執筆指導⑥	推敲、校正
28	口頭試問対策①	要旨の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（20％）
2. 修士論文（80％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
 <研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】

This course enhances the development of students' skill in making academic papers. At the end of the course, students are expected to write a master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (20%), and the quality of the students' master's thesis (80%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に取りかかり、完成させることを目的とする。

【到達目標】

受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を身につけ、論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

確定した研究テーマについて、再度検証し、研究方法やデータ分析の技法が研究内容に適しているかを確認したうえで、論文の作成が可能となる指導を行う。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	先行研究の検証①	論文内の先行研究の検討
第3回	先行研究の検証②	論文内の先行研究の妥当性
第4回	先行研究との比較検討①	隣接領域文献との比較
第5回	先行研究との比較検討②	比較検討の結果の検証
第6回	研究データの分析①	データ全体の俯瞰
第7回	研究データの分析②	データの簡略化作業
第8回	研究データの分析③	データの信頼性の検討
第9回	研究データの分析④	データの妥当性についての検討
第10回	研究データの分析⑤	データ分析結果の考察
第11回	研究データの分析⑥	分析結果と考察内容の関連性の検討
第12回	考察の検討①	分析に基づく考察の検討
第13回	考察の検討②	考察の最終確認
第14回	中間総括	春学期の研究の成果を発表
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	論文基礎資料の確認	基礎資料の正確性
第17回	論文執筆指導①	全体のアウトライン検討章立ての検討
第18回	論文執筆指導②	各章における節立ての検討
第19回	論文執筆指導③	目次の確定
第20回	論文執筆指導④	序論の検討
第21回	論文執筆指導⑤	本論の検討
第22回	論文執筆指導⑥	考察・結論の検討
第23回	論文執筆指導⑦	全体にわたっての確認
第24回	引用文献の確認①	序論・本論概説箇所について
第25回	引用文献の確認②	考察、結論について
第26回	引用文献の確認③	全体にわたっての確認
第27回	最終稿の検討①	推敲、校正
第28回	最終稿の検討②	論文要旨の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、プレゼンテーションに備えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（50％）。
2. 修士論文（50％）の執筆。具体的な方法と基準は、授業開始日に説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の論文執筆に関する疑問や課題を受け止めて、解決できるよう共に考えることを行うよう努めていく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク, 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性, ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題, 医療ソーシャルワーク 67号, 2019

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

【Learning Objectives】 Achievement goal is completion of master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

論文研究演習Ⅱ

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を舞台としてフィールドワークを行い、地域ツーリズムや地域づくり、地域の環境政策にかかわる修士論文を執筆するための環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目的としている。

【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で進める。主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構成（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構成（2）	方法論や調査技法の確認
第4回	論文の構成（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構成（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構成（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構成（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構成（7）	分析の問題点の検証
第9回	論文の構成（8）	研究の意義と限界の検討
第10回	先行研究のレビュー（1）	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（2）	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第12回	先行研究のレビュー（3）	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第13回	先行研究のレビュー（4）	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第14回	中間まとめ	研究の知見と独自性について討議
第15回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第16回	調査データの分析（2）	データの解釈
第17回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第18回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第19回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第20回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第21回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第22回	論文執筆（4）	目次の確定
第23回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈

第24回	論文執筆（6）	分析結果の再検討
第25回	論文執筆（7）	結論の見通しの再検討
第26回	論文執筆（8）	理論仮説と作業仮説の再検討
第27回	論文執筆（9）	論理構成の再検討
第28回	修士論文の完成	学問の実践性の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に伴う研究テーマ、対象の設定、研究方法等について、研究の過程において適宜研究報告をもとに研究指導を行い、修士論文の作成を行う。

【到達目標】

自らの研究テーマについて、適切な研究方法を用いて研究を進め、文章等により根拠を示し、結論と研究の成果等を表現できる。研究の目的と内容、結論等を説得力のある報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。提出された課題や報告等について、適宜個別にその内容について、フィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマについての報告と指導	テーマについての報告
第2回	テーマについての協議	テーマについて協議と確認
第3回	研究対象について	研究対象についての報告
第4回	研究対象についての協議	研究対象についての協議と確認
第5回	先行研究の調べ方	先行研究について調べ方
第6回	先行研究についての報告	先行研究についての協議と確認
第7回	先行研究のレビューのまとめ方について	先行研究のレビューのまとめ方の指導
第8回	データの収集方法	データの収集方法についての指導
第9回	データの収集方法についての報告	データの収集方法についての協議と確認
第10回	データの具体的な収集方法	データの具体的な収集方法についての報告
第11回	データの具体的な収集方法についての報告	データの具体的な収集方法についての協議
第12回	データの具体的な収集方法の確認	データの具体的な収集方法の確認と指導
第13回	データの分析方法について	データの分析方法についての指導
第14回	データの分析方法の報告	データの分析についての協議と確認
第15回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題に向けて
第16回	データの分析結果について	データの分析結果についての報告
第17回	データの分析結果の報告	データの分析結果についての協議、指導
第18回	データの分析結果の確認	データの分析結果についての確認
第19回	研究の結果について	結果についての報告、指導

第20回	結果についての確認	結果についての協議と確認
第21回	考察について	考察についての報告、指導
第22回	論文の構成と内容	論文の構成と内容についての報告
第23回	論文のまとめに向けて	論文の構成と内容についての協議
第24回	構成と内容の確認	論文の構成と内容についての検討と確認
第25回	構成と内容の最終確認	論文の構成と内容についての最終的な確認
第26回	完成に向けての確認	完成に向けての協議
第27回	論文の完成に向けて	完成に向けた確認と指導
第28回	論文の最終確認	完成に向けての最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、各自が与えられた課題について、十分に報告できるように準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、研究に関するレポート等60％により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業ではその経験を活かし助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉論

〔主要研究業績〕

・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2021年
 ・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2020年,
 ・『仮設住宅 その10年 陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
 ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進的事例－』（共編著）中央法規,2018
 ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表、共著）、中央法規、2017年
 ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
 ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、2014年
 ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版,2012年
 ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
 ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
 ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007年
 ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
 ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000

【Outline (in English)】

【Course outline】

For its own research subject, it guides an advice in the setting

subject, the research way and so on appropriately. Then it creates the research paper. Of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data

B. Students can make sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on the quality of the students' experimental performance in the lab (40 %) , and research paper (60 %)

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた調査計画の作成。

【到達目標】

修士論文の作成に必要なデータを収集するために、調査計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の調査関心を明確化することから始め、次に、先行調査データのレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に調査課題を絞り込み、秋学期に入ってから、調査目的を明確化するとともに、調査実施の基盤を確定させ、調査計画書の作成に取りかかる。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	調査関心の明確化①	調査関心の列挙
第3回	調査関心の明確化②	調査関心のグループ化
第4回	調査関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	調査関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行データのレビュー①	隣接領域の文献
第7回	先行データのレビュー②	関連領域の文献
第8回	先行データのレビュー③	隣接領域の論文
第9回	先行データのレビュー④	関連領域の論文
第10回	調査課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	調査課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	調査課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	調査課題の絞り込み④	調査実施フィールドの検討
第14回	調査課題の絞り込み⑤	調査仮説の検討
第15回	中間総括	春学期を通じて明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	調査目的の明確化①	調査の具体的目的の列挙
第18回	調査目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み

第19回	調査目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	調査目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	調査構想の基盤作り①	調査仮説の明確化
第22回	調査構想の基盤作り②	調査手法（量的、質的等）の検討
第23回	調査構想の基盤作り③	調査データ収集方法の検討
第24回	調査構想の基盤作り④	調査データ分析方法の検討
第25回	調査計画書の作成①	調査実施体制の検討
第26回	調査計画書の作成②	調査実施フィールドの確認
第27回	調査計画書の作成③	調査対象者の確認
第28回	まとめ	調査計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 演習への積極的参加（50％）
2. 調査計画書（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援N G Oソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
 ＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental of academic research to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

実践研究演習 I

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータの収集に必要な研究手法を学ぶ。

【到達目標】

データ収集のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」
とに関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに即したデータ収集の方法の検討を行い、データの収集
を行うための準備を行う。課題に対しては、授業中にコメントする
などのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	データ収集の方法 1	統計調査と事例調査について学 ぶ
第3回	データ収集の方法 2	標本調査の技法について学ぶ
第4回	データ収集の方法 3	データ収集技法について学ぶ
第5回	データ収集の方法 4	質問紙・調査票の作成方法を学 ぶ
第6回	研究テーマと手法の 検討 1	訪問面接、インタビュー調査の 特質を学ぶ
第7回	研究テーマと手法の 検討 2	参与観察調査の特質を学ぶ
第8回	研究テーマと手法の 検討 3	フィールド調査の方法・技術を 学ぶ
第9回	研究テーマと手法の 検討 4	データ解析の技法を学ぶ
第10回	関連研究方法のレ ビュー 1	量的調査の代表的研究方法をレ ビューする
第11回	関連研究方法のレ ビュー 2	研究テーマに沿った量的調査の 研究方法をレビューする
第12回	関連研究方法のレ ビュー 3	質的調査の代表的研究方法をレ ビューする
第13回	関連研究方法のレ ビュー 4	研究テーマに沿った質的調査の 研究方法をレビューする
第14回	中間総括	中間の総括を行う
第15回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第16回	研究仮説の検討 1	研究仮説を考える
第17回	研究仮説の検討 2	研究仮説を立証するために必要 な方法を考える
第18回	研究仮説の検討 3	研究仮説を立証するために必要 なデータを考える
第19回	研究仮説の検討 4	研究仮説を確定する
第20回	研究フィールドの検 討 1	データ収集のためのフィールド を検討する
第21回	研究フィールドの検 討 2	データ収集が可能な施設等を検 討する
第22回	研究フィールドの検 討 3	データ収集が可能な施設の実践 等を観察する
第23回	研究フィールドの検 討 4	データ収集のためのフィールド を確定する

第24回	研究方法の明確化 1	研究方法を具体的に検討する
第25回	研究方法の明確化 2	研究方法を具体的に検討し、調 査票を設計する
第26回	研究方法の明確化 3	調査票による予備的調査を行う
第27回	研究方法の明確化 4	研究方法を確定する
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各回
4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)により行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Learn the skills of data collection.

The goals of this course are to improve the skills of data
collection.

Students will be expected to have completed the required
assignments
after each class meeting. Your study time will be more than
four hours
for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the
following in
class contribution: 100%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習 I

岡田 栄作

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデーターを収集し、分析計画を立てる。論文作成に向けて適切な方法論を用いてデーター分析を実施する。分析した結果を適切に解釈し、考察する力を養う。

【到達目標】

- ①研究テーマに沿って適切な研究方法の選択と分析ができる
- ②分析した結果を適切に解釈できる
- ③考察の意味を理解している
- ④論文を投稿する形式やプロセスを理解し、査読者と論文内容を議論する方法を知っている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

実際に研究に必要なデーター収集をフィールドに赴き実施する。プレテスト段階では特に指導教官よりフィードバックを定期的に行いながら、調査・研究で得たデーターの妥当性や信頼性を十分に配慮し、研究の本番に向けてフィードバックする。最終的には研究デザインの決定をおこない、本番の研究段階に進み論文作成に向けて適切な方法論を用いてデーター分析を実施する。分析した結果を解釈し、考察にまとめ、論文を学術雑誌に投稿する。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究データの収集方法論	研究データを収集するための方法論を学ぶ。
第2回	実例から学ぶ研究データの収集	実際に調査をした実例を参考にデータ収集の際の注意点を学ぶ。
第3回	データ収集計画の作成	分析を見通した上で、研究データの適切な収集計画を作成する。
第4回	分析計画の作成	分析計画を作成する。
第5回	研究協力機関へのヒアリング	研究協力先とアポイントメントを取り、調査に必要なプロセスの確認を行う。
第6回	研究成果還元の方法論	研究結果をどのように研究協力先へ還元するかを学ぶ。
第7回	研究協力者への同意事項の確認と同意書の作成	研究協力者への同意事項を確認し、同意書の作成を行う。
第8回	研究協力機関への調査内容の報告・検討	どのような調査を行うか調査内容を報告し、調査内容の検討を行う。
第9回	調査概要の決定	調査の概要を決定する。
第10回	調査項目の先行研究の検討	調査項目の先行研究について検討する。
第11回	質問紙調査の項目の作り方	調査の質問項目の作成方法について学ぶ。
第12回	調査票の信頼性と妥当性	調査票の信頼性と妥当性について検討する。
第13回	調査項目の検討	調査項目の選定・検討を行う。

第14回	調査項目の決定と調査票の作成	調査項目を決定し、調査票を作成する。
第15回	プレテストの計画	プレテストの計画を作成する。
第16回	プレテストの実施	プレテストを実施する。
第17回	プレテストデータの集計	プレテストの結果を集計し、結果の検討を行う。
第18回	調査フィールド先との調整	調査フィールドとの調整を行う。季節や期間、行事等相手の都合やデータ収集の適切なタイミングの検討を行う。
第19回	データ収集期間の決定	データ収集の具体的な日時を決定し、プロセスの確認を行う。
第20回	被験者へのアプローチ方法	データ収集の際、計画以外の状況が発生した場合の連絡方法、協力者への説明や感謝の方法等を確認する。
第21回	データ入力の手続き	データを表計算ソフトに入力し、コーディングを行う。
第22回	記述統計の作成方法	対象者の特徴を分析する手法を学ぶ。
第23回	多変量解析の用い方	分析データを作成し、多くの変数を用いる分析手法を学ぶ。
第24回	結果の解釈	結果の解釈について言い過ぎていないか。先行研究との比較等を行う。
第25回	考察のまとめ方	考察の書き方について学ぶ。
第26回	全体推敲	研究目的、研究方法、結果について正確な論文の記述を見直す。
第27回	論文投稿	論文を投稿する上で必要な知識を理解する。
第28回	査読者への対応	投稿した論文の査読結果を共有し、返答の仕方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な研究活動段階に入る。場合によっては、指導者から離れて単独に行動が始まる段階である。事前に面接や交渉のトレーニングを十分におこない、データーの収集に関しては不測の事態も起こりやすいので、柔軟な対応が求められる。またデーター管理には細心の注意を払うことを自覚して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①学生の自己評価 20%
 - ②課題に対する取り組み 20%
 - ③提出物の内容 60%
- 上記を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を聞きながら進めていきます。

【その他の重要事項】

学生の研究進度によっては計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
<研究テーマ>介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
<主要業績>
『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline (in English)】

・ Course outline

The aim of this course is to collect the data necessary for the research and make an analysis plan.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to develop the ability to properly interpret and consider the results of analysis.

・ Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

・ Grading Criteria /Policies

① Student self-evaluation 20%

② Efforts to address issues 20%

③ Contents of submission 60%

Comprehensively evaluate the above.

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

実践研究演習 I

高良 麻子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータ収集の方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・研究を進めために必要なデータの収集方法を理解する。
- ・データ収集を行うことができるようになる。
- ・倫理的配慮について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」
とに関連

【授業の進め方と方法】

自分の研究テーマにもとづいたデータを収集できるように、個別や
グループ指導を行う。計画したうえで、実際にデータ収集を行う。
授業ごとのリアクションをもとに、次の授業にフィードバックしな
がら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	実践研究の方法	実践研究の位置づけと方法
第3回	データ収集の方法	データ収集方法の概要
第4回	質問紙調査法	質問紙調査法の概要
第5回	文献・記録調査法	文献・記録調査法の概要
第6回	事例研究の方法	事例研究の概要
第7回	インタビュー調査法	インタビュー調査法の概要
第8回	観察調査法	観察調査法の概要
第9回	アクションリサーチ	アクションリサーチの概要
第10回	データ収集方法の位 置づけ	論文のレビューによる研究目的 と調査方法の関係の理解
第11回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査 方法の検討
第12回	調査計画の策定②	調査対象の選定
第13回	調査計画の策定③	調査における倫理的配慮の検討
第14回	中間総括	振り返りと発表
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	調査計画の見直し①	調査計画の再検討
第17回	調査計画の見直し②	調査計画の修正
第18回	調査計画の策定	見直し等にもとづく調査計画の 策定
第19回	倫理計画	倫理的配慮の検討
第20回	調査計画実施の準備 ①	実施書等
第21回	調査計画実施の準備 ②	調査実施の練習
第22回	調査計画実施の準備 ③	調査実施のリハーサル
第23回	パイロット調査実施 準備	パイロット調査のリハーサル
第24回	パイロット調査実施	フィールドでのパイロット調査 の実施
第25回	パイロット調査の振 り返し	調査実施概要の報告と振り返り
第26回	パイロット調査結果 の分析	調査結果の分析

第27回 調査計画の見直し パイロット調査を踏まえた調査
計画の再検討

第28回 総括 振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

計画的に研究を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等
の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深
める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各回4時
間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題提出 50%
- ・平常点 30%
- ・パイロット調査 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の調査に関する理解度に応じて指導を変更する。

【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデ
ル―「制度からの排除」への対処』中央法規.

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクシ
ョンの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】

This course is a two-semester integrative practice course.
Students will use the seminar format to learn how to collect
data for research in social work. Before/after each class
meeting, students will be expected to spend four hours to
understand the course content. Grading will be decided based
on reports (50%) , in-class contribution (30%), and presurvey
(20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを目指す。

【到達目標】

データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第3回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第4回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第5回	データ収集の実際	データ収集の実際についてDVDで学習する
第6回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第7回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第8回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第9回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性について報告
第10回	関連研究方法のレビュー①	関連研究法に関する講義とディスカッション
第11回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第12回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第13回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第14回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明
第16回	研究仮説の検討①	研究仮説に関する説明
第17回	研究仮説の検討②	研究仮説の立て方
第18回	研究仮説の検討③	受講生の研究内容の検討
第19回	研究仮説の検討④	受講生の研究内容についての議論
第20回	研究仮説の報告	各自の研究仮説についての報告
第21回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第22回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション

第23回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第24回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第25回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第26回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第27回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第28回	総括	研究の方向性についての確認と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点－60%

課題への取り組み・提出課題－40%

特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号. 2019

【Outline (in English)】

【Course outline】This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

【Learning Objectives】The goal is to acquire research methods.

【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習 I

眞保 智子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な調査や実践を通して、論文執筆に必要な調査データの収集を行います。

【到達目標】

研究課題に答える社会調査を実践し、研究活動を自ら遂行する基礎を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下について演習を行います。①問題意識の研究課題への変換、②研究テーマに関する主要文献の収集・把握・理解、③先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築、④研究課題の探求に適切な研究方法の選択・実践、⑤研究課題の探求に適切な研究対象へのアクセス、⑥理論やデータに基づくオリジナルな発見事実・仮説の提起⑦7研究成果の理論的貢献、実践的貢献、および研究の限界の説明。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第2回	調査の前に	問題意識の確認と課題の共有
第3回	先行研究のレビュー	主要文献の収集
第4回	主要文献の検討	主要文献の収集・把握・理解
第5回	先行研究のレビュー（仮説構築へ）	先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築
第6回	先行研究のレビュー（研究方法の検討）	研究方法の選択・妥当性の検討
第7回	質的調査手法の理解	エスノグラフィックアプローチ
第8回	質的調査手法の検討	クリニカルアプローチ
第9回	質的調査準備	調査対象の検討・選定
第10回	質的調査準備（情報収集）	調査対象の内実と周辺情報の収集
第11回	質的調査の検証法	仮説と想定される結果の検討
第12回	量的調査手法	既存データ利用による調査
第13回	量的調査手法の実践	アンケート調査の実践
第14回	量的調査手法の設計	解析方法と調査設計
第15回	中間総括	調査計画の発表とパイロットスタディに向けて
第16回	オリエンテーション	春学期の振り返りとスケジュールの確認
第17回	パイロットスタディの報告	パイロットスタディの結果を発表
第18回	パイロットスタディを用いての議論	仮説構築の妥当性をディスカッション
第19回	パイロットスタディから研究の検討	研究対象の再検討
第20回	パイロットスタディから研究手法の検討	研究手法の再検討

第21回	調査の実践	対象へのアクセス（調査・データ収集）
第22回	調査の実践（データ収集）	対象へのアクセスと報告
第23回	調査の実践（報告）	対象へのアクセスと発表
第24回	調査の実践（修正）	対象へのアクセス（コメントをもとに修正）
第25回	調査の実践報告と研究方法の検討	データ収集のスケジュール確認
第26回	調査の実践報告と研究方法の検討（手法の検討）	データ分析手法の妥当性の検討とスケジュール確認
第27回	調査の実践報告と研究方法の検討（独創性）	データを分析し独創性を検討
第28回	調査の実践報告と研究方法の検討（課題）	研究課題と調査・分析手法と得られる結果から課題と限界を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究デザインに基づきデータの収集を進め、演習では必ず検討のため報告を求めるので、レジュメや資料を用意して演習に臨む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【参考書】

研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告・発表：100%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on presentation (100%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の現場における実習や修士論文作成のためのデータの収集方法について理解し、フィールドを設定する。そして、実際にフィールドに参与し実践能力を高めるとともに、修士論文に必要なデータの収集を行う。

【到達目標】

適切な方法で、一連のフィールドワークを行うことができる。フィールドワークで得たデータを分析し、適切に研究に活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関心のある領域や修士論文のテーマに関連したフィールドについて情報を収集し、実際の実習やデータ収集の方法を検討する。その上でフィールドに継続的に関わり、実践的な能力を高めるとともにデータ収集を行う。方法は、個別のスーパービジョンにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークの目的と方法について	フィールドワークの目的と方法についての検討
第2回	フィールドの選択について	フィールドの選択の検討
第3回	フィールドの選択について確認	フィールドの選択の検確認確認
第4回	フィールドワークの内容について	実際の内容と方法の検討
第5回	フィールドワークの報告	実際の内容と方法についての報告と検討
第6回	初期スーパービジョン①	初期フィールドワークの経過報告
第7回	初期スーパービジョン②	初期フィールドワークの内容検討
第8回	初期スーパービジョン③	初期フィールドワークの確認
第9回	初期スーパービジョン④	初期フィールドワークの振り返り
第10回	中期スーパービジョン①	中期フィールドワークの目標設定
第11回	中期スーパービジョン②	中期フィールドワークの報告と検討
第12回	中期スーパービジョン③	中期フィールドワークの検討
第13回	中期スーパービジョン④	中期フィールドワークの報告
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと振り返り
第15回	中期スーパービジョン⑤	中期フィールドワークの報告
第16回	中期スーパービジョン⑥	中期フィールドワークの報告と検討
第17回	中期スーパービジョン⑦	中期フィールドワークの再検討

第18回	中期スーパービジョン⑧	中期フィールドワークのまとめに向けて
第19回	中期スーパービジョン⑨	中期フィールドワークの振り返り
第20回	後期の目標設定と方法	後期のフィールドワークの目標の設定の検討
第21回	後期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際
第22回	後期スーパービジョン②	後期フィールドワークの報告
第23回	後期スーパービジョン③	後期フィールドワークの報告と検討
第24回	後期スーパービジョン④	後期フィールドワークの振り返り
第25回	後期スーパービジョン⑤	後期フィールドワークのまとめ
第26回	後期スーパービジョン⑥（まとめに向けて）	フィールドワークの全体報告と振り返り
第27回	後期スーパービジョン⑦（まとめに向けて）	フィールドワークのまとめ方について
第28回	フィールドワークのまとめの報告	フィールドワークのまとめの報告と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けた報告を、フィールドワークに関する記録やレポートとしてまとめ準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京書籍,2008年
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社,2008年
萱間真美『質的研究実践ノート』医学書院,2007年
筒井真優美『アクションリサーチ入門』ライフサポート社,2010年

【成績評価の方法と基準】

平常点40%とフィールドワークの内容とレポート60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、中央法規、2014年
『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』丸善出版、2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline (in English)】

【Course outline】

It sets a field to create research paper and to improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyze a case in the field.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can improve practice skill, and collect the data in take

field,also, analyze a case in the field.

B. Students can makes sentences as the research paper.

[Learning activities outside of classroom]

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文に必要なデータの収集および分析を行う。

【到達目標】

実践研究演習Ⅰにおいて構想した研究デザインを明確化し、研究データの収集・分析を行い、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化し、春学期中には、論文構想の確定作業を終える。秋学期からは、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。オンラインまたは対面での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期目標の明確化
2	データ分析方法の検討①	データの記録と文書化
3	データ分析方法の検討②	量的調査結果の分析①
4	データ分析方法の検討③	量的調査結果の分析②
5	データの質的分析①	逐語録の読み込み①
6	データの質的分析②	M-G-T-Aによる分析の検討
7	データの質的分析③	カテゴリカルコンテンツ分析
8	データの質的分析④	ホリスティックフォーム分析
9	データの質的分析⑤	会話・ディスコース分析
10	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
11	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
12	先行データとの比較③	関連領域文献との比較
13	先行データとの比較④	関連領域論文との比較
14	先行データとの比較⑤	オリジナリティの明確化
15	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
16	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
17	分析結果の検討①	量的データの結果について①
18	分析結果の検討②	量的データの結果について②
19	分析結果の検討③	質的データの逐語録について
20	分析結果の検討④	質的データの分析結果について
21	参考文献の確認①	量的データの結果について
22	参考文献の確認②	質的データの結果について
23	参考文献の確認③	全体にわたって分析結果の妥当性・信頼性・客観性の検討
24	論文執筆指導①	量的データに基づく考察
25	論文執筆指導②	質的データに基づく考察

26	論文執筆指導③	研究結果の理論化作業①
27	論文執筆指導④	研究結果の理論化作業②
28	論文執筆指導⑤	研究結果の理論化作業③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（20%）
2. 修士論文（80%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

< 研究テーマ > マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】

This course enhances the development of students' skill in data collection and analysis for making academic papers. At the end of the course, students are expected to write a master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (20%), and the quality of the students' master's thesis (80%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けて、調査データの多角的な分析を実施する。

【到達目標】

研究テーマに即したデータ分析手法を使用して、自らの研究に応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化していく。秋学期は、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	データ分析方法の確認	逐語記録の整理
第3回	データ分析方法の検討①	逐語記録の確認
第4回	データ分析方法の検討②	逐語記録の読み込み
第5回	データの質的分析①	カテゴリーの生成について
第6回	データの質的分析②	カテゴリーの生成の実際
第7回	データの質的分析③	分析手順の確認
第8回	データの質的分析④	カテゴリカルコンテンツ分析
第9回	データの質的分析⑤	ホリスティックフォーム分析
第10回	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
第11回	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
第12回	先行データとの比較③	文献検討
第13回	先行データとの比較④	オリジナリティの明確化
第14回	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
第15回	オリエンテーション	執筆スケジュールの確認
第16回	データの確認	論文データの確認
第17回	分析結果の最終確認	分析結果と結論について
第18回	考察の最終確認	分析結果と考察について
第19回	論文構成の最終確認	全体にわたっての確認
第20回	論文執筆指導①	質的データの逐語録について
第21回	論文執筆指導②	質的データの分析結果について
第22回	論文執筆指導③	分析結果の妥当性について
第23回	論文執筆指導④	分析結果の信頼性について
第24回	論文執筆指導⑤	質的データに基づく考察
第25回	論文執筆指導⑥	質的データの逐語録
第26回	論文執筆指導⑦	質的データのM-G-T-A分析結果
第27回	論文執筆指導⑧	質的データのC-C-H-F分析結果
第28回	総括	論文の仕上げと要旨の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、予定を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（50％）。
2. 修士論文執筆（50％）。

なお、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。具体的な方法と基準は、授業開始日に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の論文課題について指導を行うとともに、論文内で使用しているデータの課題などをともに洗い出し、論文の完成までのサポートを行うよう努めていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク, 明石書店 2011年

②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性, ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.

③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題, 医療ソーシャルワーク 67号, 2019

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

【Learning Objectives】 The goal is to acquire research methods

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 The grades are the content of the presentation (50 %) and the master's thesis (50 %) .

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会をフィールドとした修士論文の作成に向けて、実践的なフィールド調査の技法および専門的な論文執筆の作法を習得することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法および論文執筆の作法を身につけることができる。環境社会学・地域社会学の方法論をマスターし、完成の高い修士論文を執筆することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と目標設定
第2回	研究課題の設定（1）	研究課題と方法論の検討
第3回	研究課題の設定（2）	論敵の設定
第4回	研究課題の設定（3）	研究史の構想
第5回	質的調査の方法（1）	民俗学や文化人類学の方法から
第6回	質的調査の方法（2）	環境社会学の方法から
第7回	質的調査の方法（3）	地域社会学の方法から
第8回	調査データの分析（1）	調査データの整理
第9回	調査データの分析（2）	調査のデータの加工
第10回	調査データの分析（3）	図表の作成
第11回	調査データの分析（4）	調査データの集計
第12回	調査データの分析（5）	調査データの解釈
第13回	調査データの分析（6）	分析結果の検討
第14回	中間のまとめ	研究のオリジナリティの検討
第15回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学領域のレビュー
第16回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学領域のレビュー
第17回	先行研究のレビュー（3）	民俗学や文化人類学の隣接領域のレビュー
第18回	先行研究のレビュー（4）	研究の位置の再確認
第19回	論文の構成と設計（1）	章立ての再検討
第20回	論文の構成と設計（2）	分析結果と結論の再検討

第21回	論文の構成と設計（3）	論理構成の見直し
第22回	論文執筆（1）	問題関心と問いの記述
第23回	論文執筆（2）	調査地概要の記述
第24回	論文執筆（3）	調査データの記述の方法
第25回	論文執筆（4）	調査データの記述の作法
第26回	論文執筆（5）	調査データの考察
第27回	論文執筆（6）	考察と結論
第28回	修士論文の完成	研究の知見と独自性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、調査データの分析など論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介していく。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生－暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方－暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ－福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

実践研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

【到達目標】

適切な方法でフィールドワークができる。

フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】

履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。各報告の内容に対して、指導・助言を行い、フィールドワークが成果をあげるように支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第2回	フィールドワークの目的	目的の明確化
第3回	フィールドワークの対象	対象の明確化
第4回	フィールドワークの対象と方法	対象と方法の明確化
第5回	フィールドワークの対象と方法の具体化	対象と方法の具体化
第6回	スーパービジョン（初期①）	実際のスーパービジョン①実際の対象の選定について
第7回	スーパービジョン（初期②）	実際のスーパービジョン②実際の対象と方法の明確化について
第8回	スーパービジョン（初期③）	実際のスーパービジョン③初期のフィールドワークの内容について
第9階	スーパービジョン（初期④）	実施のスーパービジョン④初期のまとめと振り返り
第10回	スーパービジョン（前期①）	実際のスーパービジョン①前期の目標の設定
第11回	スーパービジョン（前期②）	実際のスーパービジョン②前期のフィールドワークの具体的な方法について
第12回	スーパービジョン（前期③）	実際のスーパービジョン③前期の試行の内容と方法について
第13回	スーパービジョン（前期④）	実際のスーパービジョン④前期の試行の結果について
第14回	前期の振り返りとまとめ	前期の振り返りと今後に向けて
第15回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第16回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第17回	スーパービジョン（中期①）	実際のスーパービジョン①中期の目標の設定
第18回	スーパービジョン（中期②）	実際のスーパービジョン②中期における内容と方法について

第19回	スーパービジョン（中期③）	実際のスーパービジョン③中期の結果について
第20回	スーパービジョン（中期④）	実際のスーパービジョン④中期の振り返りについて
第21回	スーパービジョン（後期①）	実際のスーパービジョン①後期の目標の設定
第22回	スーパービジョン（後期②）	実際のスーパービジョン②結果のまとめについて
第23回	スーパービジョン（後期③）	実際のスーパービジョン③（レポートの作成に向けて）
第24回	スーパービジョン（後期④）	実際のスーパービジョン④（レポートの骨子について）
第25回	振り返りとまとめ①	データ等の分析
第26回	振り返りとまとめ②	レポートの作成
第27回	振り返りとまとめ③	理論化の検討
第28回	振り返りとまとめ④	レポートの完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容60%により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』

（単著）明石書店,2022年

・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2021年

・『仮設住宅 その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年

・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』中央法規,2018年『地域福祉のイノベーションとソーシャルワークの持続可能性の危機に挑む』編集代表、中央法規,2017年

・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規,2015年

・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年

・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善,2012年

・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年

・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年

・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年

・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年

・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】

【Course outline】

It sets a field to create research paper and to improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyzes a case in the field.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can improve practice skill, and collect the data in take

field,also, analyzes a case in the field.

B. Students can makes sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Short report(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理基礎実習

久保田 幹子、末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目
配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行います。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理実習を行うため、そして公認心理師・臨床心理士として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、臨床心理士として将来的に活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習します。なお、この授業の単位取得は法政大学臨床心理相談室の研修相談員の条件となるので、必ず1年次で履修すること。

なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

また授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画および成績評価の基準を示します。
第2回	臨床心理実践の基礎①：概説	臨床心理実践の基礎を、本専攻における実習教育の内容を中心に概説します。
第3回	臨床心理実践の基礎②：臨床心理面接	臨床心理実践の基礎を臨床心理面接を中心に概説します。
第4回	臨床心理実践の基礎③：臨床心理査定	臨床心理実践の基礎を臨床心理査定を中心に概説します。
第5回	臨床心理実践の基礎④：臨床心理地域援助	臨床心理実践の基礎を臨床心理地域援助を中心に概説します。
第6回	臨床心理実践の倫理①：概説	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の意義や課題について概説します。
第7回	臨床心理実践の倫理②：日本の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：日本臨床心理士会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第8回	臨床心理実践の倫理③：海外の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：アメリカ心理学会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第9回	臨床心理実践の倫理④：当大学の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：法政大学大学院人間社会研究科倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。

第10回	臨床心理実習事前指導：発達領域機関A	発達領域における実習の事前指導①を行います。
第11回	臨床心理実習事前指導：発達領域機関B	発達領域における実習の事前指導②を行います。
第12回	臨床心理実習事前指導：教育領域機関	教育領域における実習の事前指導を行います。
第13回	臨床心理実習事前指導：産業領域機関	産業領域における実習の事前指導を行います。
第14回	ケース・カンファレンス	M1・M2 合同のケース・カンファレンスを行います。実習担当の専任教員も参加します。
第15回	臨床心理実習事前指導：大学内臨床心理相談室	大学内（臨床心理相談室）における実習教育についてのガイダンスを行います。
第16回	臨床心理実習事前指導：医療機関A	医療領域における実習の事前指導①を行います。
第17回	臨床心理実習事前指導：医療機関B	医療領域における実習の事前指導②を行います。
第18回	臨床心理実習事前指導：医療機関C	医療領域における実習の事前指導③を行います。
第19回	臨床心理実習事前指導：福祉領域	福祉領域における実習の事前指導を行います。
第20回	臨床心理実習事前指導：心理相談領域等	心理相談領域における実習の事前指導を行います。
第21回	臨床心理実践の基本的技能：概説	実習で求められる基本的な技能について講義とディスカッションを行います。
第22回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク①神経症	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：神経症）
第23回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク②鬱	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：鬱）
第24回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク③パーソナリティ障害	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：パーソナリティ障害）
第25回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク④発達障害	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達障害）
第26回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント①発達検査	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達検査）
第27回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント②知能検査	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：知能検査）
第28回	ケース・カンファレンス	M1・M2 合同のケース・カンファレンスを行います。実習担当の専任教員も参加します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表やディスカッションを行うための自己学習（文献の収集と分析、発表レジュメの作成等）および、インテーク記録やアセスメント記録の作成と修正の作業等が求められます。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、発表（30％）、ディスカッション（20％）への参加をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の臨床現場の様子が理解できるよう、具体例を交えつつ講義を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床、カウンセリング機関における臨床の実務経験があります。

実際の臨床経験を紹介しつつ、心理臨床家としての姿勢、現場実習に必要な知識などを習得できるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】

【末武康弘】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年3月～7月）

③ 『プロセスモデル—暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年2月）

【久保田幹子】

＜専門領域＞

森田療法、比較心理療法

＜研究テーマ＞

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

＜主要研究業績＞

1) 『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）

2) 『女性は何で生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）

3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78

4) 久保田幹子：森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】

Course outline : Students learn the basic attitudes, skills, and ethics of clinical psychology practice, and also receive advanced guidance for a clinical psychology practice.

Learning Objectives : The goal of this class is to learn the basic attitudes, skills, ethics, etc. for conducting clinical psychology practice and for future activities as a licensed psychologist and clinical psychologist.

Learning activities outside of the classroom : Self-study for presentation and discussion (collection and analysis of literature, preparation of presentation resumes, etc.) and preparation and revision of intake and assessment records are required. The standard preparation and review time for this class is 4hour in total.

Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated based on their participation in the presentation (30%) and discussion (20%), as well as based on their normal score (50%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で学ぶ内容は次のことです。

1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1.～3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第2回	心理支援と心理学的支援法	全体の理論と方法を概説します
第3回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第4回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第5回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第6回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第7回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます（人間性の理論）
第8回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます（システム理論）
第9回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます（表現芸術療法）
第10回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます（民族文化療法）
第11回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます

第12回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第13回	適切な支援方法の選択・調整について②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第14回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（60％）、ディスカッションへの参加（40％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012年）
- ③ 『心理臨床への多面的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015年）

【Outline (in English)】

The contents to be learned in this lesson are as follows.

1. Theories and methods of psychotherapy based on psychodynamic theory.
2. Theories and methods of psychotherapy based on behavioral /cognitive theory.
3. Theories and methods of other representative psychotherapies.
4. Application of the above items 1 to 3.
5. Selection and adjustment of appropriate support methods.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
- understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, limitation of psychological support, and significance of privacy protection.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentations (60%), and in-class contribution (40%)

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理面接特論Ⅱ**末武 康弘**

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

【到達目標】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第2回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第3回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第4回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第5回	試行カウンセリングについての概説	各自が試行カウンセリングを実施し（インタークおよび3回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。
第6回	インフォームドコンセントと契約および試行カウンセリングの実習と報告①	インフォームドコンセントと契約について指導します。あわせて院生A、Bの報告と検討を行います。
第7回	インタークのとり方および試行カウンセリングの実習と報告②	インタークのとり方とまとめ方を指導します。あわせて院生C、Dの報告と検討を行います。
第8回	アセスメントと見立ての検討および試行カウンセリングの実習と報告③	アセスメントと見立ての検討について指導します。あわせて院生E、Fの報告と検討を行います。
第9回	方針の立て方および試行カウンセリングの実習と報告④	方針の立て方について指導します。あわせて院生G、Hの報告と検討を行います。
第10回	継続面接の進め方および試行カウンセリングの実習と報告⑤	継続面接の進め方について指導します。あわせて院生I、Jの報告と検討を行います。

第11回	面接のプロセスの検討および試行カウンセリングの実習と報告⑥	面接のプロセスの検討方法について指導します。あわせて院生K、Lの報告と検討を行います。
第12回	終結の方法および試行カウンセリングの実習と報告⑦	終結の方法について指導します。あわせて院生M、N、Oの報告と検討を行います。
第13回	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第14回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（40％）、試行カウンセリングの報告書（50％）、ディスカッションへの参加（10％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『心理臨床への多面的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015年）

【Outline (in English)】

You learn practical methods and skill of psychological support, especially counseling/psychotherapy.

At the end of the course, students are expected to explain effect and process of counseling/psychotherapy, to do trial counseling and to write and present its case report.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on case report on trial counseling (50%), and presentation (40%), and in-class contribution (10%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

小野 純平

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、心理的アセスメントの意義および基礎理論を学ぶとともに、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、各検査の正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法について学習します。また、こうした理論や技法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について学習します。

【到達目標】

1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義について概説することができる。
2. 心理的アセスメントに関する理論と方法について理解し実践することができる。
3. 心理に関する相談、助言、指導等への上記1.及び2.の応用について理解し実践することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに心理的アセスメントの意義と基礎理論について学びます。その上で、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、検査器具を用いた実習を通して、正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法について学習します。また、こうした理論や技法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について学習するとともに、検査実施結果を基に事例検討を行い、心理に関する相談、助言、指導等への展開について学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理的アセスメント	心理的アセスメントとその意義
第2回	心理的アセスメントにおける心理検査の役割	心理検査の役割
第3回	心理検査の基礎理論	心理検査の妥当性と信頼性
第4回	心理検査の実施から報告書作成までのプロセス	プライバシー保護及び報告書の作成の留意点
第5回	発達検査法	主な発達検査の信頼性、妥当性、実施法
第6回	性格検査法1（質問紙法）	主な質問紙法検査の信頼性、妥当性、実施法
第7回	性格検査法2（投射法）	主な投射法検査の信頼性と妥当性
第8回	性格検査法3（投射法）	主な投射法検査の実施法
第9回	性格検査法4（投射法）	主な投射法検査の解釈法
第10回	知能検査法1	知能検査の実施法
第11回	知能検査法2	知能検査法の解釈法
第12回	事例報告1	事例報告演習（Aグループ）
第13回	事例報告2	事例報告演習（Bグループ）
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる心理検査について、事前に手引き、解説書等を読んで、検査の実施方法や内容を学習しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適時お知らせします。

【参考書】

必要に応じて、適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40％）

演習内容への積極的な参加（60％）

【学生の意見等からの気づき】

映像教材をさらに活用し、具体的なイメージを持ちやすくする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定、心理的アセスメント

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『臨床心理学30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline (in English)】

This seminar aims to introduce students to the principles and practice of psychological assessment. The course will focus on widely used norm-referenced tests of intellectual ability, development, and personality. Students will learn skills in both assessment planning and report writing. At the end of the course, Students will become familiar with the strengths, limitations, interpretation, and presentation of findings from a variety of assessment instruments. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports(40%), and in-class contribution(60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理査定演習Ⅱ

小野 純平

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、心理的アセスメントの中核的技法である心理検査法について、検査結果の総合的な解釈と心理的援助の計画立案へと学習を進めます。

【到達目標】

1. 心理的アセスメントで用いる主要な検査について、実施と基礎的な解釈を行うことができる。
2. 心理に関する相談、助言、指導等へと心理的アセスメントの結果を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的アセスメントの中核的技法である心理検査法について、検査結果の総合的

な解釈と心理的援助の計画立案へと学習を進めます。本演習は検査実施結果を基にした事例検討を中心に行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	投影法1	ロールシャッハ法の演習（実施法）
第3回	投影法2	ロールシャッハ法の演習（コーディング）
第4回	投影法3	ロールシャッハ法の演習（スコアリング）
第5回	投影法4	ロールシャッハ法の演習（解釈）
第6回	知能検査法1	実施法
第7回	知能検査法2	解釈の基礎
第8回	事例報告1	事例報告演習（Aグループ）
第9回	事例報告2	事例報告演習（Bグループ）
第10回	事例報告3	事例報告演習（Cグループ）
第11回	事例報告4	事例報告演習（Dグループ）
第12回	事例報告5	事例報告演習（Eグループ）
第13回	事例報告6	事例報告演習（Fグループ）
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる心理検査について、事前に手引き、解説書等を読んで、検査の実施方法や内容を学習しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適時お知らせします。

【参考書】

必要に応じて、適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）

課題の提出（40％）

【学生の意見等からの気づき】

映像教材をさらに活用し、具体的なイメージを持ちやすくする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバタリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）

『発達障害と愛着障害の理解と支援―事例を通して―』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline (in English)】

This seminar aims to introduce students to the principles and practice of psychological assessment. The course will focus on widely used norm-referenced tests of intellectual ability, development, and personality. Students will learn skills in both assessment planning and report writing. At the end of the course, Students will become familiar with the strengths, limitations, interpretation, and presentation of findings from a variety of assessment instruments. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports(40%), and in-class contribution(60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)

金築 優、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目
配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関(病院又は診療所)での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の5分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習第1回	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	臨床心理相談室での実習第2回	臨床心理相談室でのケース(例、子ども)を担当する。
実習中④	臨床心理相談室での実習第3回	臨床心理相談室でのケース(例、成人)を担当する。
実習中⑤	臨床心理相談室での実習第4回	臨床心理相談室でのケース(例、高齢者)を担当する。

実習中⑥	医療施設等での実習第1回	医療施設等(例、A病院)の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第2回	医療施設等(例、B病院)の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第3回	医療施設等(例、C病院)の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第4回	医療施設等(例、D病院)の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第5回	医療施設等(例、E病院)の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】

丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

金築優：認知行動療法、教育相談

【Outline (in English)】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理実習Ⅱ

金築 優、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目
配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	医療施設等での実習第1回	医療施設等（例、A病院）の施設実習
実習中④	医療施設等での実習第2回	医療施設等（例、B病院）の施設実習
実習中⑤	医療施設等での実習第3回	医療施設等（例、C病院）の施設実習

実習中⑥	医療施設等での実習第4回	医療施設等（例、D病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第5回	医療施設等（例、E病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第6回	医療施設等（例、F病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第7回	医療施設等（例、G病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第8回	医療施設等（例、H病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】

丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法
金築優：認知行動療法、教育相談

【Outline (in English)】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

心理学研究法特論

金子 真人

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大脳の機能的局在と行動に表れる症状の直接的な関係を理解するとともに、事例研究を通して研究法を学んでいくことを目標とする。心を学ぶことは脳を知ることと同じではないが、心は行動に表れ、行動は脳に規定されると考えることができる。それならば脳の機能を知ることによって行動を理解すれば心の輪郭はより明瞭になるかもしれない。本講義では、大脳機能の基礎を学ぶとともに、後天性大脳期障害である高次機能障害を通して脳と行動の直接的な関係を学ぶ。そして、高次機能障害の事例を通して研究法の基礎を理解することである。

【到達目標】

大脳機能障害の事例を通して脳の損傷と行動の直接的な関係を理解する。具体的には、前頭葉、側頭葉。頭頂葉、後頭葉の各連合野の機能を学び、各連合野の損傷と行動との直接的な関わりを学ぶことを目標とする。

また、質的分析と量的分析、単一事例研究法、応用行動分析、神経心理学的心理検査法などを通して臨床的な研究法の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、適宜発表形式の講義も行い討議を深めていきたいと考える。参考文献および資料は適宜紹介もしくは配布する。尚、受講者の人数などによって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心としての脳	大脳の基礎的理解
第2回	脳機能からみた行為の障害	失行症、行為障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第3回	前頭葉機能障害の多面的理解	人格情動障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第4回	前頭葉機能障害と遂行機能障害	知性思考障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第5回	視覚認知機能の障害	失認など事例発表からみた研究法を検討する。
第6回	右半球と左半球の離断	脳梁離断など事例発表からみた研究法を検討する。
第7回	記憶障害の多面的理解	記憶障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第8回	優位半球と言語野	言語野について事例発表からみた研究法を検討する。
第9回	様々な失語症状	失読症など事例発表からみた研究法を検討する。
第10回	読みの情報処理モデル	読みの属性効果について事例発表からみた研究法を検討する。
第11回	失語性失読の認知神経心理学的解釈	事例発表からみた研究法を検討する。
第12回	非失語性失読の認知神経心理学的解釈	事例発表からみた研究法を検討する。
第13回	認知症の症状理解	認知症の事例発表からみた研究法を検討する。
第14回	まとめ	量的分析と質的分析を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、大脳機能に関する基礎的専門書を読んでおくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

〈教科書・参考図書〉
・よくわかる失語症と高次脳機能障害 鹿島晴雄、種村純編、永井書店
・脳のしくみとその見方 植村研一 医学書院

【成績評価の方法と基準】

発表形式授業への発表内容60%、授業への積極的参加40%を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では事例の症状を理解しつつ事例研究法を学んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞臨床発達神経心理学、小児と成人の大脳機能障害、高次脳機能障害、認知神経心理学

＜研究テーマ＞①発達性読み書き障害の機序と援助、②小児と成人の大脳機能障害における情報処理過程と認知機能に関する評価・検査法の開発研究、③高次大脳機能障害者の長期予後と回復

＜主要研究業績＞①「標準抽象語理解力検査」、インテルナ出版、2002年。②「小学生の読み書きスクリーニング検査-発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)検出のために-」インテルナ出版、2006年。③標準読み書きスクリーニング検査-正確性と流暢性の評価-、インテルナ出版、2017④気になるコミュニケーション障害の診かた；第6章第3節標準抽象語理解力検査(SCTAW)、医歯薬出版、2015、⑤理論と実践をつなぐ教育心理学、みらい、2019年。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

Course outline: In this lecture, we learn the fundamentals of cerebral function and learn the direct relationship between brain and behavior through higher brain disorder which is an acquired cerebral disorder.

Learning Objectives: We aim to learn research methods through various case studies of cerebral dysfunction. And it is to understand the basics of the research method through various cases of higher brain disorder.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper(s).

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on your presentation paper(60%), in class contribution: 40%.

Work to be done outside of class is need to 2 hours.

PRI500J2 (情報学基礎 / Principles of informatics 500)

データ分析法

服部 環

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

R言語（統計解析ソフトウェア）、SPSS、Amos等を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と修士論文の作成において参考となる技法等を学んでいきます。

【到達目標】

多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになること、さらに検定力分析の理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義とパソコンソフトウェアR言語、SPSS、Amosなどを用いた実習を繰り返していきます。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の予定について確認し、R言語の基礎的演算子を学びます
第2回	記述統計と推測統計	記述統計と推測統計を復習します
第3回	重回帰分析	重回帰分析とその統計的仮説検定、カテゴリカルデータを用いた重回帰分析を学びます
第4回	一般化線形モデル	一般化線形モデルの基礎とロジスティック回帰分析を学びます
第5回	分類法	判別分析とクラスター分析を学びます
第6回	因子分析	探索的因子分析とカテゴリカル因子分析を学びます
第7回	構造方程式モデリングの基礎	構造方程式モデリング（SEM）の考え方を学びます
第8回	観測変数のパス解析と双方向の因果分析	パス解析の基礎と双方向の因果分析を学びます
第9回	確認的因子分析	確認的因子分析を学びます
第10回	潜在変数のパス解析	潜在変数を伴うパス解析を学びます
第11回	媒介分析と調整分析	重回帰分析、構造方程式モデリングなどを用いる媒介分析と調整分析を学びます
第12回	平均値と相関係数と連関係数の検定力分析	平均値と相関係数と連関係数の検定力分析を学びます
第13回	重回帰分析と分散分析と構造方程式モデリングの検定力分析	重回帰分析と分散分析と構造方程式モデリングの検定力分析を学びます
第14回	因果分析	反事実モデルに基づく因果分析、因果媒介分析を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多変量解析の諸技法を段階的に学習していきますので、十分な復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に説明します。また、資料を配付します。

【参考書】

服部 環 心理・教育のためのRによるデータ解析（福村出版）
Rosseel, Y. (2012). lavaan: An R Package for Structural Equation Modeling. Journal of Statistical Software, 48(2), 1-36.
URL <https://www.jstatsoft.org/v48/i02/>.

足立浩平 多変量データ解析法－心理・教育・社会系のための入門（ナカニシヤ出版）

南風原朝和 心理統計学の基礎－統合的理解のために（有斐閣）
山田剛史・村井潤一郎・杉澤武俊 Rによる心理データ解析（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容・結果（50％）と平常点（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が基礎・基本を理解できるよう説明を工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、R言語、エクセルなどを使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）
- (2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）
- (3) 日本版KABC-IIマニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）
- (4) SPSS心理データ解析（共著、ナカニシヤ出版）
- (5) Q&A心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will introduce students to advanced psychological statistics, including hypothesis testing, statistical power analysis, major multivariate analyses, and structural equation modeling.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to write operational scripts using the R language, SPSS and Amos to deepen our understanding of multivariate analysis techniques, and to be able to interpret statistics appropriately.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

PRI500J1 (情報学基礎 / Principles of informatics 500)

データ分析法

服部 環

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

R言語（統計解析ソフトウェア）、SPSS、Amos等を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と修士論文の作成において参考となる技法等を学んでいきます。

【到達目標】

多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになること、さらに検定力分析の理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義とパソコンソフトウェアR言語、SPSS、Amosなどを用いた実習を繰り返していきます。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の予定について確認し、R言語の基礎的演算子を学びます
第2回	記述統計と推測統計	記述統計と推測統計を復習します
第3回	重回帰分析	重回帰分析とその統計的仮説検定、カテゴリカルデータを用いた重回帰分析を学びます
第4回	一般化線形モデル	一般化線形モデルの基礎とロジスティック回帰分析を学びます
第5回	分類法	判別分析とクラスター分析を学びます
第6回	因子分析	探索的因子分析とカテゴリカル因子分析を学びます
第7回	構造方程式モデリングの基礎	構造方程式モデリング（SEM）の考え方を学びます
第8回	観測変数のパス解析と双方向の因果分析	パス解析の基礎と双方向の因果分析を学びます
第9回	確認的因子分析	確認的因子分析を学びます
第10回	潜在変数のパス解析	潜在変数を伴うパス解析を学びます
第11回	媒介分析と調整分析	重回帰分析、構造方程式モデリングなどを用いる媒介分析と調整分析を学びます
第12回	平均値と相関係数と連関係数の検定力分析	平均値と相関係数と連関係数の検定力分析を学びます
第13回	重回帰分析と分散分析と構造方程式モデリングの検定力分析	重回帰分析と分散分析と構造方程式モデリングの検定力分析を学びます
第14回	因果分析	反事実モデルに基づく因果分析、因果媒介分析を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多変量解析の諸技法を段階的に学習していきますので、十分な復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に説明します。また、資料を配付します。

【参考書】

服部 環 心理・教育のためのRによるデータ解析（福村出版）
Rosseel, Y. (2012). lavaan: An R Package for Structural Equation Modeling. Journal of Statistical Software, 48(2), 1-36.
URL <https://www.jstatsoft.org/v48/i02/>.
足立浩平 多変量データ解析法－心理・教育・社会系のための入門（ナカニシヤ出版）
南風原朝和 心理統計学の基礎－統合的理解のために（有斐閣）
山田剛史・村井潤一郎・杉澤武俊 Rによる心理データ解析（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容・結果（50％）と平常点（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が基礎・基本を理解できるよう説明を工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、R言語、エクセルなどを使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

教育心理測定学、心理データ解析

＜研究テーマ＞

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

＜主要研究業績＞

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）
- (2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）
- (3) 日本版KABC-IIマニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）
- (4) SPSS心理データ解析（共著、ナカニシヤ出版）
- (5) Q&A心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will introduce students to advanced psychological statistics, including hypothesis testing, statistical power analysis, major multivariate analyses, and structural equation modeling.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to write operational scripts using the R language, SPSS and Amos to deepen our understanding of multivariate analysis techniques, and to be able to interpret statistics appropriately.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理学研究法特論

小林 由佳

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学研究法の進め方を適切に理解し、研究計画を立てるための知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

臨床心理学研究の計画を適切に行えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方に関するオリエンテーション
第2回	臨床心理学研究の考え方と研究法	臨床心理学研究の諸分野と研究法（面接法、観察法、質問紙調査法、事例研究法、実験法）
第3回	研究の進め方①研究デザイン	研究デザインの選択とリサーチクエスションの構造化、良い研究デザインをするための視点
第4回	研究の進め方②文献研究	先行研究の整理、文献管理、システマティックレビュー
第5回	研究の進め方③量的研究	量的研究の進め方、データ収集上の留意点、標本抽出、研究におけるバイアス
第6回	研究の進め方④質的研究1	質的研究の進め方（主にグラウンデッド・セオリー・アプローチ）
第7回	研究の進め方⑤質的研究2	質的研究の進め方（主にSCAT、テキストマイニング、主題分析法）
第8回	研究の進め方⑥論文執筆と公表	学位論文と学術論文の違い、雑誌の投稿、査読、掲載
第9回	研究倫理と臨床倫理	倫理と法、研究倫理、臨床倫理
第10回	研究アウトカムの測定	主観的な指標の有用性を評価するためのガイドライン
第11回	尺度作成のガイドライン	尺度作成のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第12回	観察研究のガイドライン	観察研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第13回	介入研究のガイドライン	介入研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第14回	まとめ	臨床心理学研究計画の立案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連した課題を提示するので、授業の間にそれに取り組むことが求められます。演習を実施するため、次回講義で扱う内容の疑問点は整理しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜お知らせします。

【参考書】

「臨床心理学研究法特論（放送大学大学院教材）」（小川俊樹・望月聡、放送大学教育振興会：2018）

「心理学研究法 補訂版」（高野陽太郎・岡隆、有斐閣：2017）

「心理学の実践的研究法を学ぶ（臨床心理学研究法 第1巻）」（下山晴彦・能智正博、新曜社：2008）

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、課題・レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

＜研究テーマ＞働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

＜主要研究業績＞

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定: デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to provide students with an appropriate understanding of how to proceed with clinical psychology research methods and statistical analysis methods, and to acquire the knowledge to formulate a research plan.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to appropriately plan clinical psychology research.

Learning activities outside of the classroom : To conduct exercises, please organize your questions about the contents to be covered in the next lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy : Class participation (60%), Assignments and Reports (40%)

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

認知心理学特論

望月 聡

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知心理学とは、環境の意味するところを捉え、適切な行為を選択することに係る心の内的な処理に関する諸事象を明らかにすることを目指す心理学研究の一領域であり、知覚、注意、記憶、言語、問題解決や推論・思考、認知的制御などの心的過程に関係します。本科目ではこれらの人間の認知過程に関する認知心理学や認知神経科学、その障害に関する神経心理学などのトピックスに触れます。特に本科目は臨床心理学専攻において開講される科目のひとつであることから、認知心理学の知見がどのように臨床心理学(特に、認知行動療法の理論に関わる実証的基盤となっていること)に関連するのかを理解することを目的とします。

【到達目標】

認知心理学の全体を俯瞰し、認知心理学研究の理論や手法を学び、理解します。
認知心理学研究と、臨床心理学に関わる異常心理学や精神病理学の理論やアセスメント・介入などの実践活動を接続して捉えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／認知心理学の対象と方法	認知心理学の全体像を概観し、本科目の進め方について説明します。
第2回	知覚	知覚に関わる認知心理学的知見を学びます。
第3回	注意(1)	注意に関わる認知心理学的知見を学びます。
第4回	注意(2)	「注意障害」「注意バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第5回	記憶(1)	記憶に関わる認知心理学的知見を学びます。
第6回	記憶(2)	「記憶障害」「記憶バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第7回	言語	言語に関わる認知心理学的知見を学びます。
第8回	思考・推論・問題解決(1)	思考・推論・問題解決に関わる知見を学びます。
第9回	思考・推論・問題解決(2)	「解釈バイアス」「推論バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第10回	認知的制御・実行機能(1)	認知的制御や実行機能に関わる知見を学びます。

第11回	認知的制御・実行機能(2)	「認知的制御の困難」や「実行機能障害」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第12回	認知と感情(1)	認知と感情の関連に関わる知見を学びます。
第13回	認知と感情(2)	「認知と感情の関連に関わる問題」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第14回	意識と行動、まとめ	意識と行動に関わる知見を学びます。また、学期中の学習内容を振り返り、認知心理学研究と臨床心理学的な実践活動のつながりについて議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、各回の内容に関連する学部での学習をふりかえっておくなどの準備学習を行うことが望まれます。
授業後には、扱われた内容を復習することが望まれます。
学期中に4回、授業内容に関連する小レポートの提出を求められますので、相応の授業時間外学習が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料は学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小レポート（4回）の提出状況と内容（40%）、平常点（60%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知心理学及び関連する神経科学的側面の領域に苦手意識があるもしくは関心が薄い方々にも興味を持って受講していただけたようなので、引き続き内容・進め方を工夫していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

[Course outline]

Cognitive psychology is a field of psychological research that aims to clarify various phenomena related to the internal processing of the mind in perceiving the meaning of the environment and selecting appropriate actions, and is concerned with mental processes such as perception, attention, memory, learning, language, problem solving and reasoning/thinking.

In this course, students will be exposed to topics in cognitive psychology cognitive neuroscience, and neuropsychology related to these human cognitive processes and these disorders. In particular, since this course is one of the courses offered in the Major in Clinical Psychology, it aims to help students understand how the findings of cognitive psychology relate to clinical psychology (especially the empirical basis for the theory of cognitive behavioral therapy).

[Learning Objectives]

You will gain an overview of cognitive psychology as a whole, and learn and understand the theories and methods of cognitive psychology research.

You will be able to connect and view cognitive psychology research with theories of abnormal psychology and psychopathology related to clinical psychology and practical activities such as assessment and intervention.

[Learning activities outside of classroom]

It is recommended that students do some preparatory study in advance, such as reviewing undergraduate studies related to the content of each class.

After the class, students are expected to review the content covered.

Students will be required to submit short reports related to the class content four times during the semester, so a reasonable amount of study outside of class time is necessary.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

The evaluation will be based on the status and content of four short reports submitted during the semester (40%) and the in-class contribution (60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

教育心理学特論

望月 聡

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学は、心理学の手法を用いて、教育の科学的基礎を実証的に探究し、また、その知見の教育や生活場面への応用まで考える学問です。そこには、発達、教授・学習・認知、社会、人格、臨床、特別支援、学校心理学、測定・評価・研究法などの領域があります。本授業では、教育心理学研究の全体像と動向、実践活動との関わりについて学び、臨床心理学の研究や実践への応用について考えます。

【到達目標】

発達、教授・学習・認知、社会、人格、臨床、特別支援、学校心理学、測定・評価・研究法などの教育心理学の全体を俯瞰し、教育心理学研究の理論や手法を学び、理解します。
その後特に、教育分野における臨床心理学・学校心理学・特別支援教育の実践活動・支援の展開に関して学び、研究と実践活動を接続できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。教育心理学会が発行している『教育心理学年報』に掲載された展望論文、『教育心理学研究』に掲載された実践研究論文を題材として、発表担当者が解説し、受講者全員でディスカッションを行います。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要を説明します。
第2回	【教育心理学の研究動向と展望(1)】	乳幼児・児童期の発達に関する研究動向を学びます。
第3回	【教育心理学の研究動向と展望(2)】	青年期以降の発達に関する研究動向を学びます。
第4回	【教育心理学の研究動向と展望(3)】	教授・学習・認知に関する研究動向を学びます。
第5回	【教育心理学の研究動向と展望(4)】	教育社会心理学に関する研究動向を学びます。
第6回	【教育心理学の研究動向と展望(5)】	パーソナリティに関する研究動向を学びます。
第7回	【教育心理学の研究動向と展望(6)】	教育臨床心理学に関する研究動向を学びます。
第8回	【教育心理学の研究動向と展望(7)】	特別支援教育に関する研究動向を学びます。
第9回	【教育心理学の研究動向と展望(8)】	学校心理学に関する研究動向を学びます。
第10回	【教育心理学の研究動向と展望(9)】	測定・評価・研究法に関する研究動向を学びます。
第11回	【教育心理学と実践活動(1)】	教育分野における臨床心理学の実践活動・支援の展開を学びます。
第12回	【教育心理学と実践活動(2)】	教育分野における学校心理学の実践活動・支援の展開を学びます。

第13回 【教育心理学と実践活動(3)】

第14回 まとめ

教育分野における特別支援教育の実践活動・支援の展開を学びます。
学習内容を振り返り、教育心理学研究と臨床心理学等の実践活動のつながりについて議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に精読する必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

『教育心理学年報』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arepj/-char/ja/>

『教育心理学研究』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjep/-char/ja/>

【成績評価の方法と基準】

授業における発表（60%）、平常点（授業への積極的な参加：20%）、レポート（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育心理学は上記の通り関口の広い学問なので、研究動向の全体像を把握しようとするだけでも“広く浅く”になりがちです。各回の論文解説の後のディスカッションで内容を深めていきたいと考えます。

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

【Course outline】

Educational psychology is a discipline that empirically explores the scientific basis of education using psychological methods, and also considers the application of these findings to educational and life situations. It includes the areas of development, teaching-and-learning, cognition, society, personality, clinical practice, special needs, school psychology, and measurement-evaluation-research methods.

In this class, you will learn about the overall picture and trends of educational psychology research and its relationship to practical activities, and think about the application of clinical psychological research and/or practice.

【Learning Objectives】

You will gain an overview of the entire field of educational psychology, including development, teaching-and-learning, cognition, society, personality, clinical psychology, special support, school psychology, measurement-evaluation-research methods, and learn and understand the theories and methods of educational psychology research.

After that, you will learn about the development of practical activities and support for clinical psychology, school psychology, and special needs education in the field of education in particular, so that you can connect research and practical activities.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to read the designated literature carefully in advance.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Evaluation will be based on a combination of report results (40%) and in-class contribution (60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

発達心理学特論

齋藤 慈子

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの発達を支えるものとして、子育てや教育があげられるが、現代の子育てや教育には、「すべし」が蔓延している。少子化、核家族化が進み、幼い子どもと接する経験がほとんどないまま親となり、社会的なサポートも少なく、孤独な子育ての中で、今の親は、インターネット上にあふれる情報の中の無数の「すべし」に翻弄されているようである。安易なハウツーに走らず、客観的に子どもの発達、子育て、教育をとらえるのに役立つものの一つとして、進化的な視点がある。ヒトも進化の産物、一動物種であることを前提にし、進化生物学的な視点から発達や子育てをとらえ、いろいろな動物の子育てを眺めることが客観的な視点を得るのに有用であろう。また、客観的な視点を得るためには、子育てや教育の文化的・時代的な多様性について理解を深めることも有用である。この授業では、ヒトの発達、子育て、教育を「すべし」の枠の外からとらえる視点を身に付けることを目指す。

【到達目標】

ヒトの発達・子育て・教育を進化的視点からとらえることができる。ヒトの発達・子育て・教育の多様性を理解し、「常識」の枠の外から発達・子育て・教育をとらえることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回から第12回までの授業の前半では教員からの講義を行う。その後、講義内容に基づき、感想及び疑問点について、4名程度のグループでディスカッションを行う。グループごとに感想や疑問点をまとめて発表し、教員がフィードバックを行う。

第13回、第14回の授業では、履修者が講義をきっかけに自身で調べたこと、講義全体を通して学んだことについてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・ヒトが育つ環境について	受講生が考えるヒトの発達において重要なものについてディスカッションを行ったのち、ヒトを含めた動物の行動、ヒトの育つ要因・環境のとらえ方について解説する。
第2回	適応と自然淘汰・性淘汰	進化プロセスを説明する一つである適応についての講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第3回	配偶システム	子育て行動にも関連する、配偶システムやヒトの配偶者選択についての講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。

第4回	利他行動の進化	子育て・教育は、ある種自己を犠牲にする行動ともとらえられるが、自己を犠牲にして他者の利益となる行動、利他行動の適応論的説明について講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第5回	子育てを進化的にとらえる	子育て行動の進化的説明について講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第6回	動物の子育てとメカニズム	ヒトの行動を理解するためのモデル動物として用いられることも多いげっ歯類や霊長類の子育て行動のメカニズムに関する講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第7回	ヒト以外の霊長類の子育て	コモンマーモセットという小型霊長類の子育てを中心に、霊長類の子育てについて講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第8回	ヒトの発達・子育て・教育の特殊性	霊長類との比較によるヒトの発達・子育ての特殊性について講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第9回	ヒトの子育て行動	ヒトの行う子育て行動について講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第10回	ヒトの子育て行動のメカニズム	ヒトの子育て行動にかかわるメカニズムについて講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第11回	ヒトの育つ環境：文化と集団	文化とその進化、学びの環境であるヒトの集団について講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第12回	ヒトの子育ての多様性	ヒトの子育ての地域・文化・時代による多様性、現代の日本の子育てについて講義を行った後、講義内容に基づいてディスカッションを行う。
第13回	発表と振り返り（1）	講義をきっかけに自身で調べたこと、講義全体を通して学んだことについて、各自プレゼンテーションを行う。履修者の半分が発表を行う。
第14回	発表と振り返り（2）	講義をきっかけに自身で調べたこと、講義全体を通して学んだことについて、各自プレゼンテーションを行う。履修者の半分が発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発達、子育て、教育に関する関連文献を読むとともに、自身や周囲の子どもや大人の発達について、その要因に関して考える。講義を聞いて興味を持ったことについて自身で調べ、最後の発表に向けて準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

「正解は一つじゃない 子育てする動物たち」 齋藤慈子・平石界・久世濃子（編） 長谷川真理子（監修） 東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

1回の授業に対して、予習・復習を各2時間、計4時間の学修時間を確保すること

受講中の参加度や意欲や行動（50%）、プレゼンテーションの評価（50%）の総合評価を行う

【学生の意見等からの気づき】

学部が発達心理学のトピックでも、履修者の方が知らない側面等があることがわかりましたので、既存の知識の部分と新規の知識の部分を、メリハリをつけつつ、講義できればと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業はオンライン（Zoom）で行います。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

発達心理学、進化心理学、比較認知科学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後にZoomで質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

The child development is supported by child-rearing and education. However, today's child-rearing and education are full of assumptions. Parental isolation and lack of social support are problems. Parents have no experience interacting with children and rely on information on the Internet. Evolutionary perspective can help us to look at child-rearing and education objectively. In addition, understanding the diversity of child-rearing and education depending on time and culture may be useful in obtaining an objective perspective. We will acquire the perspectives on human development, child-rearing and education outside the bounds of common sense by learning evolutionary biology and cultural variation.

Learning Objectives

- ・ Understand human development, child-rearing, and education from an evolutionary perspective.
- ・ Recognize the diversity of human development, child-rearing, and education across different times and cultures.
- ・ Develop the ability to analyze child development, child-rearing, and education beyond conventional assumptions.

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to:

- ・ Read related literature on human development, child-rearing, and education.
- ・ Reflect on the factors influencing the development of children and adults in their surroundings, including themselves.
- ・ Conduct independent research on topics of interest from the lectures in preparation for the final presentation.
- ・ Allocate a standard study time of two hours for both preparation and review per lecture (total of four hours per class session).

Grading Criteria /Policy

- ・ Active participation, engagement, and contributions during class (50%).
- ・ Evaluation of the final presentation (50%).
- ・ Students are required to ensure a total study time of four hours per lecture, including two hours for preparation and two hours for review.

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

社会病理学特論

久田 満

科目分類・科目群：専門展開科目（家族・社会心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、9月12日（金）・16日（火）・17日（水）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な精神病理現象の解明に向けて、人間の内面に焦点を当てるのが伝統的心理学の基本的な考え方である。それに対して社会病理学は、社会学の流れを汲んでおり、個々人の精神病理現象の解明においても、その人々を取り巻く社会的要因の影響を重視する。この授業では、自殺、犯罪、摂食障害などの精神病理現象を取り上げ、それらの背景にはどのような社会的要因があるのかを検討する。

【到達目標】

- ・社会病理学の基本的な考え方や諸理論についての理解を深める。
- ・心理専門職には、どのような支援が求められているのかを理解し、その支援方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、受講者による発表やそれに基づくディスカッションの時間を可能な限り確保する。数回のリアクションペーパーを課し、その内容についても授業内で取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業目標、授業内容、成績評価方法の確認と参考文献の紹介
第2回	社会病理学とは	臨床心理学との比較から学ぶ社会病理学とは何か
第3回	社会病理学の諸理論①	デュルケムの理論
第4回	社会病理学の諸理論②	シカゴ学派の理論
第5回	自殺	自殺という病理現象の傾向と予防対策
第6回	児童虐待	児童虐待の背景にある社会的要因と支援方法
第7回	配偶者間の暴力(DV)	配偶者間の暴力の背景にある社会的要因と被害者支援
第8回	アルコール依存症	アルコール依存症の背景にある社会的要因と自助グループの存在意義
第9回	薬物依存症	薬物依存症の背景要因と予防対策
第10回	殺人	殺人事件の社会的背景と予防対策
第11回	性犯罪	性犯罪の傾向と予防対策
第12回	ハラスメント	パワーハラスメント・セクシャルハラスメントの理解と対策
第13回	引きこもり	引きこもりの傾向と心理支援
第14回	総括	このコース全体を振り返り、各自が学んだことを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業内容に関連する書籍や論文を読んでおき、授業内での発表（プレゼン）の準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加（50％）、発表（50％）とする。ただし、新型コロナウイルス感染症等によりオンラインでの開講となった場合は、成績評価の方法や基準を変更する。具体的に変更点は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

書籍や論文だけではなく、公的な機関（官庁や大学等）が公開している資料をもっと活用すべきであった。

【学生が準備すべき機器他】

初回の授業に必ず出席すること。

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学、コミュニティ心理学、災害心理学

【Outline (in English)】

The basic idea of traditional psychology is to focus on the inner factors of human beings in order to elucidate various psycho-pathological phenomena. Social pathology, on the other hand, follows the trend of sociology and emphasizes the influence of social factors surrounding people. In this class, we will take up psycho-pathological phenomena such as suicide, crime, and eating disorder, and examine what social factors are behind them.

The preparation for the class such as reading research papers and/or books is required. Also the review is required. Total hours will be 2 hours for the preparation and 2 hours for the review.

Participation and attitude(50%), presentation(50%). This grading criteria may change according to the situation of COVID-19.

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

家族心理学特論

松本 聡子

科目分類・科目群：専門展開科目（家族・社会心理科目）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、個人の発達と家族関係との関わりについて、心理学的視点からの包括的な理解を深めることを目的とします。特に、生涯発達における家族の変化とそれに関わる様々な要因について、文献研究を通して考察します。

【到達目標】

生涯発達における家族の変化について、多視点から理解を深めることを目標とします。また、人間発達の視点をふまえた心理学的研究に必要な手法（計画立案、実施、分析）の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、オリエンテーションおよび概論の講義を行おこない、その後、家族関係や家族の発達に関連する研究論文（英文）の講読をおこないます。各受講生の担当を決め、担当部分の発表、およびその内容について、受講者全体で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、講義の進め方について	本講義の概要と目的の説明、および進め方についての説明
第2回	心理学における家族に関する研究の概要	本講義で扱う内容について概観する
第3回	家族に関する研究の方法論：計画立案	家族に関する研究について、計画立案の概要を紹介する
第4回	家族に関する研究の方法論：分析手法	家族に関する研究について、分析手法の概要について紹介する
第5回	家族関係の変化とは	担当受講者による家族関係の変化に関する発表と議論をおこなう
第6回	家族関係の変化を捉える研究手法	担当受講者による家族関係の変化を捉える研究方法に関する発表と議論をおこなう
第7回	生涯発達と家族関係：概論	担当受講者による生涯発達と家族関係に関する発表と議論をおこなう
第8回	生涯発達における家族関係：乳幼児期	担当受講者による乳幼児期の家族関係に関する発表と議論をおこなう
第9回	生涯発達における家族関係：児童期	担当受講者による児童期の家族関係に関する発表と議論をおこなう
第10回	生涯発達における家族関係：青年期	担当受講者による青年期の家族関係に関する発表と議論をおこなう
第11回	生涯発達における家族関係：成人期	担当受講者による成人期の家族関係に関する発表と議論をおこなう
第12回	生涯発達における家族関係：老年期	担当受講者による老年期の家族関係に関する発表と議論をおこなう

第13回	家族関係の研究動向	担当受講者による家族関係の研究動向に関する発表と議論をおこなう
第14回	総合考察	発表および議論で取り上げた内容について総合的に考察し、講義全体の総括と今後の課題について議論をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当部分についての発表の準備および発表資料の作成をしてくること。事前の発表準備・資料作成は10時間、各日の復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用の有無も含め、受講者と検討のうえ、決定します。

【参考書】

講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・発表資料の内容と議論への参加（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗や内容は、受講者人数などもふまえ、受講者と相談のうえ、柔軟に決めていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

上記の授業計画や内容は、受講生の人数、講義の進行や状況により変更があり得ます。

【担当教員の研究テーマ】

子どもや家族をとりまく環境について心理学的視点から研究しています。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various family issues from life-span developmental perspective. The goal of this course is to acquire comprehensive understanding of how family relationship is interrelated with individual development. Students will be expected to read a journal article and to make a presentation. Students will need time to prepare for one's presentation. After each class, students should spent about 2 hours to review others' presentation and cultivate understanding the contents. Grading will be decided on the presentation and in-class participation (100%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）

西田 俊男

科目分類・科目群：専門展開科目（家族・社会心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

司法、犯罪分野に関わる理論を概観し、心理職としての関与の方法、非行理解、更生のための方法について学びます。また、家事事件における基本的な知識についても学びます。演習では、表層的な情報に惑わされることなく、支援する側とされる側の両方の視点から相手を理解した上での助言や支援策を考えられるようにします。そして、単なる知識だけでなく、幅広くあたたかな人間理解の方法を学び、実践的な臨床家を育てます。

【到達目標】

司法、犯罪分野における諸問題に対して心理職の立場から相手の背景を理解し、支援について説明できる。また、実際の支援・実践策を構築、提供できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、パワポを使って進め学習支援システム（Hoppii）でレジュメやテキスト、参考資料を配付します。授業前半でテキストの概要を説明し、授業後半は、社会で起きた犯罪や非行等を取り上げ、を幾回かにわたって演習形式で進めます。さらに随時ビデオ視聴及び施設見学を行います。こうしてケース理解を深め、あたたかな臨床家を育てます。また、順番（1回につき1人）に5分間プレゼン（事例は各自が選択）の練習を行い、ケースに関するプレゼン能力を高めます。授業の欠席は、Hoppiiを使ったレポートの提出で出席とします。授業のレポートとは別に、秋期授業開始前にレポート、秋期終了時にレポート、と2回のレポート提出が、単位取得の条件です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、非行の動機など	犯罪・非行について概説し、各事件別に統計から見た犯罪・非行の推移、実態及び主な動機・背景などをみていきます。
2	犯罪心理学の系譜	生物学的原因論、心理学的原因論、社会学的要因について学びます。
3	新たな犯罪心理学	犯罪心理学分野における新たな考え方、セントラルエイト、ビッグ4、RNRモデルなど概観し、行動科学の知見の活用について学びます。
4	家庭裁判所の事件処理	家庭裁判所での処理、BPSの視点について学びます。
5	具体的な非行理解、ビデオ視聴	前回は踏まえた非行理解について学び、さらに授業内容に関係したビデオを視聴します。
6	家庭裁判所の調査と処遇	家庭裁判所の調査と処遇について学びます。
7	少年院の処遇	少年院での指導・助言、処遇プログラムなどについて学び、関連したビデオを視聴します。

8	成人事件、刑罰（無期囚と死刑囚）	地方裁判所での事件処理、刑務所、無期囚と死刑囚の心理等について学びます。
9	裁判員裁判制度、事例によるケース理解（演習形式）	裁判員裁判制度を学びます。またTATテストを実施した事例を用いて、なぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などを班別で討議、検討し、発表します。
10	事例によるケース理解（演習形式、その2）	引き続き同じ事例を用いて、その仮説に基づき、どのように働きかけたら良いか班別にて検討し、発表します。
11	事例によるケース理解（演習形式、その3）	引き続き同じ事例を用いて、TATテストからみたケース理解を学びます。
12	事例によるケース理解（演習形式、その4）	引き続き同じ事例を用いて、テスト結果のフィードバックについて学びます。
13	被害者支援について、司法面接と動機付け面接	被害者支援に関して、その制度、警察、検察段階での心理職としての関わりについて学びます。さらに、相談援助、非行防止に関する現状、子どもから事実を聞き出すための技法である司法面接、さらに、動機付け面接について学びます。
14	多様な家族	離婚による母子、父子家庭について学びます。その離婚の際の親権者決定、面会交流のあり方、ハーグ条約、子の引き渡しなど心理職が関わる際の視点、実際に紛争の中に置かれた子どもの声、などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で配布したテキストや資料をもとに各自で文献学習を行います。その学習を基礎として演習を進めていきます。各施設見学なども随時行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hoppiiにて必要なテキストを配付します。

【参考書】

綿村英一郎他編「入門司法犯罪心理学 理論と現場を学ぶ」有斐閣
河原俊也編「ケースから読み解く 少年事件－実務の技」青林書院

【成績評価の方法と基準】

授業態度・発表・意欲：52%

レポート課題の提出・評価：48%

【学生の意見等からの気づき】

学生から出されたレポートの内容、疑問点に関し、随時授業で触れ、答えていきます。また、学生の改善意見等も参考にして授業内容を改善、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

司法・矯正領域。特に家庭裁判所での事件処理、調査官調査と処遇、離婚、面会交流などについて。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室等で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

After studying the rough theory about justice and crime, we learn how to be concerned in delinquency as a psychologist, the risk assessment and treatment program for rehabilitation. We also acquire the basic knowledge domestic case. In class, we study advice and support measures from both viewpoints of the side to be supported and the side to be supported. This class is designed to become practical psychologist who have not only knowledge but also warm heart and learn extensive ways to understand human.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to explain support from the perspective of certified public psychologists on various issues in the judicial and criminal fields. In addition, we can build and provide actual support and practical measures.

[Learning activities outside of classroom]

Students will learn literature based on the materials distributed in each class. We will proceed with the exercises based on that learning. Your study time will be more than two hours for a class.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 48%、 in class contribution :52%

CIM500J2（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 500）

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

関谷 秀子

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では公認心理師に求められる保健医療分野の実践について学ぶ。

具体的にはライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療についての知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。心理専門職に必要な精神医学的見地を身につける。

【到達目標】

人間のライフサイクルと精神発達を理解する。

精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。

代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。

精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って発表者の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	ライフサイクル	乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期、初期成人期、成人期、老年期について
第3回	精神性的発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、潜伏期、思春期、性器統裁について
第4回	精神医学序論	精神医学の概念、精神障害の成因と分類
第5回	精神症状学	精神症状と状態像
第6回	精神障害①	統合失調症
第7回	精神障害②	気分障害
第8回	精神障害③	神経症性障害
第9回	精神障害④	パーソナリティ障害
第10回	精神障害⑤	器質性障害
第11回	精神障害⑥	物質関連精神障害
第12回	精神障害⑦	児童・思春期精神障害
第13回	精神医学的治療学①	薬物療法
第14回	精神医学的治療学②	心理療法（力動的な心理療法、認知行動療法、家族療法、集団療法） 精神医療における公認心理師の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を事前に予習し、授業で討論できるように準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は授業への積極的な参加(100%)に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学

【Outline (in English)】

We learn about the practice of the field of medical health care required as a licensed psychologist. Specifically, we will learn the life cycle and mind development, representative psychiatric disorders and their treatments. We will learn about theory and support in the field of medical health care. We will learn the psychiatric viewpoint necessary for psychologists. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the contribution in class.

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

金子 真人

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、脳の機能的障害として捉えられる発達障害が成人の高次機能障害と極めて近似する症状を呈することを学ぶ。同時に、発達途上である発達障害児への対応方法を障害機序を通した観点から理解することである。そして、多様な発達障害を抱えた小児の青年期へ至るより良い発達の支援を行うための柔軟な方法論とその有り様を福祉的な視点も交えて学ぶ。

特に、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、発達性協調運動障害（DCD）、自閉症スペクトラム（ASD）、知的発達障害（MR）をはじめ、虐待、引きこもりなどを臨床発達神経心理学の立場から学ぶ。

【到達目標】

主たる発達障害は、脳機能的障害と考えられるが、これらの機能的障害は神経心理学や成人の高次機能障害と密接な関係にある。講義では小児期にみられる障害と成人期の高次機能障害が対象領域を超えた共通の観点から捉えられることを示す。そして脳の機能的障害が小児と成人において共通のメカニズムで解釈できることを学ぶ。

また、発達障害児をはじめとするさまざまな障害において早期発見・早期対応が予後に重要な要因となることを理解し、成人期へと発達する個体がどのような転帰をたどり成長していくかを福祉的な視点を交えて学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の関心領域に即した講義を適宜展開していきたい。また、LDの中核である発達性読み書き障害（Dyslexia：発達性ディスレクシア）や発達性言語障害）、さらにADHDやASDとPDDなどの臨床を通して、臨床的評価法の基礎と解釈、指導法および小児言語障害全般についての知見を深めていきたい。講義では、適宜発表形式の講義も行い討議を深めていきたいと考える。参考文献および資料は適宜紹介もしくは配布する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方
第2回	発達障害に関わる中枢神経系の基礎	中枢神経系の発達理解および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第3回	脳の機能的障害としての発達障害	脳の機能的障害としての発達障害理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第4回	脳機能障害としてのADHD	脳機能障害としてのADHDの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第5回	脳機能障害としての発達性協調運動障害	脳機能障害としての発達性協調運動障害の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義

第6回	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第7回	脳機能障害としての発達性ディスレクシアの障害機序	発達性ディスレクシアの障害機序の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第8回	発達性ディスレクシアへの介入方法	発達性ディスレクシアの介入方法、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第9回	認知心理学から捉えたASD	ASDの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第10回	知能検査と知的発達障害	知的障害の質的理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第11回	発達障害と虐待	発達障害に関わる虐待の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第12回	発達障害と引きこもり	発達障害に関わる引きこもりの捉え方、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第13回	発達障害への介入とは、	多様な発達障害と介入方法を臨床検査から考える。および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第14回	まとめ	障害とはなにか。多様な障害の中核を捉えその予後を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発達障害に関する概略を理解しておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
ことばとこころの発達と障害 永井書店
よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション 永井書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加70%および発表形式講義の参加30%の様子から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
発達期における多様な障害を大脳機能との関わりから理解することは難しいという印象を持ちがちであるが、なるべく平易にかつ臨床に役立つ視点から話題を展開していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域 > 臨床発達神経心理学、小児と成人の大脳機能障害、高次脳機能障害、認知神経心理学
< 研究テーマ > ① 発達性読み書き障害の機序と援助、② 小児と成人の大脳機能障害における情報処理過程と認知機能に関する評価・検査法の開発研究、③ 高次大脳機能障害者の長期予後と回復
< 主要研究業績 > ① 「標準抽象語理解力検査」、インテルナ出版、2002年、② 「小学生の読み書きスクリーニング検査-発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)検出のために-」インテルナ出版、2006年、③ 標準 読み書きスクリーニング検査-正確性と流暢性の評価一、インテルナ出版、2017④ 気になるコミュニケーション障害の診かた；第6章第3節標準抽象語理解力検査(SCTAW)、医歯薬出版、2015、⑤ 理論と実践をつなぐ教育心理学、みらい、2019年、

【オフィスアワー】
授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: In this lecture, we learn that developmental disorders that are regarded as functional disorders of the brain exhibit symptoms similar to higher-order cerebral dysfunction in adults.

Learning Objectives: We learn the fundamentals of flexible methodology for providing better support from childhood to adolescence in children with developmental disorders(LD, ASD, DCD, MR,etc).

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper(s).

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on your presentation paper(60%), in class contribution: 40%.

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

小林 由佳

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・労働分野で働く心理職には、個別の心理的支援のほか、職場組織の環境改善、関係者との調整など、本分野特有の知識と技能が求められます。本授業では、これらの知識を習得し、技能についての理解を深め、実践で求められる思考力、判断力や倫理観を養うことを目的とします。

【到達目標】

この授業では、産業・労働分野における問題に対して必要な心理的支援を学ぶとともに、実践で求められる力を養うことを目標とします。到達目標は次の通りです。

- 1) 職場における諸問題とそれらに求められる心理的支援の概要を説明できること
- 2) 労働者の健康を守るための法規、会社の基本的な取り組みについて説明できること
- 3) 労働者への心理的支援の計画を立てることができること
- 4) 組織的な心理的支援対策を提案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、産業・労働分野における課題と心理職に求められるコンピテンシー
第2回	職場のメンタルヘルス（産業精神保健）の歴史と法規	労働者の健康管理と産業精神保健に関する法律や指針、精神障害の労災申請や民事訴訟
第3回	職場のメンタルヘルス対策の実践	働く上でのストレス要因、および企業で行ううつ病対策、過重労働対策、自殺予防対策
第4回	職場のメンタルヘルス関連疾患と対応	労働者のメンタルヘルス不調のアセスメント、基本的な対応、およびケースマネジメント
第5回	産業心理臨床の基礎	産業心理臨床において求められるケース対応の基礎知識とスキル、メール相談対応
第6回	職場のハラスメント対策	職場のハラスメント問題の理解と予防、ハラスメント発生後の対応
第7回	キャリア関連問題とキャリアコンサルティング	働く人のキャリア関連問題とキャリアコンサルティング
第8回	職場復帰支援	労働者の休職の実態、職場復帰支援体制づくりと復職支援プログラム
第9回	産業・労働分野における関係者との連携	関係者との連携において心理職が果たすべき役割と身につけておくべきスキル、マネジメントコンサルテーション

第10回	事業場内外からの支援、EAP	EAPや産業精神保健サービス提供者の活動と支援の実践
第11回	職業性ストレスとストレスチェック制度	職業性ストレス理論とストレスチェック制度の活用
第12回	職場のメンタルヘルスに関する教育研修	職場のメンタルヘルスに関する教育研修（対従業員、対管理職）、プレゼンテーションスキル
第13回	グループダイナミクスと職場環境改善	グループダイナミクスの基礎理論と職場環境改善の進め方
第14回	人と組織の活性化に向けて：心の健康づくり計画	産業・労働分野における心の健康づくりの方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献や新聞、近親者へのヒアリングなどから、働く人の健康問題、労働環境、働き方への理解を深め、心理職の役割と関係者との連携について考察を進めてください。本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。

【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」 種市康太郎・小林由佳・高原龍二・島津美由紀編著（川島書店, 2023）
「産業・労働分野（公認心理師分野別テキスト5）」 平木典子・松本桂樹編著（創元社, 2019）
「基礎からはじめる 職場のメンタルヘルス 改訂版—事例で学ぶ考え方と実践ポイント」 川上憲人著（大修館書店, 2021）
「ポジティブメンタルヘルス—いきいき職場づくりへのアプローチ」 川上憲人・小林由佳編著（培風館, 2015）
「心理職のための産業保健入門」 小山文彦著（金剛出版, 2021）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（60%）、試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

実技やディスカッション、質疑の時間を充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline : Psychologists working in the industrial and labor fields are required to have knowledge and skills specific to this field, such as individual psychological support, improving the environment of workplace organizations, and coordinating with related parties. The purpose of this class is to acquire this knowledge, deepen understanding of skills, and cultivate the ability to think, make decisions, and develop a sense of ethics required in practice.

Learning Objectives : The goal of this class is to learn the psychological support needed for workers' mental health, and to develop the skills required in the occupational health field. The objectives are as follows

- (1) To be able to give an overview of various problems in the workplace and the psychological support required for them
- (2) To be able to explain the laws and regulations of mental health care.
- (3) To be able to formulate plans for psychological support for workers
- (4) To be able to formulate plans for psychological support for the organization.

Learning activities outside of the classroom : Students need to deepen their understanding of workers' mental health problems and workplace environment through reference literature, newspapers, and interviews with close relatives. The preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading Criteria /Policy : Class participation (60%), exam (40%)

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

教育分野に関する理論と支援の展開

谷 由紀子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位
 備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、7月25日（金）・28日（月）・29日（火）。
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・学校という組織の中で心理専門職が担う役割について説明します。
 ・学校現場で求められる専門的な知識やスキルを習得することを目的とします。

【到達目標】

自分自身の個性や特徴を踏まえながら、チーム学校の一員である心理専門職としてどのように貢献するか、自分なりのイメージを描けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員と学生間で、学生同士でも質問や意見が飛び交うような活発な時間を一緒につくりましょう。事例をもとに小グループで話し合う、発表する、当事者等の話を聞く、感じたことを伝えあう、ロールプレイをするなどの機会を作っていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的、進め方を説明します。 この授業に期待すること、これまで身に付けたことなどを中心に自己紹介します。
第2回	聴く力と自己理解度、アセスメント力、今の私の自己評価	相談者とカウンセラーのロールプレイを通してお互いをアセスメントし合います。 自分は他者からどのような印象をもたれるのか、その根拠は何かを理解します。
第3回	子ども時代を振り返る	自分の子ども時代を振り返り、学校についてどういうイメージや印象をもっているか明らかにします。
第4回	学校における心理専門職の役割	学校組織や風土を理解し、教師とは異なるスクールカウンセラーの役割を考えます。
第5回	学校組織のアセスメント	事例をもとに、スクールカウンセラーとして必要な情報を収集し、学校組織をアセスメントします。
第6回	スクールカウンセリングの活動計画	アセスメントから得られた情報を用いて学校の現状を把握し、その学校に必要な支援活動計画を作ります。
第7回	発達の特徴と支援	事例をもとに、発達の特徴をもった児童・生徒への支援を考えます。

第8回	愛着障害の支援	発達の問題と見極めが難しい、愛着の問題を抱えているケースの対応事例をもとに支援の方法を考えます。
第9回	不登校	不登校の実態や現状を説明します。その上で事例をもとに不登校の対応について考えます。
第10回	子どもたちを取り巻く様々な課題	虐待、自傷、ヤングケアラーの支援について、他機関やスクールソーシャルワーカーとの連携も含めて考えます。
第11回	当事者等の話	不登校経験者や保護者、教員等の当事者の話をもとに、様々なニーズがある中で、心理職として「どうあるべきか」、「どうありたいか」を考えます。
第12回	コンサルテーション	教師役、スクールカウンセラー役に分かれてコンサルテーションのロールプレイを体験します。教師がわかりやすく、納得するコンサルテーションのあり方について考えます。
第13回	成長や変化への気付き	参加者同士で1日目との変化や違いがあれば伝えあいます。自己評価します。
第14回	まとめ	疑問、質問、感想を自由に発言しあいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクールカウンセリング、学校心理学の著書を1冊は読んでおいてください。できれば、学校で相談活動に従事しておられる方にインタビューして、学校のイメージづくりをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書としては使いません。

【参考書】

「近藤邦夫論考集 学校臨床心理学への歩み—子供たちとの出会い、教師たちとの出会い」 近藤邦夫著 福村出版
 「スクールカウンセリングのこれから」 石隈利紀・家近早苗 創元社
 「子どもの脳を傷つける親たち」 友田明美 NHK出版新書
 「どうしても頑張れない人たち」 宮口幸治著 新潮新書

【成績評価の方法と基準】

自己分析レポート40%

第2回と第12回のロールプレイの自己分析の質。自己理解は深まったか。

授業全般についての意見の発表30%

第1回と第13回の全体への表現。わかり易いか、変化はみえるか。平常点 30%

ファシリテートするセンスがあるか。積極的に興味をもってこの場やテーマにかかわれたか。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も好評であった、ロールプレイや当事者の体験談など、体験や現場の感覚を捉える機会を豊富にしながら、相互の議論を深めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【担当教員の専門分野等】

学校臨床
 キャリアカウンセリング

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

・ This class focuses on defining roles of school counselor as a professional psychologist in a school organization.

・ The purpose of this class is to get the specialized knowledge and skills required in a school field.

< Learning Objectives >

You will be able to get your own image of how to contribute as a professional psychologist as well as a member of TEAM “school”, based on your personality and characteristics.

< Learning activities outside of classroom >

Please read one book on school counseling or school psychology.

It is recommended to interview someone who is engaged in counseling activities at the school to understand a reality in school. It takes 2 hours each to prepare and review for the class generally.

< Grading Criteria /Policy >

* Self-analysis report 40%

- ・ the quality of self-analysis of the 2nd and 12th role-plays.
- ・ the depth of self-understanding

* Giving a good opinion in the class 30%

- ・ the quality of opinion of the 1st and 13th.
- ・ the level of comprehensibility/transformation

* Mark given for class participation 30%

- ・ sense of facilitation
- ・ participation and assertiveness

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

グループ・アプローチ特論

大竹 直子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチの発展、グループ・アプローチの意味、形態、適用、理論を概観した上で、臨床場面における治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチの意義と実際を学習するとともに、体験的に理解を深めます。

【到達目標】

グループ・アプローチへの理解を深めるとともに、あらためて自己理解を深め、人間理解を深め、グループ・ファシリテーターとして必要な視点や態度を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

概要

グループ・アプローチの理論

グループ・アプローチの実際

グループ体験

グループ・ファシリテーターの役割

方法

講義

演習（グループ体験）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の計画、ねらい、進め方など 演習①
2	グループアプローチの理論（１）発展、形態、適応	講義① ディスカッション①
3	ベーシック・エンカウンター・グループ	VTR ディスカッション②
4	グループ体験（１）構成的グループエンカウンター	演習②
5	教育的グループ・アプローチの理論と実際	講義② ディスカッション③
6	グループ体験（２）非言語のグループワーク	演習③
7	治療的グループ・アプローチの理論と実際（１）	講義③ ディスカッション④
8	治療的グループ・アプローチの理論と実際（２）	講義④ ディスカッション⑤
9	グループ体験（３）成長傾向のグループ	演習④
10	グループアプローチの理論（２）対象・構造・内容	講義⑤ ディスカッション⑥
11	グループ・アプローチの理論（３）ファシリテーターの役割	講義⑥ ディスカッション⑦

12 グループ体験（４） 演習⑤

ファンタジーグループ

13 グループ体験（５） 演習⑥

サイコドラマ

14 まとめ 講義⑦

ディスカッション⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ベーシック・エンカウンター・グループなどの集中的グループに参加することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、討論への参加50%、

【学生の意見等からの気づき】

授業では、グループアプローチを体験的に理解するために、グループワーク、ディスカッションなどを多く取り入れています。「自分と向き合う機会、自己理解を深める機会になった」「グループで他者とかかわる中で、価値観や視点を広げることができた」などのフィードバックをいただきました。

授業内の限られた時間と空間の中ですが、皆さんに安心してグループ体験をしていただけるよう、また体験をとらえて自己理解の機会となるよう工夫をしていきたいと考えております。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域> カウンセリング、グループ・アプローチ

< 研究テーマ> 主体性の回復、自己表現支援、教師・保育士のサポートグループなど

< 主要研究業績>

①「カウンセリングの理論①来談者中心療法」『カウンセリングの理論と方法』（北樹出版、2021年9月）

②「『教師を支える会』の役割と教師の立ち直りのプロセス」『教師が悩んだときに読む本』（図書文化社、2021年3月）

③「教師対象のサポートグループ『教師を支える会』における教師の変容過程とサポートグループが果たした機能」（日本心理臨床学会大会ポスター発表、2020年8月）

④「祈りと心理療法」『最新トランスパーソナル心理技法』（コスモスライブラリー、2015年8月）

⑤『やさしく学べる保育カウンセリング』（金子書房、2014年8月）

⑥『自己表現ワークシート』『自己表現ワークシート2』（図書文化社、2005年3月、2008年6月）ほか

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

After reviewing the development of group approaches and the meaning, forms, application and theory of group approaches, we will learn the significance and practicality of group approaches and deepen understanding experientially.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to deepen the understanding of the theory of group approach, to deepen self-understanding and human understanding, and to acquire attitude as a group facilitator.

【Learning activities outside of classroom】

It is advisable to join an intensive group such as the Basic Encounter Group. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%、in class contribution: 50%

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

飯田 敏晴

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、家族や地域社会といった人間集団に対する心理支援に関する諸理論と、それらを基にした心理学的援助実践について体系的に学ぶ。はじめに人間集団として最も身近な「家族」に焦点を当て家族療法などの心理支援の実践を学ぶ。続いて、家族を取り巻く人間集団としての「地域社会」における心理支援の在り方を、主としてコミュニティ心理学の考え方を基に学んでいく。

【到達目標】

- ・家族関係がもたらす精神病理に関する理論を説明でき、心理学的支援の方法について説明できる
- ・コミュニティ心理学の基本的な考え方を説明でき、コミュニティや地域社会での心理学的支援の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、適宜、授業内での発表や受講者とのディスカッションを取り入れる。数回のリアクションペーパーを課し、その内容についても授業内に取り上げる。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コミュニティ心理学とは	授業の目標、授業内容、成績評価方法、参考文献の紹介（序章）
第2回	人と環境の適合	生態学的発想について学びます（第1章）
第3回	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートを背景にいた支援について学ぶ（第2章）。
第4回	コンサルテーション	コンサルテーションについての講義とグループワークを通じて、その実際を学ぶ（第3章）。
第5回	ウェルビーイング	ウェルビーイングやQOLとの関係について学ぶ（第4章）
第6回	予防	コミュニティ心理学の基本にある予防について、その理論の実際について学ぶ（第5章）
第7回	ラベリング	ラベリングや臨床的バイアスなど、基本的な考え方を実践での留意点について学ぶ（第6章）
第8回	エンパワメント	コミュニティが有する力が回復していくプロセスを表す「エンパワメント」の概念と実際について学ぶ（第7章）
第9回	コミュニティ感覚	人と人とのつながりでの重要な感覚であるコミュニティ感覚について学ぶ（第8章）

第10回	セルフヘルプ	セルフヘルプグループ（ダルクやAA等）の機能や有効性について学ぶ（第9章）
第11回	ストレスコーピング	ストレス理論と心理教育（ストレスマネジメント）について学ぶ（第10章）
第12回	コラボレーション	多職種協働において必須の概念であるコラボレーションについて、講義とグループワークを通じて、その実際を学ぶ（第11章）
第13回	社会変革	現在社会における様々な心の問題を概観し、その解決に資する変革のためのポイントやそのアプローチについて学ぶ（第12章）
第14回	コミュニティ心理学の課題と展望	コミュニティ心理学の独自性について再度考える（第13章及び関連資料配布）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業内容に関連する書籍や論文を読んでおき、授業内での発表（プレゼン）の準備をする。第5回から第11回目までの講義が発表に相当します。第15回はテキストの指定資料と、事前指定論文を読んできた上で、コミュニティ心理学と今後の自身の実践についてディスカッションしていきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

現代コミュニティ心理学：理論と展開、植村勝彦、東京大学出版会、3,740円

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1）授業への能動的参加（40％：事前質問5回(20%)、グループワーク時の取り組み（10%）、リアクション（10%））、
- 2）発表（30％）
- 3）発表に対して、当日や、後日収集される他履修生や教員からの文章でのコメントに基づいて、その振り返りや事後学習を行い、その成果をレポート（30%）する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度実施時に、授業時間の超過への改善への要望を頂戴しています。時間きっかりに終えることをまずはお約束したい、と思います。

【学生が準備すべき機器他】

初回の授業に必ず出席すること。

【その他の重要事項】

保健・医療領域における実務経験あり。

【担当教員の専門分野等】

多文化カウンセリング、コミュニティ心理学、健康・医療心理学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand some theories of psychological support for a group or system of human being such as family and community. First, we learn the theories and skills of family therapy. Then we focus on so called community approach to solve psychological problems in communities. The preparation for the class such as reading research papers and /or books is required. Also the review is required. Total hours will be 2 hours for the preparation and 2 hours for the review. Participation(40%), presentation(30%) and report(30%). This grading criteria may change according to the situation of COVID-19.

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

投映法特論

北村 麻紀子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月5日（火）・6日（水）・7日（木）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

投映法の代表的な心理検査であるロールシャッハ・テストについて、基本的理解、施行方法、解釈の仕方について学ぶ。ロールシャッハ法は片口式、解釈は精神力動的な理解に基づく。

【到達目標】

ロールシャッハにおける量的分析と継起分析による解釈について、具体的、体験的に学ぶとともに、他のテスト・バッテリーを加えて、より全体的で総合的な心理アセスメントについて学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは各自が予め講読し、ロールシャッハ（片口法）の基本的構造や概念、施行方法、結果の整理の仕方などについて概要を把握しておいてもらいたい。授業では精神力動的な観点から心理アセスメントの実践について、演習の形式で学習する。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理アセスメント	心理検査の構造、投映法
第2回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの成り立ちと臨床的意義
第3回	施行法	ロールシャッハ・テストの施行法とテスト状況
第4回	スコアリングの概要	スコアリングの方法
第5回	スコアリングと集計①	スコアリングの演習（基本）
第6回	スコアリングと集計②	スコアリングの演習
第7回	スコアリングと集計③	結果の整理の仕方
第8回	スコアの意味と解釈	量的分析の解釈法
第9回	量的分析	量的分析の演習
第10回	継起分析による解釈	継起分析の解釈法
第11回	継起分析	継起分析の演習
第12回	テストバッテリー	総合的解釈
第13回	パーソナリティと精神病理の理解①	パーソナリティ傾向の理解
第14回	パーソナリティと精神病理の理解②	精神病理の理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予め読み、片口法の概要や記号の意味、結果の整理の仕方について予習していただきたいです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Read the text in advance

【テキスト（教科書）】

片口安史著「新・心理診断法」金子書房

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、レポート50％

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ロールシャッハ図版

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】

Course outline:

Katakuchi method and sequence analysis of the Rorschach test in japanese.

Grading Criteria/Policy:

participation and attitude 50%, report 50%

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

心の健康教育に関する理論と実践

金築 優

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理専門職の専門業務として、心の健康教育の実践の重要性が高まっています。本講義では、心の健康教育としての、心理教育やグループアプローチを重視し、その理論（主に認知行動療法の理論）を学びます。そして、役割演技を通して、心の健康教育の実践のためのスキルを向上させることを目的とします。

【到達目標】

心の健康教育に関する理論を理解し、実践に必要なスキルを身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心の健康教育に関する理論に関しては、資料を講読した上で、ディスカッションをし、理解を深めます。心の健康教育に関する実践に関しては、グループに分かれ、役割演技を通して、実践に必要なスキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について話し合います。
第2回	心の健康教育に関する理論—健康の捉え方—	健康の捉え方についてディスカッションします。
第3回	心の健康教育に関する理論—予防的アプローチ—	予防的アプローチについてディスカッションします。
第4回	心の健康教育に関する理論—行動論的アプローチ—	行動論的アプローチについてディスカッションします。
第5回	心の健康教育に関する理論—認知論的アプローチ—	認知論的アプローチについてディスカッションします。
第6回	心の健康教育に関する理論—身体的アプローチ—	身体的アプローチについてディスカッションします。
第7回	心の健康教育に関する実践—心理教育—	グループによる心理教育の実施の役割演技を通して学びます。
第8回	心の健康教育に関する実践—社会的スキル訓練—	グループによる社会的スキル訓練の実施の役割演技を通して学びます。
第9回	心の健康教育に関する実践—リラクゼーション技法—	グループによるリラクゼーション技法の実施の役割演技を通して学びます。
第10回	心の健康教育に関する実践—認知療法—	グループによる認知療法の実施の役割演技を通して学びます。
第11回	心の健康教育に関する実践—メタ認知療法—	グループによるメタ認知療法の実施の役割演技を通して学びます。

第12回	心の健康教育に関する実践—マインドfulness技法—	グループによるマインドfulness技法の実施の役割演技を通して学びます。
第13回	心の健康教育に関する実践—アクセプタンス技法—	グループによるアクセプタンス技法の実施の役割演技を通して学びます。
第14回	まとめ	これまでの講義を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を熟読し、感想や疑問点を明確にした上で、ディスカッションに臨むことを求めます。また、グループによる心の健康教育の実施の役割演技について、事前に相当分の準備が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）とレポート（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

役割演技を用いて学ぶ機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

主に学校・教育領域において、認知行動療法の実践と研究をしています。

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to mental health education. This course will provide training in psychological education, relaxation techniques, social skills training, and cognitive therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end report (40%), and in-class contribution (60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

力動的心理療法特論

関谷 秀子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力動的心理療法の基本を学ぶ。

【到達目標】

力動的心理療法の治療過程について学ぶ。

治療者－患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、抵抗、防衛、転移と逆転移、解釈、治療の終結について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書または論文をあらかじめ指定し、発表の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。発表の内容やディスカッションでの発言について、毎回の授業の中でフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を説明し、題材とする文献と担当を決める。
第2回	フロイトによる治療理論／精神分析療法の開始のしかた	フロイトの精神分析の方法、精神分析療法の開始時の注意点
第3回	精神分析療法を行う際の留意点①	精神分析療法の基本規則
第4回	精神分析療法を行う際の留意点②	乱暴な分析について
第5回	転移とその取扱い①	精神分析療法の経過中に現れる転移の様相、転移への対応
第6回	転移とその取扱い②	恋愛性転移についての考え方、取り扱い
第7回	メニンガーによる治療理論／解釈	解釈についての考え方と実際
第8回	グリーンソンによる治療理論／抵抗	抵抗の現れと、その解釈の実際
第9回	転移	転移解釈の方法
第10回	グリーンソンによる現実的関係(real relationship)をめぐって	心理療法の中での現実的な問題の取り扱い方
第11回	皆川による治療理論／精神分析的な心理療法の面接法	精神分析的な面接の実際、エディプス・コンプレックスについて
第12回	転移と現実的関係、超自我の理解	転移概念と現実的関係、自我心理学における超自我の理解
第13回	思春期青年期の心理療法の原則	思春期青年期の心理療法の構造と考え方
第14回	思春期患者の親に対する親ガイダンス	親ガイダンス試行上の原則、親ガイダンスの適応について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業テーマについて事前に予習し、討論できるように準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

フロイト著 著書集(人文書院)またはフロイト全集(岩波書店)

カール・メニンガー；精神分析技法論(岩崎学術出版社)

R.Greenson；The Technique and Practice of Psychoanalysis.(International University Press)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業内での話し合いや質疑への積極的な参加 (70%) や、割り当てられた文献に関するレポート (30%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで、学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、パソコンを使用し zoom を用いて授業を行う。

【担当教員の専門分野】

精神分析的精神療法、思春期青年期精神医学

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The aim of this course is to learn the basis of dynamic psychotherapy.

【Learning objectives】

The goal of this course is to learn the therapeutic process of dynamic psychotherapy. By the end of the course, students should be able to understand therapeutic contract between client and therapist, regression, resistance, defenses, transference and countertransference, interpretation, and termination of psychotherapy.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have prepared about the theme of every class meeting, and to join the discussion.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on the in class contribution (70%), and the report about the assigned article (30%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

心理療法特論

小林 由佳

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理職はクライアントの問題を理解し、提供しうる治療の中から効果的なものを選択しますが、その問題理解の視野には限界があります。本講義では、複数の心理療法およびその視点の共通点と相違点を踏まえた統合や組み合わせの試みを通して、心理的な問題を多角的に理解する視点を得ることを目的とします。

【到達目標】

本講義では、複数の心理療法の共通点と相違点、統合や組み合わせの試みを理解し、この観点から心理的な問題を見立てることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、授業の概要
第2回	心理療法への統合的アプローチ①	共通要因アプローチ
第3回	心理療法への統合的アプローチ②	技法折衷アプローチ
第4回	心理療法への統合的アプローチ③	理論統合アプローチ
第5回	心理療法への統合的アプローチ④	同化的統合アプローチ
第6回	心理療法への統合的アプローチ⑤	多元的アプローチ
第7回	各心理療法の共通点と相違点①	アセスメントと変化のメカニズム
第8回	各心理療法の共通点と相違点②	治療関係と介入技法
第9回	各心理療法の共通点と相違点③	臨床例と効果研究
第10回	不安とうつの統一プロトコル①	統一プロトコルの基本的な考え方
第11回	不安とうつの統一プロトコル②	統一プロトコルの治療手続き
第12回	プロセスベースドセラピー①	プロセスベースドセラピーの基本的な考え方
第13回	プロセスベースドセラピー②	プロセスベースドセラピーの治療手続き
第14回	授業のまとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連した課題を提示するので、授業の間にそれに取り組むことが求められます。演習を実施するため、次回講義で扱う内容の疑問点は整理しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜お知らせします。

【参考書】

「心理療法統合ハンドブック」(杉原保史、福島哲夫、誠信書房：2021)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、課題・レポート (40%)

【学生の意見等からの気づき】

課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める

【Outline (in English)】

Course outline : Psychologists understand their clients' problems and select the most effective treatment from among those they can offer, but their perspective of understanding problems is limited. In this lecture, we will attempt to examine the similarities and differences among multiple psychotherapies and their perspectives in order to gain a viewpoint from which to understand psychological problems from multiple perspectives.

Learning Objectives : The goal of this course is to understand the similarities and differences among several psychotherapies, their attempts at integration and combination, and to view psychological problems from this perspective.

Learning activities outside of the classroom : In order to conduct exercises, please organize your questions about the contents to be covered in the next lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Class participation (60%), Assignments and Reports (40%)

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

心理臨床演習

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの心理療法に関する基本的な理論と技法、そして実際に学ぶこと。

【到達目標】

子どもの心理療法において何が起きているかの基本的な理解ができ、どのように対応したらよいかのおおよその見当がつくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、教員が子どもの心理療法の導入をおこなった後、教員がパワーポイントで作成したか、書籍や研究雑誌に掲載されている、子どもの心理療法の事例を検討する。その後、子どもの心理療法の歴史、理論、技法などをより詳細に講義する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と進め方の説明
第2回	子どもの心理療法の基礎	子どもの心理療法の基本事項について講義
第3回	子どもの心理療法の事例を検討する①	虐待の事例（前半）
第4回	子どもの心理療法の事例を検討する②	虐待の事例（後半）
第5回	子どもの心理療法の事例を検討する③	ネグレクトの事例
第6回	子どもの心理療法の事例を検討する④	自閉スペクトラム症の事例
第7回	子どもの心理療法の事例を検討する⑤	精神分析的な心理療法の事例①
第8回	子どもの心理療法の事例を検討する⑥	精神分析的な心理療法の事例②
第9回	子どもの心理療法の事例を検討する⑦	子ども中心の事例
第10回	子どもの心理療法の事例を検討する⑧	研究雑誌に掲載されている事例①
第11回	子どもの心理療法の事例を検討する⑨	研究雑誌に掲載されている事例②
第12回	子どもの心理療法の歴史と理論、技法⑩	子どもの心理療法の歴史と理論、技法の講義
第13回	子ども中心プレイセラピー①	子ども中心プレイセラピーの理論と技法について詳細に学ぶ①
第14回	子ども中心プレイセラピー②	子ども中心プレイセラピーの理論と技法について詳細に学ぶ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の前に事例を読み、疑問点を整理しておくことが求められます。演習後は、事例を読み返し、演習での教員や仲間からのコメントなどを振り返ることで、事例をより豊かに理解できるようになることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。教員が実施したか、書籍や研究雑誌に掲載されている子どもの心理療法の事例を用いる。

【参考書】

授業の中で、適宜、参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事例検討への参加(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

現在の授業を継続します。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）

<主要研究業績>

『最初の児童分析家ヘルミーネ・フーケーヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究14、2014年）

『D.W.ウィニコットの「ビグル」に関する海外文献の概観－ビグルの症状をめぐる背景要因に焦点を当てて－』（単著、現代福祉研究11、2011年）

【Outline (in English)】

Course outline

Students will learn basic theories, techniques and practices related to children's psychotherapy.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Students know what happens in the psychotherapy of the child.

-Students know how I should cope in the psychotherapy of the child.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the in-class contribution(100%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

医療心理学特論

上倉 安代

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療現場における心理学的アプローチ、心理臨床家の姿勢、役割について学ぶ。

【到達目標】

医療現場における心理臨床家の姿勢・役割を理解するとともに、現場に必要な精神医学的知識、幾つかの心理療法の理論と具体的な介入の仕方について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理臨床家に必要な姿勢、医療現場における心理臨床家の役割について、文献を通して学ぶ。

また上記のテーマについて、ディスカッションを通して問題意識や理解を深めていく。

医療現場における心理学的アプローチについて、グループ発表を行い、幅広い知識を身につける。

なお、課題等の提出・フィードバックは授業内、もしくは「学習支援システム」を通じて行う予定です。また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション、グループ発表の内容確認とスケジュール決め
第2回	医療現場における心理臨床家の役割	いくつかの論文を読みながら、医療現場における心理臨床家の役割について学ぶ。
第3回	医療現場における心理臨床家の姿勢①	医療現場における心理臨床家の役割について、過去の文献・研究を通して理解を深める。
第4回	医療現場における心理臨床家の姿勢②	グループ発表とディスカッション
第5回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ①	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：不安障害）
第6回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ②	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：うつ病）
第7回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ③	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：パーソナリティ障害）
第8回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ④	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（心身症、身体表現性障害）

第9回	医療現場における心理学的アプローチの実際① ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション①
第10回	医療現場における心理学的アプローチの実際② ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション②
第11回	医療現場における心理学的アプローチの実際③ ＜森田療法＞	症例を通して森田療法の実際を学ぶ。ビデオ学習。
第12回	医療現場における心理学的アプローチの実際④ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション①
第13回	医療現場における心理学的アプローチの実際⑤ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション②
第14回	医療現場における心理学的アプローチの実際⑥ ＜他の心理療法＞	他の心理療法についてグループ発表、ディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療現場における心理臨床家の役割、精神疾患、さまざまな心理療法に関する文献を自主的に読むこと。グループ発表の準備など。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

「心理療法プリマーズ 森田療法」 北西憲二、中村敬編 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、授業態度および発表内容（50％）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、医療現場の現状を伝えながら、理論と実際の臨床を繋げられるように努めるとともに、臨床心理士の役割や姿勢を考える機会としていきたい。ディスカッションの時間も多く取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表にはパワーポイントなどを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】

医療機関における臨床の実務経験があります。実際の病院臨床の経験を紹介しつつ、医療現場における臨床家の課題、必要な知識を学べるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

心理検査、心理療法、病院臨床

＜研究テーマ＞

統合失調症者や健常者に対する臨床動作法の効果とそのメカニズム、認知症者に対する回想法、遠隔的心理支援、心理臨床初学者の成長支援、心身の融和感など

【Outline (in English)】

Psychological approach in medical settings, attitude and role of a clinical psychologist

The goals of this lecture are to understand the attitude and role of the psychological clinician in the medical field, the psychiatric knowledge required in the field, several psychotherapeutic theories and specific interventions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and research presentation (50%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理学特論 I**金築 優**

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／単位

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の基礎を学ぶために、4つの柱の内の臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助の3つについて、それらの意義や課題等について考えていきます。

【到達目標】

将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを深めることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学に関する文献を用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第2回	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史を概説します。
第3回	臨床心理学の現状	臨床心理学の現状を概説し、臨床心理学とは何かを学びます。
第4回	臨床心理面接について	臨床心理面接について概説し、臨床心理面接とは何かを学びます。
第5回	臨床心理面接にまつわる領域の検討	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、学びます。
第6回	臨床心理面接にまつわる領域のディスカッション	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第7回	臨床心理査定について	臨床心理査定について概説し、臨床心理査定とは何かを学びます。
第8回	臨床心理査定にまつわる領域の検討	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、学びます。
第9回	臨床心理査定にまつわる領域のディスカッション	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、グループ発表、ディスカッションを行います。
第10回	臨床心理地域援助等について	臨床心理地域援助等について概説し、臨床心理地域援助とは何かを学びます。
第11回	臨床心理地域援助等にまつわる領域の検討	臨床心理地域援助等に関する文献を配布し、それを用いて、学びます。

第12回	臨床心理地域援助等にまつわる領域のディスカッション1	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第13回	臨床心理地域援助等にまつわる領域のディスカッション2	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、今後の課題について議論します。
第14回	まとめ	まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表があるため、そのための準備が必要となります。また、授業で配布する資料は、次の回の授業までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容（30%）及び期末レポート（20%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を求める機会を多く作るようにします。

【担当教員の専門分野等】

主に学校・教育領域において、認知行動療法の実践と研究をしています。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the field of clinical psychology. Major topics include history and current controversies, professional activities of clinical psychologists, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process; the quality of the students' presentation in the class (30%), term-end report (20%), and in-class contribution (50%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理学特論Ⅱ

金築 優

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／単位

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の4つの柱について、それらの意義や課題等について考えていきます。

【到達目標】

将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを深めることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各受講生の修士論文のテーマと研究方法を題材にして、臨床心理学の理論や研究法を学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の進め方を示します。
第2回	臨床心理学におけるエビデンス	臨床心理学におけるエビデンスを通して、臨床心理学とは何かを学びます。
第3回	臨床心理学における研究の位置づけ1	臨床心理学における研究とは何かを概説します。
第4回	臨床心理学における研究の位置づけ2	臨床心理学における研究の意義について概説します。
第5回	臨床心理学研究における問題意識1	各自の修士論文の研究テーマについて、問題意識を題材にして、解説します。
第6回	臨床心理学研究における問題意識2	各自の修士論文の研究テーマについて、先行研究の課題を題材にして、解説します。
第7回	臨床心理学研究における問題意識3	各自の修士論文の研究方法を題材にして、解説、ディスカッションします。
第8回	臨床心理学における生物—心理—社会アプローチ	臨床心理学の今後の課題として、生物—心理—社会アプローチについて検討します。
第9回	臨床心理学における統合的アプローチ1	臨床心理学の今後の課題として、統合的アプローチについて検討します。
第10回	臨床心理学における統合的アプローチ2	統合的アプローチとエビデンスを紹介し、ディスカッションします。
第11回	臨床心理学の多様性	臨床心理学の今後の課題として、文化・多様性・テクノロジーを取り上げて、臨床心理学とは何かについて考えを深めます。
第12回	臨床家の成長プロセスについて	臨床家の成長プロセスに関連する研究を紹介します。

第13回 臨床家の心理的健康 臨床家の心理的健康に関連する研究を紹介し、ディスカッションします。

第14回 秋学期のまとめ 秋学期に学んだことを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表があるため、そのための準備が必要となります。また、授業で配布する資料は、次の回の授業までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容（30%）及び期末レポート（20%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を求める機会を多く作るようにします。

【担当教員の専門分野等】

主に学校・教育領域において、認知行動療法の実践と研究をしています。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore the fundamentals of clinical psychology through four main pillars: clinical psychological interviews, clinical psychological assessments, clinical psychological community support, and research methods in clinical psychology. Throughout, we will delve into their significance, challenges, and other relevant considerations to understand the foundational aspects of clinical psychology.

Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process; the quality of the students' presentation in the class (30%), term-end report (20%), and in-class contribution (50%).

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

小野 純平

科目分類・科目群：研究指導科目
 配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学的援助を基盤として、修士論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成します。

【到達目標】

当該領域における専門性の高い知識を獲得し、あわせて論文作成の基本的なスキルを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、国内外の文献の読み込み、テーマの決定、調査・実施方法の検討、論文の執筆などについて、きめ細かな個人指導を行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文作成の過程について
第2回	文献収集の技法（国内）	国内文献収集技法
第3回	文献収集の技法（海外）	海外文献収集技法
第4回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み（研究動向）	収集した文献から当該分野の研究動向を明らかにする
第5回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み（課題）	収集した文献から当該分野における課題を明らかにする
第6回	テーマ決定	問題の所在から目的を絞り込む
第7回	研究方法の検討①	質問紙調査法、実験法、インタビュー法などの検討
第8回	研究方法の検討②	質問紙調査法、実験法、インタビュー法などの追加と修正
第9回	研究方法の検討③	質問紙調査法、実験法、インタビュー法などの精査
第10回	分析法の検討①	分析方法の方針の検討
第11回	分析法の検討②	分析に使用する統計法の検討
第12回	分析法の検討③	分析方法についての精査
第13回	調査等の実施の報告①	調査等の実施に関する第1次報告
第14回	調査等の実施の報告②	調査等の実施に関する修正の可否の検討
第15回	調査等の実施の報告③	調査等の実施に関する最終報告
第16回	中間報告①	論文執筆スケジュールの検討
第17回	中間報告②	分析の進捗状況の報告
第18回	中間報告③	分析法の精査
第19回	中間報告④	統計法の分析方針の決定
第20回	論文執筆指導①	結果の記述の方針
第21回	論文執筆指導②	結果の記述の第1次報告
第22回	論文執筆指導③	結果の記述の追加報告
第23回	論文執筆指導④	結果の記述の精査
第24回	論文執筆指導⑤	考察方針の決定
第25回	論文執筆指導⑥	結果から考察への流れの精査
第26回	論文執筆指導⑦	考察の最終検討
第27回	論文執筆指導⑧	全体の流れの精査
第28回	まとめ	最終精査と論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は、文献の精査から問題の洗い出し、調査・実験方法の決定など、主体的な取り組みが必要となります。論文指導日までに、現在の進捗状況について簡潔に説明できるよう、入念な準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

修士論文指導（80％）
 研究への積極的な取り組み（20％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定
 <研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援
 <主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）
 『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）
 『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）
 『臨床心理学30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査 KABC-II と CHC 理論に基づくクロスバタリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）
 『発達障害と愛着障害の理解と支援―事例を通して―』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）
 『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline (in English)】

The purpose of the master's thesis is to help develop students' research and scholarship skills. These skills include concise, focused conceptualization and writing. In addition to acquiring highly specialized knowledge in the field, students will be able to acquire basic skills for writing papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on master's thesis(80%), and research initiatives(20%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

金築 優

科目分類・科目群：研究指導科目
配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関する修士論文を作成するために必要なスキルについて指導します。

【到達目標】

修士論文を最終提出することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の修士論文の作成段階に応じて、必要なスキルを指導します。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の指導の進め方について説明します。
第2回	修士論文のテーマについて1	各自の修士論文のテーマについて個人発表してもらいます。
第3回	修士論文のテーマについて2	各自の修士論文の問題意識について個人発表してもらいます。
第4回	先行研究について1	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究を展望します。
第5回	先行研究について2	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究の課題を展望します。
第6回	研究デザインについて1	修士論文の研究デザイン（例、研究参加者等）を検討します。
第7回	研究デザインについて2	修士論文の研究デザイン（例、用いる質問紙等）を検討します。
第8回	研究デザインについて3	修士論文の研究デザイン（例、手続き等）を検討します。
第9回	研究デザインについて4	修士論文の研究デザイン（例、教示等）を検討します。
第10回	研究デザインについて5	修士論文の研究デザイン（例、データの分析方法等）を検討します。
第11回	データ収集のための準備1	データ収集の仕方（例、調査法等）について確認を行います。
第12回	データ収集のための準備2	データ収集の仕方（例、実験法等）について確認を行います。
第13回	データ収集のための準備3	データ収集の仕方（例、面接法等）について確認を行います。
第14回	データ収集とデータの処理1	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について検討します。
第15回	データ収集とデータの処理2	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について検討します。
第16回	データ収集とデータの処理3	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。

第17回	データ収集とデータの処理4	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について指導します。
第18回	データ収集とデータの処理5	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理を検討します。
第19回	データの分析と結果のまとめ1	データの分析（例、基本統計量等）を進め、結果をまとめます。
第20回	データの分析と結果のまとめ2	データの分析（例、分散分析等）を進め、結果をまとめます。
第21回	データの分析と結果のまとめ3	データの分析（例、相関分析等）を進め、結果をまとめます。
第22回	データの分析と結果のまとめ4	データの分析（例、多変量解析等）を進め、結果をまとめます。
第23回	データの分析と結果のまとめ5	データの分析（例、質的分析）を進め、結果をまとめます。
第24回	考察について1	研究結果を踏まえ、考察を進めます。
第25回	考察について2	研究結果を踏まえ、どのように考察をするか検討します。
第26回	考察について3	研究結果を踏まえ、考察を深めます。
第27回	修士論文の本文の推敲	論文の構成を確認します。
第28回	修士論文の本文の推敲	論文の文章表現を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、随時修士論文の進捗状況の報告を求めますので、その際には、資料を用いて説明するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の制作過程（60%）と最終的に提出された修士論文の内容（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく早い段階でデータ収集ができるように進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
<研究テーマ>
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究
<主要研究業績>
『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究16(3)、2008年）
『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究17(3)、2010年）

【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to undertake thesis project about cognitive behavior therapy. Students will acquire enhanced research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' research (40%), and the process of research (60%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

久保田 幹子

科目分類・科目群：研究指導科目
 配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を作成する

【到達目標】

修士論文のテーマを設定し、先行研究の調査、研究の実施を通して論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文作成に向けて、関心のあるテーマについて事前学習を行う。修士論文の研究テーマを決定し、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成を行う。

なお、課題等のフィードバックはオフィスアワーや、学習支援システムを通じて行う予定です。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、論文作成の手順について
第2回	テーマ決定の事前学習	関心のあるテーマについてディスカッション
第3回	文献収集の技法	文献収集の方法について
第4回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表①	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる①
第5回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表②	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる②
第6回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表③	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる③
第7回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表④	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる④
第8回	テーマ決定	修士論文のテーマを決定する。
第9回	調査・研究法の検討①	研究の目的、方法を検討し、実施する①
第10回	調査・研究法の検討②	研究の目的、方法を検討し、実施する②
第11回	調査・研究法の検討③	研究の目的、方法を検討し、実施する③
第12回	調査・研究法の検討④	研究の目的、方法を検討し、実施する④
第13回	調査・研究法の検討⑤	研究の目的、方法を検討し、実施する⑤
第14回	調査・研究法の検討⑥	研究の目的、方法を検討し、実施する⑥
第15回	調査・研究結果の検討①	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める①
第16回	調査・研究結果の検討②	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める②

第17回	調査・研究結果の検討③	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める③
第18回	調査・研究結果の検討④	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める④
第19回	調査・研究結果の検討⑤	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑤
第20回	調査・研究結果の検討⑥	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑥
第21回	論文執筆指導①	研究結果を元に論文を作成する①
第22回	論文執筆指導②	研究結果を元に論文を作成する②
第23回	論文執筆指導③	研究結果を元に論文を作成する③
第24回	論文執筆指導④	研究結果を元に論文を作成する④
第25回	論文執筆指導⑤	研究結果を元に論文を作成する⑤
第26回	論文執筆指導⑥	研究結果を元に論文を作成する⑥
第27回	論文執筆指導⑦	研究結果を元に論文を作成する⑦
第28回	論文執筆指導⑧	研究結果を元に論文を作成する⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの選択、方法論を吟味するために、主体的に文献を検索し、先行研究を調査すること。研究テーマの理解を深めるためにも、幅広く情報収集すること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成に向けての研究姿勢（50%）および修士論文（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

関心のあるテーマを尊重し、実際の臨床に役立つ研究・修士論文となるよう段階的に指導していきたい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提起・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）

2)『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）

3)久保田幹子：対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78

4)久保田幹子：森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】

Creating a master's thesis.

The goal of this lecture is to set the topic of the master's thesis, investigate previous research and complete the thesis through the implementation of the research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on master's thesis (50%) and academic attitudes in writing process (50%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

小林 由佳

科目分類・科目群：研究指導科目
 配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身のリサーチクエスチョンを構造化し、適切な方法を用いて明らかにすること、さらに修士論文として表現する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

修士論文作成を通して、研究を進めるための技術の習得、および研究テーマに関する専門的知見を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を作成するための個人指導を行います。研究の進捗や展開に応じて、授業計画を若干変更する可能性があります。課題等の提出・フィードバックは対面もしくはメールにて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文作成の進め方について
第2回	研究テーマの検討 1	各自の問題意識について
第3回	研究テーマの検討 2	各自のテーマについて
第4回	先行研究 I	テーマに関連した先行研究のまとめ
第5回	先行研究 2	課題に関わる先行研究のまとめ
第6回	研究デザイン 1	リサーチクエスチョンと仮説
第7回	研究デザイン 2	研究方法の検討
第8回	研究デザイン 3	質問紙、対象者等の検討
第9回	研究デザイン 4	データ解析方法の検討
第10回	データ収集の方法 1	データ収集の手続きの確認
第11回	データ収集の方法 2	データ収集の準備状況の確認
第12回	データ収集の方法 3	データ収集の段取りの確認
第13回	データ処理の方法 1	収集したデータの取り扱いの確認
第14回	データ処理の方法 2	収集したデータの分析方法の確認
第15回	データの分析 1	基本的な集計実施
第16回	データの分析 2	データ解析の実施
第17回	データの分析 3	データ解析結果の解釈
第18回	考察の検討 1	考察の概要整理
第19回	考察の検討 2	考察の内容の組み立て
第20回	考察の検討 3	考察の詳細の検討
第21回	論文執筆の指導 1	論文執筆の開始
第22回	論文執筆の指導 2	先行研究の執筆
第23回	論文執筆の指導 3	目的と方法の執筆
第24回	論文執筆の指導 4	結果の執筆
第25回	論文執筆の指導 5	結果の修正
第26回	論文執筆の指導 6	考察の執筆
第27回	論文執筆の指導 7	考察の修正
第28回	まとめ	修士論文の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースでは、修士論文作成に関わる過程（文献研究、研究デザインの決定、データの収集と分析、考察など）全てにおいて主体的な取り組みが必要となります。指導日には進捗状況について説明できるように準備を整えてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成における研究姿勢（60％）と論文の内容（40％）から評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧に指導を進めます。

【その他の重要事項】

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法
 < 研究テーマ > 働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ
 < 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020. 2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定:デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020. 3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to help students develop the ability to structure their own research questions, clarify them using appropriate methods, and express them in a master's thesis.

Learning Objectives : Through the preparation of a master's thesis, the goal is to master the techniques for conducting research and to deepen one's expertise in the subject matter of the research.

Learning activities outside of the classroom : In this course, students are required to work independently in all processes related to the preparation of their master's thesis, including literature research, determination of the research design, collection and analysis of data, and discussion. Please be prepared to explain your progress on the day of instruction. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Research attitude in writing master's thesis (60%) and quality of the thesis (40%)

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

末武 康弘

科目分類・科目群：研究指導科目
 配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第2回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Aを中心に指導
第3回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Bを中心に指導
第4回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Cを中心に指導
第5回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第6回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Aを中心に指導
第7回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Bを中心に指導
第8回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Cを中心に指導
第9回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第10回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Aを中心に指導
第11回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Bを中心に指導
第12回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Cを中心に指導
第13回	リサーチクエスションの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチクエスションを作成し検討します。院生Aを中心に指導。
第14回	リサーチクエスションの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチクエスションを作成し検討します。院生B、Cを中心に指導
第15回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第16回	データ収集とその処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第17回	データ収集とその処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Aを中心に指導
第18回	データ収集とその処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Bを中心に指導
第19回	データ収集とその処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Cを中心に指導
第20回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Aを中心に指導
第21回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Bを中心に指導

第22回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Cを中心に指導
第23回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生Aを中心に指導
第24回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院生Bを中心に指導
第25回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院生Cを中心に指導
第26回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Aを中心に指導
第27回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Bを中心に指導
第28回	論文執筆の指導③、まとめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Cを中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文作成のための学習活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の執筆過程（60％）と論文の内容（40％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
 ＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
 ＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research methodology, skill to write a master's thesis on clinical psychology. And You should complete master thesis.

The goals of this course are to acquire knowledge, research methodology and skill to write a master's thesis on clinical psychology and to complete your master's thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on master's thesis (40%), and academic attitudes in the writing process (60%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

関谷 秀子

科目分類・科目群：研究指導科目
配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の分野に関連したテーマを選択し、専門書や論文を調べ、研究計画を立案し
修士論文としてふさわしい論文を書き上げる。

【到達目標】

適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする。基本的に個別的な指導を原則とする。授業計画は学生のテーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性がある。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画の要点を検討。
第2回	研究計画の概要の検討2	研究計画の要点を精査
第3回	研究計画の概要の検討3	構想発表会に向けての整理
第4回	研究計画の概要の検討4	構想発表会に向けての仕上げ
第5回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究の資料を収集
第6回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究を整理
第7回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考
第8回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第9回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第10回	調査研究の内容の検討1	調査方法を具体的に検討していく
第11回	調査研究の内容の検討2	調査対象の選定を議論する
第12回	調査研究の内容の検討3	調査対象を検討
第13回	調査研究の内容の検討4	統計処理方法を検討
第14回	完成した調査計画や調査表のチェック1	調査方法やスケジュール検討
第15回	完成した調査計画や調査表のチェック2	調査の具体方法や項目のチェックー夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理

第16回	調査したデータの処理1	収集したデータを実際に統計処理
第17回	調査したデータの処理2	統計処理された結果のまとめ
第18回	調査したデータの処理3	統計処理された結果を読み込む
第19回	調査したデータの処理4	統計処理データの結果を検証
第20回	調査結果のまとめと検討1	先行研究とデータから得られた結果を比較
第21回	調査結果のまとめと検討2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第22回	考察の検討1	考察の概要を整理。
第23回	考察の検討2	考察の詳細を検討していく
第24回	考察の検討3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第25回	考察の検討4	考察の内容を最終的に決定していく
第26回	論文の実際の仕上げ1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第27回	論文の実際の仕上げ2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第28回	論文の実際の仕上げ3	論文の「結果」を仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50％）と論文作成の知識・技術の習得（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】

We will read specialized books and articles, make study plans and finish writing an article that is suitable for a master's thesis concerning your thesis in the field of the clinical psychology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (50%), the knowledge and technique of the article making (50%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目はオリジナリティがあり、臨床的価値が高い修士論文を学生が作成できるのを目指す。

【到達目標】

修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を作成するため、先行研究の検索、研究テーマの設定、データ解析の方法、調査結果の解釈、論文の構成などについて個別に指導する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文の作成の進め方とタイムテーブル
第2回	文献検索と収集の仕方①	文献の検索と収集の仕方
第3回	文献検索と収集の仕方②	文献検索と収集の実践
第4回	研究テーマの絞り込み①	関心の報告
第5回	研究テーマの絞り込み②	関心を絞り込む
第6回	研究テーマの絞り込み③	明確にされた関心に関連する先行研究の探索
第7回	研究テーマの絞り込み④	関連する先行研究から関心の絞り込み
第8回	研究テーマの決定	研究テーマの決定
第9回	調査方法の検討①	研究テーマに合った調査方法の検討
第10回	調査方法の検討②	研究テーマに関する先行研究の調査方法を探索
第11回	調査方法の検討③	研究テーマに合った先行研究の調査方法を検討
第12回	調査方法の検討④	研究テーマに合った先行研究の調査方法の絞り込み
第13回	調査方法の検討⑤	研究テーマに合った調査方法の決定
第14回	調査の実施	調査の実施の指導
第15回	調査データの解析方法の検討①	調査で得たデータの解析方法の検討
第16回	調査データの解析方法の検討②	解析方法を絞り込む
第17回	解析結果①	基本的な統計結果を出す
第18回	解析結果②	必要な解析をほぼ全て行う
第19回	解析結果の解釈①	結果の解釈を行う
第20回	解析結果の解釈②	結果全体を説明できる物語の構築
第21回	論文執筆①	論文執筆の開始
第22回	論文執筆②	先行研究の再検討の執筆

第23回	論文執筆③	目的と方法の執筆
第24回	論文執筆④	調査結果の執筆
第25回	論文執筆⑤	調査結果の修正
第26回	論文執筆⑥	考察の執筆
第27回	論文執筆⑦	考察の修正
第28回	論文の最終チェック	完成した修士論文の最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導前は、修士論文の作成を進め、その進行状況と疑問点などを報告できるように準備をすることが求められます。指導の後は、教員からの助言やコメントを修士論文の作成に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

現状を維持します。

【その他の重要事項】

研究の進み具合に応じて変更することがある。

【担当教員の専門分野】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）

<主要研究業績>

『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）
『ジェラルド・キャブランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『最初の児童分析家ヘルミーネ・フークーヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究14、2014年）主な研究業績>
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（単著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】

Course outline

This subject aims to allow students to create a master's thesis with originality and high clinical value.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to complete a master's thesis

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the approach to master's thesis making(100%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

服部 環

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に向け、専門的知識と研究方法を習得します。

【到達目標】

先行研究を幅広く概観し研究テーマと研究が依拠する方法論の方向性を定め、同時に専門的知識と技術を習得していくこと目標とし、修士論文の作成へとつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

内外の研究論文と書籍を通して先行研究を概観し、その意義と問題点、残された課題等を確認していきます。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究指導内容について確認する
第2回	先行研究の調査	各自の研究テーマに関連する内外の先行研究を調べます
第3回	先行研究の精査	不足のないよう内外の先行研究を調べます
第4回	研究テーマの確定	先行研究の意義と問題点、残された課題等を整理します
第5回	研究計画の立案(1)	研究計画を立てます
第6回	研究計画の立案(2)	引き続き研究計画を立てます
第7回	研究計画の立案(3)	研究計画を見直します
第8回	研究の遂行(1)	データ収集の準備をします
第9回	研究の遂行(2)	研究を遂行し、データ収集を行います
第10回	データの確認	収集したデータの妥当性を確認します
第11回	データの基礎分析(1)	基本的な分析を行います
第12回	データの基礎分析(2)	引き続き収集したデータを分析します
第13回	分析の見直し	分析手法を見直します
第14回	データの再分析	収集したデータを再度、分析します
第15回	ガイダンス	後期の予定を確認します
第16回	執筆状況の確認	それまでの論文執筆状況を確認します
第17回	論文執筆(1)	論文執筆を続けます
第18回	論文執筆(2)	引き続き、論文執筆を続けます
第19回	見直しと論文執筆	執筆内容を見直しながら論文執筆を続けます
第20回	執筆内容の検討	執筆内容を検討します
第21回	中間発表	中間発表を行います
第22回	推敲(1)	論文を推敲していきます
第23回	推敲(2)	引き続き、論文を推敲していきます
第24回	全体の見直し	論文全体を見直します
第25回	配布資料の作成(1)	配布する資料を作成します

第26回	配布資料の作成(2)	引き続き、配布する資料を作成します
第27回	スライドの作成(1)	スライドを作成します
第28回	スライドの作成(2)	引き続き、スライドを作成します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究論文と書籍を読み込んでいきますが、特に研究論文は自身でポイントを整理していくことが理解を深めることになりますので、論文ごとに問題と研究目的、研究方法、結果とその分析方法、考察をまとめていきます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜、論文と書籍を紹介します。

【参考書】

心理学研究法や心理データ解析法に関する書籍が参考になります。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆への姿勢（40%）、研究成果（30%）、修士論文の内容（30%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に論文や書籍を読み進めていくことを期待しています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

教育心理測定学、心理データ解析

＜研究テーマ＞

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

＜主要研究業績＞

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）
- (2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）
- (3) 日本版KABC-IIマニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）
- (4) Q&A心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to provide students with the academic skills related to psychological research and writing master's thesis.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to acquire the specialized knowledge and skills necessary to write a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: The attitude toward writing a thesis (40%), the content of research results (30%), and the quality of a master's thesis (30%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

望月 聡

科目分類・科目群：研究指導科目
配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文に関わる研究遂行や論文執筆に関する指導を行います。
完成度の高い修士論文を作成することを目的とします。

【到達目標】

研究テーマに関わる専門的な知見や手法を学ぶことができます。
実際に研究を遂行する経験によって、研究デザインや研究法、統計的分析などの技能を深く身につけることができます。
修士論文の執筆を経験することにより、研究論文執筆の技能を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。修士論文にかかる研究指導のための科目ですから、基本的には受講生が能動的に学修を進めていくスタイルになります。
受講生各自により研究は進められ、その進捗状況に応じて指導・助言を行います。授業計画に記載された各回の進度は受講生それぞれに変わることがあります。
対面時に直接、もしくはメール等により、随時フィードバックを行います。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文作成までのプロセスについて理解する。
第2回	研究のかたちをつくる (1-1)：リサーチエス ションの探索	研究のアイデアから、関連する研究論文を検索・調査し、読んでみる。
第3回	研究のかたちをつくる (1-2)：リサーチエス ションの構造化	自分の経験から生じた疑問や関心をリサーチエスションの形に構造化する。
第4回	研究のかたちをつくる (1-3)：リサーチエス ションの洗練	臨床心理学研究における典型的な問いの形、研究デザインや統計的手法のバリエーションの観点から、自らのリサーチエスションを洗練させる。
第5回	研究のかたちをつくる (1-4)：リサーチエス ションの確定	優れたリサーチエスションが備えるべき5つの条件に照らして吟味し、リサーチエスションを確定させる。
第6回	研究のかたちをつくる (2-1)：研究型の検討	仮説検証型研究となるのか、仮説生成型研究になるのかを吟味する。
第7回	研究のかたちをつくる (2-2)：仮説の導出	データの分析枠組み、研究者と対象との関係性などについて検討し、仮説を設定する（仮説検証型研究の場合）。
第8回	研究のかたちをつくる (3-1)：研究法・研究デ ザインの検討	研究法（実験法・調査法・観察法・面接法・検査法）、研究デザイン（仮説検証型／仮説生成型、量的研究／質的研究）について検討する。
第9回	研究のかたちをつくる (3-2)：研究法・研究デ ザインの決定	研究法および研究デザインを総合的な観点から吟味し、研究計画を決定する。
第10回	研究のかたちをつくる (4) 研究遂行の準備	研究計画に沿って研究実施の準備を行う（実験や質問紙調査等の実施に必要なマテリアルを準備し点検する）。
第11回	研究を遂行する(1-1)： データの収集開始	研究計画に沿ってデータ収集を開始する。
第12回	研究を遂行する(1-2)： データの収集続行	研究計画に沿ってデータ収集を続行する。
第13回	研究を遂行する(1-3)： データの収集終了	研究計画に沿ってデータ収集を終了する。
第14回	中間まとめ	現在までの進捗状況を確認し、第15回以降の予定を確認する。
第15回	研究を遂行する(2-1)： データの分析開始	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を開始する。
第16回	研究を遂行する(2-2)： データの分析続行	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を続行する。
第17回	研究を遂行する(2-3)： データの分析終了	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を終了する。

第18回	研究を遂行する(3-1)： 考察の検討	分析結果をもとに、研究成果について考察を行う。
第19回	研究を遂行する(3-2)： 結論の検討	分析結果をもとに、研究成果について結論を導く。
第20回	研究を遂行する(3-3)： 考察・結論の確定	考察と結論を吟味し、確定する。
第21回	論文を執筆する(1)： 「方法」	論文の「方法」セクションの執筆完了を目指す。
第22回	論文を執筆する(2)： 「結果」	論文の「結果」セクションの執筆完了を目指す。
第23回	論文を執筆する(3)： 「問題と目的」	論文の「問題と目的」セクションの執筆完了を目指す。
第24回	論文を執筆する(4)： 「考察」	論文の「考察」セクションの執筆完了を目指す。
第25回	論文を執筆する(5)： 「引用文献」「目次」等	論文のその他のセクション（「引用文献」「目次」等）の執筆完了を目指し、論文全体の完成に近づける。
第26回	論文を完成させる	論文全体を通して推敲し、修士論文を完成させる。
第27回	発表準備	口頭試問や修士論文発表会に向けてプレゼンテーションを作成する。
第28回	まとめ	口頭試問、修士論文発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文作成に係る指導を受ける科目であるため、主体的に取り組み、研究を進めていく必要があります。したがって、授業時間外の学習に多くの時間を必要とします。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

日本心理学会（2022）. 執筆・投稿の手びき（2022年版） <https://psych.or.jp/manual>
下山 晴彦・能智 正博（編）（2008）. 心理学の実践的研究法を学ぶ（臨床心理学研究法1） 新曜社
杉浦 義典（2009）. アナログ研究の方法（臨床心理学研究法4） 新曜社
南風原 朝和（2011）. 量的研究法（臨床心理学をまなぶ7） 東京大学出版会
能智 正博（2011）. 質的研究法（臨床心理学をまなぶ6） 東京大学出版会
サトウ タツヤ・春日 秀朗・神崎 真実（編）（2019）. 質的研究法マッピング——特徴をつかみ、活用するために—— 新曜社

【成績評価の方法と基準】

修士論文の内容・完成度（80%）、研究への取り組み（20%）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course provides guidance on conducting research and writing theses related to the master's thesis.

The objective is to produce a highly complete master's thesis.

[Learning Objectives]

You will be able to learn specialized knowledge and methods related to your research topic.

Through the experience of conducting actual research, you will acquire in-depth skills in research design, research methods, and statistical analysis.

Through experience in writing a master's thesis, students will acquire skills in writing research papers.

[Learning activities outside of classroom]

Since this is a course in which students receive guidance on the preparation of their master's thesis, they need to work independently and carry out their research. Therefore, students will need to spend a lot of time studying outside of class hours.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria /Policies]

A comprehensive evaluation will be made based on the content and completion of the master's thesis (80%) and research efforts (20%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義 I

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は、受講者と相談しながら決定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	文献研究1	文献研究を行う1
第3回	文献研究2	文献研究を行う2
第4回	文献研究3	文献研究を行う3
第5回	文献研究4	文献研究を行う4
第6回	文献研究5	文献研究を行う5
第7回	文献研究6	文献研究を行う6
第8回	文献研究7	文献研究を行う7
第9回	文献研究8	文献研究を行う8
第10回	文献研究9	文献研究を行う9
第11回	文献研究10	文献研究を行う10
第12回	文献研究11	文献研究を行う11
第13回	文献研究12	文献研究を行う12
第14回	文献研究13	文献研究を行う13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、考察してくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Lecture on research trends on social welfare principles and thought

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉社会系特殊講義 I

岡田 栄作

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Evidence Based Practice (EBP; 根拠に基づいた実践)の基礎について、原書講読を通して考察します。

【到達目標】

- ①研究のゴールと研究プロセスについて理解する。
- ②研究構想・デザイン・計画立案のプロセスについて理解する。
- ③研究倫理に関する指針や研究費申請書に書く内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、教室内での講義のほか、グループディスカッションなどのグループワークを行います。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究のゴールと研究プロセス	研究とは何か、研究の種類について学ぶ。
第2回	良い研究の条件とは	研究の質を決める軸や研究の新規性について学ぶ。
第3回	研究の種類を選択について	研究の種類について知り、研究の種類選択の時に気をつけることを学ぶ。
第4回	論文の種類	論文の種類について知り、論文を書く上でのポイントを学ぶ。
第5回	研究テーマの選び方	研究テーマの決め方について学ぶ。
第6回	研究構想・デザイン・計画の作り方	研究の着想から計画まで、研究構想や仮説を育てるための関連要因図の書き方について学ぶ。
第7回	原著論文の構成	原著論文の構成・構造について学ぶ。
第8回	背景と文献レビューのまとめ方	背景と文献レビューの構造について書くべきポイントを学ぶ。
第9回	研究目的と対象と方法の書き方	目的・対象・方法に書くべきことを学ぶ。
第10回	研究倫理に関する指針	研究倫理に関する指針について知り、倫理申請のポイントについて学ぶ。
第11回	研究助成申請書の書き方	研究助成申請書の作成上のポイントや書き方について学ぶ。
第12回	結果・考察・結論の考え方・書き方	結果・考察・結論の位置づけと書き方について学ぶ。
第13回	STROBE 声明とは	研究論文を批判的に読むために必要なSTROBE 声明について学ぶ。
第14回	まとめ	今までの学んだ内容の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることと、学びを深めて頂きたい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤克則（2018）『研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（50％）、課題の提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを活用し、学生のみさんの意見や要望を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
<研究テーマ>介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
<主要業績>

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）

『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline (in English)】

・ Course Overview

The purpose of this course is to consider the fundamentals of Evidence Based Practice (EBP) through reading original texts.

・ Learning Objectives

① Understand the goals and research process of research.

② Understand the process of research conception, design, and planning.

③ Understand guidelines for research ethics and what to write in research grant applications.

・ Learning activities outside of classroom

Students are required to complete required assignments after each class. Study time is at least 4 hours per class.

・ Grading criteria/policy

Participate in lecture presentations and discussions (50%), submit assignments (50%)

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅰ

眞保 智子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

障害者政策における社会的な課題とそれに対応する制度等のあり方に関する近年の研究動向について講義します。

【到達目標】

障害者雇用に関わる制度・政策論と就労支援について、障害者福祉制度を踏まえ、障害者の雇用・就労について、障害者の労働参加のあり方を考える視点から、障害者雇用・就労に関する研究方法の展開と課題を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用・就労に関する制度・政策論と支援実践について、関連文献をもとに障害者雇用・就労研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションを行います。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第2回	近代社会と労働	近代思想と労働について、その認識や発見について整理する
第3回	近代社会と障害者の生活世界	障害者福祉の位置づけについて
第4回	障害者福祉制度・政策体系	歴史的変遷から特質を学ぶ
第5回	障害者福祉制度・政策体系（障害別制度の体系）	障害者福祉制度の特質と課題について
第6回	障害者の就労に関する制度・政策体系（福祉的就労制度）	所謂福祉的就労制度の特質と課題について
第7回	障害者雇用に関する制度・政策体系（雇用促進法と雇用率制度）	雇用促進法の体系と雇用率の特質と課題について
第8回	障害者雇用に関する制度・政策体系（特例子会社制度）	特例子会社制度の特質と課題について
第9回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（福祉サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（障害者総合支援法等による支援）
第10回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（労働サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（労働施策における支援）
第11回	障害者就労とソーシャルワーク	IPSの理論と実践
第12回	障害者就労とソーシャルワークの理論	ストレングスモデルの理論と実践
第13回	障害者就労支援とソーシャルワークの実践	「比較優位」の視点による就労支援の実践

第14回 差別禁止法制と割当 わが国と諸外国の障害者雇用制度の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外の文献や諸状況を事前に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加準備および発言：50% 課題レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞

- 1 障害者の就労とキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of disability studies and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50%) and in-class presentation (50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅱ

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

【授業の進め方と方法】

指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は、受講者と相談しながら決定する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	文献研究1	文献研究を行う1
第3回	文献研究2	文献研究を行う2
第4回	文献研究3	文献研究を行う3
第5回	文献研究4	文献研究を行う4
第6回	文献研究5	文献研究を行う5
第7回	文献研究6	文献研究を行う6
第8回	文献研究7	文献研究を行う7
第9回	文献研究8	文献研究を行う8
第10回	文献研究9	文献研究を行う9
第11回	文献研究10	文献研究を行う10
第12回	文献研究11	文献研究を行う11
第13回	文献研究12	文献研究を行う12
第14回	文献研究13	文献研究を行う13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、考察してくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しました。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Lecture on research trends on social welfare principles and thought

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅱ

岡田 栄作

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保健・医療・福祉に関連した制度や基礎知識、理論についての理解を深め、ソーシャル・キャピタルがどのように健康・福祉に関連するのか体系的に学びます。

【到達目標】

- ①保健医療・福祉活動における基本理念と目標について理解し、説明できる。
- ②保健医療と福祉、各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動や福祉政策の実際や動向について理解できる。
- ③ソーシャル・キャピタルがどのように健康・福祉に関連するのかを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、教室内での講義のほか、グループディスカッションなどのグループワークを行います。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この講義の進め方。評価等について
第2回	保健医療福祉活動の基本理念と健康の意義	保健医療福祉活動の基本理念と健康とは何かについて学ぶ。
第3回	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーション	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーションを推進する重要性について学ぶ。
第4回	日本の健康政策の歴史	健康増進法や健康日本21、生活習慣病対策について学ぶ。
第5回	高齢者保健事業と介護予防の歴史	高齢者の保健事業と介護予防は一体的に進めていけるのか可能性と実際について学ぶ。
第6回	精神保健福祉の歴史	うつ病患者が年々増加している社会背景について知り、社会病理について学ぶ。
第7回	社会保障と医療保険制度の歴史	社会保障と医療保険制度について学ぶ。
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割	医師、保健師、看護師、理学療法士等のコメディカルの役割と貢献について学ぶ。
第9回	多職種連携の現状	保健医療にとって必要な多職種連携について現状を学ぶ。
第10回	多職種連携を円滑に進めるための技法	多職種連携を円滑に進めるための技法としてファシリテーション技法を中心に集団援助の方法を学ぶ。
第11回	ソーシャルキャピタルと健康	ソーシャルキャピタルについて知り、ソーシャルキャピタルの醸成は健康増進につながることを学ぶ。
第12回	労働衛生と健康	働き方と健康は密接に関連することを学ぶ。

第13回	健康危機管理～防災編～	災害に対しての身の守り方、地域協働、健康危機管理について学ぶ。
第14回	住民と協働して地域づくりをすすめるための保健と福祉	住民と地域づくりを進めながら、どうやったら協働して、保健と福祉を推進できるかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、学びを深めて頂きたい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤克則(2020)『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉:実証研究の手法から政策・実践への応用まで』ミネルヴァ書房

【参考書】

近藤克則(2019)『住民主体の楽しい「通いの場」づくり「地域づくりによる介護予防」進め方ガイド』日本看護協会出版会

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（50％）、課題の提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを活用する。

【その他の重要事項】

受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
 ＜研究テーマ＞介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康＜主要業績＞
 『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
 『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline (in English)】

・ Course Overview

The aim of this course is to understand the systems related to health, medical care, and welfare, and to systematically learn how social capital is related to health and welfare.

・ Learning Objectives

- ① Understand and be able to explain the basic principles and goals of health, medical care, and welfare activities.
- ② Understand the structure and function of the systems in each field of health, medical care, and welfare, as well as the actual situation and trends of health activities and welfare policies.
- ③ Understand how social capital is related to health and welfare.

・ Learning activities outside of classroom

Students are required to complete necessary assignments after each class. Study time is at least 4 hours per class.

・ Grading criteria/policy

Participate in lecture presentations and discussions (50%), submit assignments (50%)

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅱ

眞保 智子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的な問題状況、福祉課題について、その問題解決のための研究動向を講義する。

【到達目標】

社会福祉系特殊講義Ⅰをふまえ、障害者福祉を含む学際的研究の視点や方法、知見から障害者雇用・就労制度・政策論と実践論とを関連させて理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用・就労制度・政策論と実践論との関連文献をもとに講義し、ディスカッションします。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらいとスケジュールについて
第2回	職業リハビリテーション学とは	障害者の職業リハビリテーション研究の意義
第3回	職業リハビリテーションのアプローチ	学際的知見を整理する
第4回	職業リハビリテーションの現状	わが国および海外の研究の現状を理解する
第5回	職業リハビリテーション学の理論	職業リハビリテーションの理論と実践
第6回	障害者雇用・就労の学際的視点 障害学	障害学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第7回	障害者雇用・就労の学際的視点 社会学	社会学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第8回	障害者雇用・就労の学際的視点 経済学	経済学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第9回	障害者の雇用・就労と人的資源管理論	人的資源管理論で障害者の雇用・就労を考える
第10回	障害者の雇用・就労と企業	企業の視点で障害者の雇用・就労を考える
第11回	社会福祉行政と労働行政	社会福祉行政と労働行政の連携（労働者の生活支援）
第12回	社会福祉行政と労働行政のあり方	社会福祉行政と労働行政の連携（就労移行支援）
第13回	わが国の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と合理的配慮提供から障害者雇用・就労の将来を展望する
第14回	海外の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と割当雇用制度から障害者雇用・就労の将来像を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

障害者雇用・就労に関わる研究論文および労働研究論文（日本語、英文を問わず）を事前に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加準備と発言:50%、レポート提出:50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用、障害者福祉

<研究テーマ>

- 1 障害者の就労とキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of vocational rehabilitation and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50%) and in-class presentation (50%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおけるクライアント理解の視点を学ぶ。

【到達目標】

グローバル時代における抑圧の構造と生活問題の特質を説明できる。クライアントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、生活を規定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点を、マジョリティの視点とマイノリティの視点の双方から、正義の原理、ケアと責任の原理およびポストコロニアル・社会構成主義、それぞれの特徴を捉え、社会福祉の観点から課題を考察する。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	生活問題論①	経済的規定性
第3回	生活問題論②	生活と人格発達
第4回	生活問題論③	集団と人格発達
第5回	生活問題論④	障害と人格発達
第6回	生活問題論⑤	病と人格発達
第7回	生活問題論⑥	文化、宗教、エスニシティとこころ
第8回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動と資本主義的世界システム
第9回	グローバリゼーション時代の生活問題②	新自由主義、マネジリアリズムと個人化
第10回	グローバリゼーション時代の生活問題③	世界都市における生活問題とまとめ
第11回	クライアント理解の視点①	正義の原理とケアと責任の原理
第12回	クライアント理解の視点②	ポストコロニアル・社会構成主義
第13回	クライアント理解の視点③	インターセクショナルリティ
第14回	まとめ	クライアント理解の理論的変遷と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予定を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義内発表と討議参加（50％）
2. 課題の提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援N G Oソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding client condition.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria】 Final grade will be calculated according to the following process: Participation in presentations and discussions during lectures(50%), and term-end examination (50%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉臨床系特殊講義 I**高良 麻子**

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題とは何かについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】

- ・社会問題とは何かを説明できる。
- ・社会問題を構造的に理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」
と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、担当者がテキストをまとめて発表し、全員で議論することで、社会問題とは何かを検討する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標) 社会問題の連鎖
第4回	第1章 社会問題過程	クレーム申し立て活動の過程
第5回	第2章 クレーム	クレームとは何か
第6回	第3章 クレーム申し立て者としての活動家	クレーム申し立て者としての活動家の役割
第7回	第4章 クレーム申し立て者としての専門家	クレーム申し立て者としての専門家の役割
第8回	第5章 メディアとクレーム	社会問題過程におけるメディア
第9回	第6章 大衆の反応	世論の測定
第10回	第7章 政策形成	政策形成の流れ
第11回	第8章 社会問題ワーク	政策の実施
第12回	第9章 政策の影響	政策評価にもとづく新たなクレーム
第13回	第10章 時空をかけるクレーム	クレーム申し立てのサイクル
第14回	第11章 構築主義スタンスの使い方	社会問題過程の活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジュエル・ベスト、赤川学監訳（2020）『社会問題とは何かーなぜ、どのように生じ、なくなるのか？』筑摩書房

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルー「制度からの排除」への対処』中央法規.

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】

This course is designed to explore social problems from the perspective of social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

【到達目標】

授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を収集し、輪読、議論を行います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第2回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をとおして学習する
第3回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をとおして学習する
第4回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第5回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第6回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	近接領域における先行研究のレビュー
第7回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第8回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第9回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第10回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第11回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第12回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第13回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第14回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規
・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実践』中央法規

【成績評価の方法と基準】

・授業内報告 50%
・課題提出 50% 具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、グリーフケア

＜研究テーマ＞ソーシャルワークにおける死別ケア研究、セルフヘルプグループ研究

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.

【Learning Objectives】 The goal is to understand social work practice theory and ownership

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading is based on report (50%) and presentation performance (50 %).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉臨床系特殊講義 I**宮城 孝**

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解説、先進事例の分析について中心に取り組む。後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第2回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第3回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第4回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第5回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第6回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第7回	チームアプローチ	理論と実践
第8回	ネットワーク形成	理論と実践
第9回	地域福祉システム	内容と事例分析
第10回	地域福祉計画①	今日的意義
第11回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第12回	地域福祉計画③	課題の明確化
第13回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第14回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）と提出課題の内容（40％）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の理論と先進事例－』（中央法規）2018年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（中央法規、2018年
- ・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline (in English)】

In this lecture, it attempts to understand the concept and theory of the community social work. Also, analyze the case of the community social work.

The goals of this course are to understand the concept and theory of the community social work and analyze the case of the community social work.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的实践を学ぶ。

【到達目標】

カルチュラル・コンピテンスおよび反抑圧的实践の重要概念を説明できる。

マジョリティ側の特権や抑圧について意識し、説明できる。

移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践についてアメリカを中心として概観し、その上で近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	マイノリティについて	マイノリティとは何かーインターセクショナルリティ概念
第3回	マジョリティについて	マジョリティの特権と抑圧
第4回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史の変遷
第5回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第6回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第7回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第8回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第9回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第10回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	反抑圧的ソーシャルワーク
第11回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論⑤	カルチュラル・コンピテンス
第12回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第13回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第14回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予定を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義内発表と討論参加(50%)
2. 課題の提出(50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】

This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities issues in Japan and anti-oppressive practice of social work. At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding the reality of ethnic minorities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), and in-class contribution(50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

高良 麻子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や分野ごとの縦割りによる弊害への対処を目指した、地域共生社会の実現に向けて、包括的な相談支援体制と地域住民による地域課題への対応のための体制構築に必要なソーシャルワークを理解する。

【到達目標】

- ・地域共生社会とは何かを説明できる。
- ・ジェネラリスト・ソーシャルワークを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点から地域共生社会の実現に向けたジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	地域共生社会と背景	地域共生社会とは
第3回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク①	システム理論
第4回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク②	生態学理論
第5回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク③	ストレングスモデル
第6回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク④	エンパワメントアプローチ
第7回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク⑤	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程： エンゲージメント、アセスメント、プランニング
第8回	ジェネラリスト・ ソーシャルワーク⑥	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程：計画の実施、 モニタリング・評価、終結、 フォローアップ
第9回	事例分析①	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：交互作用に注目して
第10回	事例分析②	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ストレングスに注目して
第11回	事例分析③	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：エンパワメントに注目して
第12回	事例分析④	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ミクロ・メゾ・マクロの循環に注目して
第13回	地域ケア会議	地域ケア会議の機能と方法
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から地域共生社会等に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーカー－社会福祉士による実践事例から－』中央法規

高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会。

【Outline (in English)】

This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for generalist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

【到達目標】

本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるということの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第2回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際①	死別に関する研究
第3回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際②	悲嘆に関する研究
第4回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際③	グリーフケアに関する研究
第5回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第6回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第7回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第8回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第9回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第10回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第11回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第12回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第13回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第14回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論しまとめとする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

清水哲郎・島藺進（2010）『ケア従事者のための死生学』

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内報告 50%
- ・課題提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】 The goal is to understand death in social work and acquire approach methods.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】 The grades are the content of the presentation (50%) and the term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

福祉臨床系特殊講義Ⅱ**宮城 孝**

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をとおして検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域福祉領域の研究法について	研究テーマに関する研究法の検討
第2回	テーマに関する研究法について	研究テーマに適合した研究法の選択
第3回	レポートによる報告①	研究対象と研究法の検討
第4回	レポートによる報告②	研究法の選択とデータの収集方法
第5回	地域福祉に関する先行研究について	先行研究の検討
第6回	レポートによる報告③	先行研究の選択とその概要
第7回	レポートによる報告④	先行研究のレビューについての検討
第8回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第9回	地域福祉領域の先進事例について	先進事例の分析の視点
第10回	レポートによる報告⑤	先進事例の分析についての検討
第11回	地域福祉領域におけるデータ分析について	データの分析の視点と方法
第12回	レポートによる報告⑥	具体的なデータ分析と検討
第13回	まとめに向けて	中間的なまとめに向けた検討
第14回	レポートによる報告⑦	中間的なまとめの検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、レポートの提出と報告内容60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力－超高齢社会における地域のチカラ－』（単著）2021年
- ・『仮設住宅 その10年 陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analyze the case of the community social work.

【Learning Objectives】

The goals of this course A and B.

A To understanding about the practical contents and skills of Community social work.through the case analysis.

B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and thinking skills of Community Social work.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Short report(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%) .

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・政策系特殊講義Ⅰ

図司 直也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、各地で地域再生に向けた様々な取り組みが展開している。本講義では、そのような取り組みの主体、それを支える仕組みや制度、財源など、地域政策、地域経営の観点から、地域再生の取り組みを分析・評価することに関心を寄せる。

【到達目標】

授業では、受講生と地域に関する認識を共有した上で、関連文献や収集事例をもとに議論を深め、今日の局面への理解に繋げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献や論文を収集して、輪読・議論を行っていく。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する。
第2回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する。
第3回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する。
第4回	文献論点の報告①	第1章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第5回	文献論点の議論①	第1章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第6回	文献論点の報告②	第2章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第7回	文献論点の議論②	第2章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第8回	文献論点の報告③	第3章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第9回	文献論点の議論③	第3章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第10回	文献論点の報告④	第4章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第11回	文献論点の議論④	第4章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第12回	文献論点の報告⑤	第5章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第13回	文献論点の議論⑤	第5章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第14回	まとめ	全体を通して議論し、学んだ視点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。準備・復習時間として各2時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

講義時間中に必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、研究・文献報告60％

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

＜研究テーマ＞ 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

＜主要研究業績＞

『新しい地域をつくる』（共著、岩波書店、2022年）

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will analyze and evaluate the actors, mechanisms and systems that carry out regional revitalization from the perspectives of regional policy and regional management.

【Learning Objectives】 Share awareness of the current situation in the region, deepen discussions based on related literature and collection cases, and understand the current situation.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare according to the order of research presentations and readings. Read the subject literature in advance and prepare for discussion. Secure 2 hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Discussion : 40%, Research/Literature Report : 60%.

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・政策系特殊講義Ⅰ**土肥 将敦**

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業と社会のインターフェース(境界領域)にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナールの大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】

企業と社会の関係性を理解するとともに、CSRのグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。また、テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスションの導出を行う。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第2回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第3回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第4回	候補文献についての検討	輪読文献を持ち寄り検討する
第5回	文献輪読①	文献内容の把握・理解①
第6回	文献輪読②	文献内容の把握・理解②
第7回	文献輪読③	論点の整理と問題提起①
第8回	文献輪読④	論点の整理と問題提起②
第9回	文献輪読⑤	関連する国内外の事例検討①
第10回	文献輪読⑥	文献内容の把握・理解③
第11回	文献輪読⑦	文献内容の把握・理解④
第12回	文献輪読⑧	論点の整理と問題提起③
第13回	文献輪読⑨	論点の整理と問題提起④
第14回	文献輪読⑩	関連する国内外の事例検討②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通して議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%, 研究報告 50%

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』(単著、千倉書房、2022年)

『ソーシャル・ビジネス・ケース』(共著、中央経済社、2015年)

『ソーシャル・エンタプライズ論』(共著、有斐閣、2014年)

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版、2013年)

【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・政策系特殊講義Ⅱ

図司 直也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、各地で地域再生に向けた様々な取り組みが展開している。本講義では、そのような取り組みの主体、それを支える仕組みや制度、財源など、地域政策、地域経営の観点から、地域再生の取り組みを分析・評価することに関心を寄せる。

【到達目標】

授業では、受講生と地域に関する認識を共有した上で、関連文献や収集事例をもとに議論を深め、今日の局面への理解に繋げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献や論文を収集して、輪読・議論を行っていく。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する。
第2回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する。
第3回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する。
第4回	文献論点の報告①	第1章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第5回	文献論点の議論①	第1章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第6回	文献論点の報告②	第2章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第7回	文献論点の議論②	第2章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第8回	文献論点の報告③	第3章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第9回	文献論点の議論③	第3章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第10回	文献論点の報告④	第4章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第11回	文献論点の議論④	第4章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第12回	文献論点の報告⑤	第5章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第13回	文献論点の議論⑤	第5章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第14回	まとめ	全体を通して議論し、学んだ視点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。準備・復習時間として各2時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

講義時間中に必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％, 研究・文献報告60％

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 農業経済学, 農山村政策論, 地域資源管理論

＜研究テーマ＞ 農山村地域における地域資源管理の担い手問題, 地域マネジメントのあり方

＜主要研究業績＞

『新しい地域をつくる』（共著, 岩波書店, 2022年）

『プロセス重視の地方創生: 農山村からの展望』（共著, 筑波書房, 2019年）

『内発的農村発展論』（共著, 農林統計出版, 2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著, 農山漁村文化協会, 2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will analyze and evaluate the efforts from the viewpoints of the actors working on regional revitalization, mechanisms and systems, and financial resources.

【Learning Objectives】 Deepen discussions based on related literature and collection examples related to regional revitalization, and understand the current situation.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare for presentation according to the order of research reports and readings. Read the subject literature and prepare for discussion. Secure 2 hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Discussion : 40%, Research/ Literature Report : 60%.

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・政策系特殊講義Ⅱ

土肥 将敦

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業と社会のインターフェース(境界領域)にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、講義の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。

【到達目標】

「地域・政策系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSRのグローバルな潮流や、社会的企業者が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮設やリサーチ・クエスションの導出を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第2回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第3回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第4回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する
第5回	文献輪読①	文献の論点を確認し、自らの研究との関係性を捉える
第6回	文献輪読②	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスションを明確にする①
第7回	調査報告①	各自のインタビュー調査の中間報告を行う①
第8回	調査報告②	各自のインタビュー調査の中間報告を行う②
第9回	文献輪読③	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスションを明確にする②
第10回	文献輪読④	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する①
第11回	文献輪読⑤	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する②
第12回	文献輪読⑥	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する③
第13回	調査報告③	先行研究のまとめとインタビュー調査の報告①
第14回	調査報告④	先行研究のまとめとインタビュー調査の報告②

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%, 研究報告 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

＜研究テーマ＞ ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

＜主要研究業績＞

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』(単著、千倉書房)

『ソーシャル・ビジネス・ケース』(共著、中央経済社、2015年)

『ソーシャル・エンタプライズ論』(共著、有斐閣、2014年)

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版、2013年)

【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・文化系特殊講義Ⅰ

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

地域づくり、地域ツーリズム、環境政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を構想する力を養い、学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生活環境主義の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	生活環境主義の方法論	方法論的特徴とその有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における課題論文について議論
第7回	環境社会学における課題論文の輪読	環境社会学について論点整理
第8回	環境社会学における課題論文の討議	環境社会学における研究の位置史付けの確認
第9回	地域社会学における課題論文の輪読	地域社会学について論点整理
第10回	地域社会学における課題論文の討議	地域社会学における研究の位置史付けの確認
第11回	観光社会学における課題論文の輪読	観光社会学について論点整理
第12回	論文の方法論的立場と構成の検討	研究論文の知見および有効性について検討
第13回	分析視角の設定と論文執筆の技法	本講義の立場からの検討と討議
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生－暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方－暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・文化系特殊講義Ⅰ

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」

成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第3回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第4回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第5回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第6回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第7回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第8回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第9回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第10回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第11回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第12回	生活景②	景観を育む取り組み 金沢大野
第13回	生活景③	景観を育む取り組み 伊勢河崎
第14回	生活景④	生活景と都市計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「都市をつくる風景」中村良夫、藤原書店、2010年
「イタリア小さなまちの底力」陣内秀信、講談社、2000年
「生活景」日本建築学会編、学芸出版社、2009年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for creating affluence of life and directing the individuality of the region, while comparing domestic and overseas.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding the role of "landscape" in advocating a community that can enjoy affluence from the perspective of "policy"

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・文化系特殊講義Ⅱ

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

「地域・文化系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、地域政策全般に対して、現場の人びとの立場から有効性のある政策論を構想する力を養い、水準の高い学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生活論という方法	生活論の系譜とその発展
第2回	生活論からみた現代社会	生活論の有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における研究の位置付けの確認
第7回	民俗学分野における課題論文の輪読	民俗学における課題論文について論点整理
第8回	民俗学における課題論文の討議	民俗学における研究の位置付けの確認
第9回	文化人類学における研究論文の輪読	文化人類学における課題論文について論点整理
第10回	文化人類学における研究論文の討議	文化人類学における研究の位置付けの確認
第11回	観光学における研究論文の輪読	観光学における課題論文について論点整理
第12回	観光学における研究論文の討議	観光学における研究の位置付けの確認
第13回	生活論からみた地域政策	地域政策の課題と展望
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生一暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方一暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析一環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」経済効率を追い求めた20世紀を経て、21世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどういうものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

21世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第3回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第4回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第5回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第6回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第7回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第8回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第9回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第10回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第11回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第12回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第13回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第14回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009年
「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010年
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that comparing domestic and overseas policies being undertaken, considering what a creative city is and its economic aspects.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understanding the role of a "creative city" as a new city in the 21st century from the perspective of "policy"

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

金築 優

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義を通して、認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な理解を深めます。

【到達目標】

認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な知識を身につけて、自らの臨床活動や研究活動に活かすことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法の理論や技法に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第2回	認知行動療法の歴史	認知行動療法の歴史を学びます。
第3回	第一世代の認知行動療法について1	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第4回	第一世代の認知行動療法について2	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第5回	第一世代の認知行動療法について3	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の理論を学びます。
第6回	第一世代の認知行動療法について4	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の技法を学びます。
第7回	第二世代の認知行動療法について1	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第8回	第二世代の認知行動療法について2	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第9回	第二世代の認知行動療法について3	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の理論を学びます。
第10回	第二世代の認知行動療法について4	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の技法を学びます。
第11回	第三世代の認知行動療法について1	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第12回	第三世代の認知行動療法について2	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第13回	第三世代の認知行動療法について3	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の理論・技法を学びます。
第14回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法の課題を議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料を読み、自らの意見を持って、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）

＜研究テーマ＞

認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

＜主要研究業績＞

『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究16(3)、2008年）

『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究17(3)、2010年）

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review current cognitive behavior therapy such as Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on discussions (50%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

小林 由佳

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

【到達目標】

産業・労働分野における心理臨床活動の根拠となる諸理論を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	職業性ストレス理論 1	主要な職業性ストレス理論の変遷についての講義
第3回	職業性ストレス理論 2	最新の職業性ストレス理論についての講義
第4回	ポジティブ心理学 1	ポジティブ心理学の発展の歴史と主要理論についての講義
第5回	ポジティブ心理学 2	最新のポジティブ心理学の知見についての講義
第6回	キャリア理論 1	キャリア理論の発展の歴史と主要理論についての講義
第7回	キャリア理論 2	最新のキャリア理論についての講義
第8回	組織開発の理論と実践 1	組織開発の背景理論にいたる講義
第9回	組織開発の理論と実践 2	組織開発の実践モデルについての講義
第10回	組織開発の理論と実践 3	組織開発の効果についての講義
第11回	労働法と心理学 1	労働法とその背景についての講義
第12回	労働法と心理学 2	労働法の発展と心理学に関する講義
第13回	職場のメンタルヘルス	働く人のメンタルヘルスを向上させるための介入効果に関する講義
第14回	まとめ	春学期の学びの振り返りと今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・島津美由紀・高原龍二編著（川島書店, 2023）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがあります。

【担当教員の専門領域】

< 専門領域 >

職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

< 研究テーマ >

働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

< 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定: デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

末武 康弘

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

【到達目標】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第2回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第3回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第4回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第5回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第6回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第7回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第8回	フォーカシングとFOT①	フォーカシングとについて考察します
第9回	フォーカシングとFOT②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第10回	フォーカシングとFOT③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第11回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第12回	プリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのプリセラピーについて考察します
第13回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第14回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する文献（英語文献を含む）を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年）
- ③ 『プロセスモデル—暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

【Outline (in English)】

You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

The goals of this course are to understand theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的研究面の動向を知ること。

【到達目標】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的研究面の動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の研究面における重要なテーマに関して最新の研究動向も踏まえて講義を行う。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容と進め方の説明をする。
第2回	コミュニティ心理学全般の動向	コミュニティ心理学全般の研究動向について講義する。
第3回	生態学的アプローチ	生態学の視点とそれに基づいたアプローチを講義する。
第4回	心理学ストレス①	心理学ストレス研究の歴史と基礎を講義する。
第5回	心理学ストレス②	心理学ストレスに関する最新の実証研究を講義する。
第6回	コーピング①	コーピング研究の歴史と基礎を講義する。
第7回	コーピング②	コーピングに関する最新の実証研究を講義する。
第8回	ソーシャルサポート①	ソーシャルサポート研究の歴史と基礎を講義する。
第9回	ソーシャルサポート②	ソーシャルサポートに関する最新の実証研究を紹介する。
第10回	予防①	予防研究に関する歴史と基礎を講義する。
第11回	予防②	予防に関する最新の実証研究を講義する。
第12回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第13回	エンパワーメント	エンパワーメント研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第14回	コラボレーション	コラボレーション研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コミュニティ心理学ハンドブック』（日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 2007年 12,960円）

【参考書】

テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】

使用しない。

【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）

<主要研究業績>

『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）

『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007年）
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究2(2)、1999年）

【Outline (in English)】

Course outline

Students acquire knowledge of important and cutting-edge research trends in clinical psychological community support (community psychology).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to explain the trend of the important and advanced study on clinical psychological local support (community psychology) side.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the in-class contribution(100%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

服部 環

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学における量的な研究活動を支える心理統計法、心理データ解析法、計量心理学における重要なトピックスについて学びます。

【到達目標】

論点を理解できること、そして各自の研究に生かすことができるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生は指定した文献（論文および書籍）を輪読した上で論点を発表し、ディスカッションを行います。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画を確認し、輪読する文献を指定します
第2回	心理尺度構成	尺度構成法を学びます
第3回	尺度の信頼性と妥当性	尺度の信頼性と妥当性の検証方法を学びます
第4回	検定力	検定力を学びます
第5回	検定力分析	検定力分析の基礎と必要性を学びます
第6回	検定力分析の実例	平均値と相関係数の検定力分析を学びます
第7回	メタ分析の基礎	メタ分析の基礎を学びます
第8回	心理学研究法の基礎	研究法の基礎、ピットフォールを学びます
第9回	心理学研究の実践	実際の研究を通して研究法の理解を深めます
第10回	量的研究法の基礎	量的研究法で必要となる基礎的統計解析法を学びます
第11回	量的研究法の実例	実際の研究を通して量的研究法の理解を深めます
第12回	実験研究法	実験研究法を学びます
第13回	調査研究法の基礎	調査研究法の基礎を学びます
第14回	調査研究法の実例	調査研究法と個に注目した研究について実践的に学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は指定された文献が述べている論点を発表しますので、事前に文献を精読し、十分に発表の準備をしておく必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定します。

【参考書】

南風原朝和 量的研究法（シリーズ 臨床心理学をまなぶ）（東京大学出版会, 2011）

大久保街亜・岡田謙介 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力（勁草書房, 2012）

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果（50％）と平常点（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

教育心理測定学、心理データ解析

＜研究テーマ＞

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

＜主要研究業績＞

(1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）

(2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）

(3) 日本版KABC-II マニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）

(4) Q&A 心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, you will learn about psychological research methods. Topics covered include quantitative research methods, advanced statistical data analyses, item response theories, and statistical computing methods using several software.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to understand the research issues in psychology and to utilize them in your own research.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and in-class contribution(50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

金築 優

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法の技法や理論について、知覚制御理論の観点から、専門的な理解を深めます。

【到達目標】

知覚制御理論について理解を深めた上で、認知行動療法の技法や理論を、自らの臨床活動や研究活動に活かすことができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚制御理論に関する論文等を講読しながら、認知行動療法の技法や理論をどのように解釈し、活用できるかをディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第2回	認知行動療法と知覚制御理論	認知行動療法と知覚制御理論の関連を学びます。
第3回	制御について1	制御という現象について学びます。
第4回	制御について2	制御という現象について、負のフィードバックループの観点から学びます。
第5回	葛藤について1	葛藤のメカニズムについて考えます。
第6回	葛藤について2	葛藤という視点から心理的障害を考えます。
第7回	再組織化について1	再組織化という原理を学びます。
第8回	再組織化について2	再組織化という原理から変化のメカニズムを考えます。
第9回	メソッド・オブ・レベル認知療法1	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法を概説します。
第10回	メソッド・オブ・レベル認知療法2	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の特徴を学びます。
第11回	メソッド・オブ・レベル認知療法3	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の技法を学びます。
第12回	被制御変数のテストという研究法1	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストを概説します。
第13回	被制御変数のテストという研究法2	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストの特徴を学びます。
第14回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法と知覚制御理論の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料を読み、自らの理解や疑問点を明確にした上で、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）

<研究テーマ>

認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review perceptual control theory. Perceptual control theory is a self-regulatory framework based on control system engineering which explains human behavior. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on discussions (50%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

小林 由佳

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

【到達目標】

産業・労働分野における心理臨床活動の実践に関わる技法と活動の効果を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	産業カウンセリング	職域で活用されるカウンセリング技法と理論についての講義
第3回	認知行動療法1	第三世代認知行動療法の技法と理論についての講義
第4回	認知行動療法2	認知行動療法の職域での活用についての講義
第5回	個別介入の効果	職域での個別介入の効果評価研究についての講義
第6回	ケースマネジメント	ケースマネジメントの実際と効果についての講義
第7回	コンサルテーション	コンサルテーションの有効性と実際についての講義
第8回	コンフリクトマネジメント	コンフリクトマネジメントが求められる場面と有効な対応についての講義
第9回	惨事ケア	惨事における個人、集団への有効な介入に関する講義
第10回	ファシリテーション	ファシリテーションの有効な方法についての講義
第11回	職場環境改善	職場環境改善の有効な方法についての講義
第12回	調査・分析と提案	職域における各種調査結果の分析とより良い提案に関する講義
第13回	組織介入の効果	職域での組織介入の効果評価研究についての講義
第14回	まとめ	これまでの学びの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・島津美由紀・高原龍二編著（川島書店, 2023）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

< 研究テーマ >

働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

< 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定: デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

末武 康弘

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

【到達目標】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

主にジェンドリンの『パターンを超えて思考する（Thinking beyond patterns）』の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探究します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第2回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンのThinking beyond patterns の背景を考察します。
第3回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1を検討します。
第4回	Thinking beyond patterns 講読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2を検討します。
第5回	Thinking beyond patterns 講読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3を検討します。
第6回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4を検討します。
第7回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5を検討します。
第8回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1を検討します。
第9回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2を検討します。
第10回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3を検討します。
第11回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4を検討します。
第12回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5を検討します。
第13回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6を検討します。
第14回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストThinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute. http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

②『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年）

③『プロセスモデル—暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

【Outline (in English)】

You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

The goals of this course are to understand the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用(実践)。

【到達目標】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用(実践)面に関する動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の領域における実践面に関する重要なテーマについて講義する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容と進め方の説明
第2回	コミュニティアプローチ全般	コミュニティアプローチ全般
第3回	予防プログラム①	一次予防プログラムの理論と実際
第4回	予防プログラム②	二次予防プログラムと三次予防プログラムの理論と実際
第5回	危機介入①	危機理論の理論
第6回	危機介入②	危機介入の実際
第7回	コンサルテーション①	コンサルテーションの理論
第8回	コンサルテーション②	コンサルテーションの実際
第9回	ソーシャルサポート介入①	ソーシャルサポート介入の理論
第10回	ソーシャルサポート介入②	ソーシャルサポート介入の実際
第11回	セルフヘルプグループ①	セルフヘルプグループの基礎
第12回	セルフヘルプグループ②	セルフヘルプグループの実際
第13回	エンパワメント	エンパワメント理論と実際
第14回	市民参加	市民参加による社会変革などの実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることを求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コミュニティ心理学ハンドブック』（コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 2007年 12,960円）

【参考書】

テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しておりません。

【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）

<主要研究業績>

『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）

『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究 18(2)、2015年）

『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007年）

『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究 2(2)、1999年）

【Outline (in English)】

Course outline

Application of important and advanced research in the field of clinical psychological regional aid (community psychology) (practice).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to explain the trend about the applied (practice) aspect of the important and advanced study in the domain of the clinical psychological local support (community psychology).do the followings:

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the in-class contribution(100%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ**服部 環**

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

潜在変数モデルについて、特に構造方程式モデリングと項目反応モデルについて学びます。

【到達目標】

統計ソフトウェアを用いて潜在変数モデルと項目反応モデルを活用できるようになること、モデルの理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読と統計ソフトウェアの利用を並行しながら構造方程式モデリングと項目反応モデルについて学習していきます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要と進め方を確認します
第2回	統計ソフトの基礎	分析に必要な統計ソフト（無償、有償）の基礎を学びます
第3回	構造方程式モデリングの基礎	構造方程式モデリングの基礎を学びます
第4回	構造方程式モデリングの応用	構造方程式モデリングを利用した研究論文を読みます
第5回	古典的テスト理論の数理的基礎	信頼性を高める方法と信頼性係数を推定する方法を学びます
第6回	項目反応理論の基礎	項目反応理論の基礎を学びます
第7回	因子分析と項目反応理論の関係	因子分析と項目反応理論の関係
第8回	1母数モデル（ラッシュモデル）	1母数モデル（ラッシュモデル）を学びます
第9回	2母数モデル	2母数モデルを学びます
第10回	3母数モデル	3母数モデルを学びます
第11回	段階反応モデル	段階反応モデルを学びます
第12回	部分採点モデル	部分採点モデルを学びます
第13回	一般化部分採点モデル	一般化採点モデルを学びます
第14回	等化法	等化法とその必要性を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献に基づいて発表しますので、事前に精読し、十分に準備をしておく必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定します。

【参考書】

Rizopoulos, D. ltm: Latent Trait Models under IRT. [http://www.r-project.org/\(2012\)](http://www.r-project.org/(2012))

Rosseel, Y. lavaan: An R Package for Structural Equation Modeling. [http://www.r-project.org/\(2012\)](http://www.r-project.org/(2012))

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果（50％）と平常点（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

教育心理測定学、心理データ解析

＜研究テーマ＞

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

＜主要研究業績＞

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）
- (2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）
- (3) 日本版KABC-II マニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）
- (4) Q&A心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, you will learn about psychological research methods. Topics covered include quantitative research methods, advanced statistical data analyses, item response theories, and statistical computing methods using several software.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to use latent variable models and item response models using statistical software, and to deepen the understanding of the models.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

小野 純平

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義を通して、発達科学、臨床心理学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】

発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要な研究について概説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、発達障害のアセスメントと援助を中心として、講義を行う予定です。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	発達科学における最近の研究動向	研究動向についての概要
第3回	発達障害について	発達障害とは何か
第4回	発達障害のアセスメント	アセスメントの技法
第5回	発達障害と愛着障害、解離性障害について	類似した障害との差異
第6回	発達障害における人格発達	類似した障害との差異
第7回	発達障害における認知特性	特性に合わせた援助
第8回	発達障害に関する最近の研究動向1	最近の研究課題
第9回	発達障害に関する最近の研究動向2	先行研究のレビュー（ADHD）
第10回	発達障害に関する最近の研究動向3	先行研究のレビュー（ASD）
第11回	発達障害に関する最近の研究動向4	先行研究のレビュー（LD）
第12回	発達障害に関する最近の研究動向5	先行研究のレビュー（アセスメント）
第13回	発達障害に関する最近の研究動向6	先行研究のレビュー（支援法）
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の興味関心に沿って、主体的に文献収集と発表を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）

ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間を多くとる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 臨床心理学、臨床心理査定

＜研究テーマ＞ 虐待とその支援、発達障害とその支援

＜主要研究業績＞

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバッテリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline (in English)】

This seminar provides students with knowledge about the latest trend in developmental psychology, clinical psychology, psychiatry and psychopathology. At the end of the course, students may outline significant research in developmental science, psychiatry, psychopathology, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40%), and in-class contribution(60%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義を通して、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等の基本的知識を備えるとともに、最近の研究動向を調査し、理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学術領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害に対する理解と援助を中心として、講義を行う予定です。精神療法としては、森田療法を軸に扱っていきます。

なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	不安障害における最近の研究動向	最近の論文を通して学習する。
第3回	不安障害について	不安障害について具体的に理解する。
第4回	不安障害のアセスメント	不安障害のアセスメントについて理解する。
第5回	不安障害とその背後にある心理的問題	不安障害の背後にある心理的問題（個人、家族）について文献調査を行う。
第6回	不安障害に対する精神療法	最近の不安障害に対する精神療法について文献調査を行う。
第7回	不安障害に対する森田療法	森田療法の有効性について文献調査を行う。
第8回	不安障害に関する最近の研究動向1	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う①
第9回	不安障害に関する最近の研究動向2	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う②
第10回	不安障害に関する最近の研究動向3	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う③
第11回	不安障害に関する最近の研究動向4	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う④
第12回	不安障害に関する最近の研究動向5	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑤
第13回	不安障害に関する最近の研究動向6	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑥
第14回	不安障害に関する最近の研究動向7	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

精神医学、精神病理学、精神療法について積極的に文献を読み、幅広く知識を得るように努力すること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％） ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】

これまでの研究の流れを基盤として、新たな疑問や関心を個々の研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）

2)『女性はずなぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）

3)久保田幹子：対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78

4)久保田幹子：森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, and psychotherapy.

The goals of this course are to provide basic knowledge of psychiatry, psychopathology and psychotherapy, and to provide an understanding of recent research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and report and discussion (40%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

関谷 秀子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、乳児期から幼児期、児童期、思春期青年期そして初期成人期に至る精神分析的発達論の基礎を形成するところにある。

【到達目標】

情緒発達の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書または論文をあらかじめ指定する。発表の分担を定めてレジュメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	妊娠中	妊娠中の胎児への幻想
第2回	乳児期	乳児期の発達と母親の幻想、愛着
第3回	幼児期前期①	母子の分離と幼児の個体化
第4回	幼児期前期②	自律性の発生と個体化、自己保存
第5回	幼児期後期①	エディプスコンプレクス
第6回	幼児期後期②	男児の去勢不安
第7回	幼児期後期③	女児の分離不安
第8回	児童期（潜伏期）	超自我の内在化、対象関係の拡大、昇華チャンネルの発生と拡大
第9回	思春期①	前、初期、中期（固有の）、後期思春期、思春期後
第10回	思春期②	親表象からの脱離給と自我理想の改訂、禁止系超自我の緩和、対象関係の拡大
第11回	青年期①	アイデンティティの確立
第12回	青年期②	サイコソーシャル・モラトリアム、孤独感の男女差と種の保存
第13回	青年期③	対象の発見と再発見
第14回	初期成人期	性器統裁とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

精神分析的発達論の統合① P.タイソン/R・Lタイソン（馬場禮子監訳）岩崎学術出版社

【参考書】

子どもの心理療法 モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】

We will learn the basics of psychoanalytic development through the period of infantile, childhood, adolescence, and early adulthood. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

望月 聡

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義と文献の講読を通して、異常心理学／精神病理学の研究に関する知見や研究方法を学びます。

特に、実験や質問紙調査によって明らかになる認知・行動・感情・パーソナリティの病理を扱うことで、量的・客観的・科学的観点からの実証的臨床心理学研究の理解を促し、認知心理学や感情心理学、パーソナリティ心理学など、他の心理学領域における知見や研究方法との接点を意識してもらうことをねらいとします。

【到達目標】

異常心理学／精神病理学の科学的研究に関する知見や研究方法を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習（文献講読）形式で進めます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要について説明します。
第2回	抑うつ症群の認知行動病理学	うつ病の発生・維持メカニズムを学びます。
第3回	双極症及び関連症群の認知行動病理学	双極症の発生・維持メカニズムを学びます。
第4回	不安症群の認知行動病理学(1)限局性恐怖症	限局性恐怖症の発生・維持メカニズムを学びます。
第5回	不安症群の認知行動病理学(2)パニック症・広場恐怖症	パニック症・広場恐怖症の発生・維持メカニズムを学びます。
第6回	不安症群の認知行動病理学(3)社交不安症	社交不安症の発生・維持メカニズムを学びます。
第7回	不安症群の認知行動病理学(4)全般不安症	全般不安症の発生・維持メカニズムを学びます。
第8回	強迫症及び関連症群の認知行動病理学	強迫症、ためこみ症、身体醜形症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第9回	心的外傷及びストレス因関連症群の認知行動病理学	心的外傷後ストレス症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第10回	解離症群、身体症状症及び関連症群の認知行動病理学	解離症、身体症状症、病気不安症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第11回	食行動症及び摂食症群の認知行動病理学	神経性やせ症、神経性過食症、むちゃ食い症の発生・維持メカニズムを学びます。
第12回	統合失調スペクトラム症及び他の精神症群の認知行動病理学	統合失調症等の発生・維持メカニズムを学びます。

第13回	パーソナリティ症群の認知行動病理学	ボーダーラインパーソナリティ症を中心に、パーソナリティ症の発生・維持メカニズムを学びます。
第14回	まとめ	診断横断的（transdiagnostic）な観点から、本科目で学んだことをふりかえります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料に基づいて復習を行い、興味を持った内容については自ら文献を検索し読んでみるなどの学習が望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。必要に応じて配付します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、レポート課題30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

[Course outline]

Through lectures and reading of literature, students will learn about findings and research methods in abnormal psychology/psychopathology research.

In particular, the course aims to promote understanding of empirical clinical psychological research from quantitative, objective, and scientific perspectives by dealing with cognitive, behavioral, emotional, and personality pathologies revealed by experiments and questionnaire surveys, and to make students aware of the interface with findings and research methods in other psychological fields such as cognitive, emotional, and personality psychology.

[Learning Objectives]

Students will acquire knowledge and research methods related to scientific research in abnormal psychology/psychopathology.

[Learning activities outside of classroom]

It is recommended that students review the class materials and search for and read literature on topics of interest.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Evaluation will be made on the basis of 70% of in-class contribution and 30% of report assignments.

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

小野 純平

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】

発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について概説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、発達障害に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	国内外における研究動向について	研究の現状と課題
第3回	発達障害に関する最近の研究動向1	研究の現状と課題（ADHD）
第4回	発達障害に関する最近の研究動向2	研究の現状と課題（ASD）
第5回	発達障害に関する最近の研究動向3	研究の現状と課題（LD）
第6回	発達障害に関する最近の研究動向4	研究の現状と課題（アセスメント）
第7回	発達障害に関する最近の研究動向5	研究の現状と課題（支援法）
第8回	発達障害に関する最近の研究動向6	最新論文の読み込みと課題の洗い出し（ADHD）
第9回	発達障害に関する最近の研究動向7	最新論文の読み込みと課題の洗い出し（ASD）
第10回	発達障害に関する最近の研究動向8	最新論文の読み込みと課題の洗い出し（LD）
第11回	発達障害に関する最近の研究動向9	最新論文の読み込みと課題の洗い出し（アセスメント）
第12回	発達障害に関する最近の研究動向10	最新論文の読み込みと課題の洗い出し（支援法）
第13回	発達障害に関する最近の研究動向11	当該領域の研究動向のまとめと課題
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の興味関心に沿って、主体的に文献収集と発表を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）

ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 臨床心理学、臨床心理査定

＜研究テーマ＞ 虐待とその支援、発達障害とその支援

＜主要研究業績＞

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバタリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理士会年報7巻1号、2015年4月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline (in English)】

This seminar provides students with knowledge about the latest trend in developmental psychology, clinical psychology, psychiatry and psychopathology. At the end of the course, students may outline significant research in developmental science, psychiatry, psychopathology, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports(40%), and in-class contribution(60%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要な先行研究の概要を理解するとともに、最近の研究動向の概要についても理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害や森田療法に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	国内外における研究動向について	文献調査を元に理解を深める。
第3回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向1	先行研究の調査、文献研究①
第4回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向2	先行研究の調査、文献研究②
第5回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向3	先行研究の調査、文献研究③
第6回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向4	先行研究の調査、文献研究④
第7回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向5	先行研究の調査、文献研究⑤
第8回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向6	先行研究の調査、文献研究⑥
第9回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向7	先行研究の調査、文献研究⑦
第10回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向8	先行研究の調査、文献研究⑧
第11回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向9	先行研究の調査、文献研究⑨

第12回 不安障害とその援助、先行研究の調査、文献研究⑩
森田療法に関する最近の研究動向10

第13回 研究動向のまとめ1 最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る①

第14回 研究動向のまとめ2 最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内のみならず、海外の研究を理解するために、先行研究を主体的に探り、その内容を学習すること。独創的な研究テーマを探るために、幅広く知識を得ること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】

先行研究の学習や先端の研究動向の調査を基盤に、さらに個々の関心や疑問を掘り下げ、研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスをさせていただきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）

2)『女性なぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）

3)久保田幹子：対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78

4)久保田幹子：森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, psychotherapy based on a foundation built in Special Lecture I.

The goals of this course are to provide an overview of important previous research in psychiatry, psychopathology and psychotherapy, and to provide an overview of recent research trends.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and report and discussion (40%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

関谷 秀子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から初期成人期に至る発達の内的過程とそれに影響する環境要因との関係を理解して、力動的心理療法の基礎知識を得る。

【到達目標】

情緒発達とそれに影響する環境要因との関係の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いる。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	口唇期①	口唇期の欲動と対象、目的
第2回	口唇期②	口唇期の防衛、すなわち、現実歪曲、否認、投影、投影性同一視
第3回	口唇期③	欲求充足水準の対象関係
第4回	肛門期①	欲動満足か母親の愛情か→自律性の発生
第5回	肛門期②	反動形成、理性化、合理化、隔離、取り消しやり直し
第6回	肛門期③	肛門期の対象関係
第7回	幼児性器期①	幼児性器期の対象は全体対象である。幼児期対象の性愛化と同性の親との葛藤
第8回	幼児性器期②	男児の去勢不安と女児の分離不安
第9回	幼児性器期③	性別同一性の確立と両親の役割
第10回	潜伏期	超自我の内在化と自我の発達
第11回	思春期	親表象からの脱離、同性仲間による集団形成と禁止系超自我の緩和・自我理想の改訂
第12回	不安の増大と退行	欲動退行と自我退行
第13回	神経症病理	精神神経症と退行
第14回	パーソナリティ病理	自我親和的な防衛配置（パーソナリティ形成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

精神分析的発達論の統合② P.タイソン/R・Lタイソン（皆川邦直 監訳）岩崎学術出版社

【参考書】

子どもの心理療法 モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】

We will learn the way environmental factors influence the process of internal development from infancy to early adulthood and acquire basic knowledge of psychodynamic psychotherapy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

望月 聡

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義と文献の講読を通して、神経心理学や認知-感情-社会神経科学の先端的知見や研究方法を学びます。
さまざまな心的機能の神経的基盤について理解することを目的とします。

【到達目標】

神経心理学、認知-感情-社会神経科学の研究に関する知見や研究方法を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習（文献講読）形式で進めます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要について説明します。
第2回	知覚・認知の神経心理学	知覚・認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第3回	空間認知の神経心理学	空間認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第4回	身体認知の神経心理学	身体認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第5回	行為の神経心理学	行為表出に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第6回	記憶の神経心理学	記憶に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第7回	言語と計算の神経心理学	言語と計算に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第8回	脳の側性化	脳の側性化（半球優位性）に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第9回	注意の神経心理学	注意に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第10回	遂行機能（実行機能）の神経心理学	遂行機能（実行機能）に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第11回	社会的認知の神経心理学	社会的認知に関わる神経心理学や社会神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第12回	感情の神経心理学	感情に関わる神経心理学や感情神経科学の先端的なトピックスに触れます。

第13回 動機づけの神経心理学 動機づけに関わる神経心理学や認知-感情-社会神経科学の先端的なトピックスに触れます。

第14回 まとめ 神経心理学・認知-感情-社会神経科学研究と受講生各自の興味関心を結びつけながら、本科目で学んだことをふりかえります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料に基づいて復習を行い、興味を持った内容については自ら文献を検索し読んでみるなどの学習が望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。必要に応じて配付します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、レポート課題30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Through lectures and reading of literature, students will learn about the latest findings and research methods in neuropsychology and cognitive-affective-social neuroscience. The goal of the course is to understand the neural basis of various mental functions.

[Learning Objectives]

This course provides students with knowledge and research methods in neuropsychology and cognitive-affective-social neuroscience.

[Learning activities outside of classroom]

It is recommended that students review the class materials and search for and read literature on topics of interest. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Evaluation will be made on the basis of 70%of in-class contribution and 30%of report assignments.

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

伊藤 正子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

【到達目標】

テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式での開講。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討

第24回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第28回	まとめ	データ収集のスケジュール検討 とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 演習への積極的参加 (20%)
2. 演習内課題 (50%)
3. 博士論文構想発表会(30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援N G Oソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

< 研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】

This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a dissertation. Students will be expected to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation(30%),and in-class contribution (20%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成にむけた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文にむけて研究計画を明確にする。
 先行研究の検討を行う。
 第一次調査の設計を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

個別指導により、研究テーマの深化と、研究方法論の検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討 1	研究計画の概略をたてる
第2回	研究計画の概要の検討 2	研究目的の明確化をはかる
第3回	研究計画の概要の検討 3	基本的な研究動向を整理する
第4回	研究計画の概要の検討 4	基本的な研究動向を発表する
第5回	研究計画の概要の検討 5	自らの研究のオリジナリティを検討する
第6回	研究計画の概要の検討 6	自らの研究のオリジナリティを発表する
第7回	研究計画の概要の検討 7	研究方法を検討する
第8回	研究計画の概要の検討 8	研究方法を発表する
第9回	研究計画の概要の検討 9	研究対象を検討する
第10回	研究計画の概要の検討 10	研究対象を発表する
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	先行研究（歴史）を検討する
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	先行研究（現状）を検討する
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	先行研究（課題）を検討する
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	先行研究（関連領域）を検討する
第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 5	先行研究（隣接領域）を検討する
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 6	先行研究（研究方法）を検討する
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 7	先行研究（解釈枠組み）を検討する

第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 8	先行研究（国際比較アメリカ）を検討する
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 9	先行研究（国際比較ヨーロッパ）を検討する
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 10	先行研究（国際比較アジア）を検討する
第21回	調査研究の内容の検討 1	データクリーニングを行う
第22回	調査研究の内容の検討 2	記述統計を検討する
第23回	調査研究の内容の検討 3	多変量解析を行う
第24回	調査研究の内容の検討 4	解析結果を検討し、仮説との適合性を検討する
第25回	調査研究の内容の検討 5	追加の解析について検討する
第26回	調査研究の内容の検討 6	追加の解析結果を検討する
第27回	調査研究の内容の検討 7	改めて仮説との適合性を検討する
第28回	調査研究の内容の検討 8	調査結果の全体を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行い、考察すること。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】

Research guidance for doctor dissertation preparation.

The goals of this course are to improve doctor dissertation preparation ability.

Students will be expected to have completed the required assignments

after each class meeting. Your study time will be more than four hours

for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in

class contribution: 100%.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

小野 純平

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域における博士論文作成のための基礎的な知識、研究方法、論文作成法を学習します。

【到達目標】

臨床心理学領域における博士論文作成のための基礎的な知識、研究方法、論文作成法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心領域や研究テーマに応じて、まず、先行研究のレビューを丁寧に行い、次に、研究課題の明確化を行います。さらには、課題を達成するための研究方法（量的調査やインタビューなど）を検討し、実現可能性を探りながら論文構想を練り上げていきます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けて
第2回	関心領域・テーマ検討①	国内外の論文の精査（関心領域の論文）
第3回	関心領域・テーマ検討②	国内外の論文の精査（研究の中心領域）
第4回	関心領域・テーマ検討③	国内外の論文の精査（研究動向の精査）
第5回	関心領域・テーマ検討④	国内外の論文の精査（近年の課題）
第6回	先行研究のレビュー①	研究領域の決定
第7回	先行研究のレビュー②	研究領域の先行研究の精査（問題の洗い出し）
第8回	先行研究のレビュー③	研究領域の先行研究の精査（研究方法の精査）
第9回	先行研究のレビュー④	研究領域の先行研究の精査（研究方法：対象）
第10回	先行研究のレビュー⑤	研究領域の先行研究の精査（研究方法：分析方法）
第11回	研究テーマ明確化と仮説検討①	先行研究の精査
第12回	研究テーマ明確化と仮説検討②	問題の明確化
第13回	研究テーマ明確化と仮説検討③	テーマの設定
第14回	研究テーマ明確化と仮説検討④	テーマの精査
第15回	中間総括	ふりかえり
第16回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第17回	研究方法の検討①	研究法の検討
第18回	研究方法の検討②	分析方法の比較検討（質問紙法）
第19回	研究方法の検討③	分析方法の比較検討（インタビュー）
第20回	研究方法の検討④	分析方法の比較検討（実験その他）
第21回	分析方法の検討①	質問紙法の精査

第22回	分析方法の検討②	インタビュー方法の精査
第23回	分析方法の検討③	実験その他の方法の精査
第24回	分析方法の検討④	分析方法の決定
第25回	論文構想の明確化①	問題の所在の明確化
第26回	論文構想の明確化②	研究対象の明確化
第27回	論文構想の明確化③	研究方法の明確化
第28回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、各回の指導において進捗状況を簡潔に説明できるよう、入念な準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（60％）

提出課題の内容（40％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

【論文】『新しい検査KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバタリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）

【Outline (in English)】

This seminar provides students with knowledge about of how to plan and execute a doctoral dissertation. The goal of this course is to acquire basic knowledge, research methods, and dissertation writing methods for writing doctoral dissertations in the field of clinical psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40%), and in-class contribution(60%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

金築 優

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関する博士論文を作成するために必要なスキルについて指導します。

【到達目標】

博士論文を最終提出することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の作成段階に応じて、必要なスキルを指導します。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士論文の指導の進め方について説明します。
第2回	博士論文のテーマについて1	博士論文のテーマについて個人発表してもらいます。
第3回	博士論文のテーマについて2	博士論文の問題意識について個人発表してもらいます。
第4回	先行研究について1	博士論文のテーマに関連した先行研究を展望します。
第5回	先行研究について2	博士論文のテーマに関連した先行研究の課題を展望します。
第6回	研究デザインについて1	博士論文の研究デザイン（例、研究参加者等）を検討します。
第7回	研究デザインについて2	博士論文の研究デザイン（例、用いる質問紙等）を検討します。
第8回	研究デザインについて3	博士論文の研究デザイン（例、手続き等）を検討します。
第9回	研究デザインについて4	博士論文の研究デザイン（例、教示等）を検討します。
第10回	研究デザインについて5	博士論文の研究デザイン（例、データの分析方法等）を検討します。
第11回	データ収集のための準備1	データ収集の仕方（例、調査法等）について確認を行います。
第12回	データ収集のための準備2	データ収集の仕方（例、実験法等）について確認を行います。
第13回	データ収集のための準備3	データ収集の仕方（例、面接法等）について確認を行います。
第14回	データ収集とデータの処理1	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について検討します。
第15回	データ収集とデータの処理2	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について検討します。
第16回	データ収集とデータの処理3	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。
第17回	データ収集とデータの処理4	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について指導します。

第18回	データ収集とデータの処理5	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理を検討します。
第19回	データの分析と結果のまとめ1	データの分析（例、基本統計量等）を進め、結果をまとめます。
第20回	データの分析と結果のまとめ2	データの分析（例、分散分析等）を進め、結果をまとめます。
第21回	データの分析と結果のまとめ3	データの分析（例、相関分析等）を進め、結果をまとめます。
第22回	データの分析と結果のまとめ4	データの分析（例、多変量解析等）を進め、結果をまとめます。
第23回	データの分析と結果のまとめ5	データの分析（例、質的分析）を進め、結果をまとめます。
第24回	考察について1	研究結果を踏まえ、考察を進めます。
第25回	考察について2	研究結果を踏まえ、どのように考察をするか検討します。
第26回	考察について3	研究結果を踏まえ、考察を深めます。
第27回	博士論文の本文の推敲	論文の構成を確認します。
第28回	博士論文の本文の推敲	論文の文章表現を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、随時博士論文の進捗状況の報告を求めますので、その際には、資料を用いて説明するようにしてください。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終的に提出された博士論文の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）

<研究テーマ>

認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

<主要研究業績>

『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究16(3)、2008年）

『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究17(3)、2010年）

【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to undertake doctoral project about cognitive behavior therapy. Students will acquire enhanced research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' doctoral thesis (100%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

久保田 幹子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関する高度な知識と専門家としての技能の習得を目指します。また、個々の学生の博士論文のテーマにそって専門書・論文を調べ、研究計画をたて、博士論文を書き上げるための学習を行います。

【到達目標】

臨床心理学に関する専門的な知識を有するとともに、個々のテーマを掘り下げ、博士論文を書き上げることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

専門家としての知識、技術を学ぶことに加え、博士論文を書き上げることを目標にした授業になります。原則的には、個々の学生のテーマや博士論文の内容や進行状況にそって進めていきます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究テーマの検証①
第2回	研究計画の概要の検討2	研究テーマの検証②
第3回	研究計画の概要の検討3	研究テーマの検証③
第4回	研究計画の概要の検討4	研究の目的、方法論の検討①
第5回	研究計画の概要の検討5	研究の目的、方法論の検討②
第6回	研究計画の概要の検討6	研究の目的、方法論の検討③
第7回	研究計画の概要の検討7	研究の目的、方法論の検討④
第8回	研究計画の概要の検討8	研究の目的、方法論の検討⑤
第9回	研究計画の概要の検討9	研究の目的、方法論の検討⑥
第10回	研究計画の概要の検討10	研究の目的、方法論の検討⑦
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習1	国内外の先行研究の学習①
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習2	国内外の先行研究の学習②
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習3	国内外の先行研究の学習③
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習4	国内外の先行研究の学習④

第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習5	国内外の先行研究の学習⑤
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習6	国内外の先行研究の学習⑥
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習7	国内外の先行研究の学習⑦
第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習8	国内外の先行研究の学習⑧
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習9	国内外の先行研究の学習⑨
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習10	国内外の先行研究の学習⑩
第21回	調査研究の内容の検討1	研究の実施、および研究結果の検討①
第22回	調査研究の内容の検討2	研究の実施、および研究結果の検討②
第23回	調査研究の内容の検討3	研究の実施、および研究結果の検討③
第24回	調査研究の内容の検討4	研究の実施、および研究結果の検討④
第25回	調査研究の内容の検討5	研究の実施、および研究結果の検討⑤
第26回	調査研究の内容の検討6	研究の実施、および研究結果の検討⑥
第27回	調査研究の内容の検討7	研究の実施、および研究結果の検討⑦
第28回	調査研究の内容の検討8	研究の実施、および研究結果の検討⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文を完成させるための様々な準備（先行研究の探索、方法論の検討、関連したテーマの知識を得るなど）を積極的に行うこと。研究を主体的、速やかに進めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献は適宜紹介します。

【参考書】

参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（50％） 専門的知識、研究技法の習得（50％）

【学生の意見等からの気づき】

博士論文を作成するための準備・ディスカッションを段階的に行い、個々の関心のあるテーマを専門的な研究に繋げられるよう指導する。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）

2)『女性なぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）

3)久保田幹子：対人恐怖の森田療法、こころの科学、2009;147:72-78

4)久保田幹子：森田療法における受容、精神療法、2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】

Instruction for compiling a doctor's thesis: research conceptualization, literature review, research design, methodology and analysis.

The goals of these lectures are to provide students with specialist knowledge of clinical psychology, to learn research methods and to prepare a dissertation for their doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on writing process of the doctoral thesis (50%) and the level of professional knowledge acquired (50%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

高良 麻子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けて、研究デザインを構築する。

【到達目標】

- ・博士論文を執筆するために必要な研究方法を理解できる。
- ・自分の研究デザインを構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、フィードバックしながら次の授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報収集：定義
第3回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報収集：実態
第4回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報収集：文献
第5回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第6回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第7回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	先行研究のレビュー：研究成果の確認
第8回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	先行研究のレビュー：先行研究の課題
第9回	研究目的の明確化①	研究目的と仮説の検討
第10回	研究目的の明確化②	研究目的と仮説の決定
第11回	研究方法の決定①	研究デザインと研究方法の検討
第12回	研究方法の決定②	研究デザインと研究方法の決定
第13回	博士論文構想発表会準備	研究計画の策定
第14回	中間総括	構想発表会後の振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究成果の報告
第16回	研究計画の策定①	研究計画の見直し
第17回	研究計画の策定②	研究計画の決定
第18回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査検討
第19回	調査計画の策定②	調査計画の検討
第20回	調査計画実施の準備①	実施に必要な準備
第21回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第22回	パイロット調査の実施①	調査結果の報告と課題対応検討
第23回	パイロット調査の実施②	調査結果の報告と調査方法の見直し

第24回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第25回	研究計画書の見直し①	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第26回	研究計画書の見直し②	研究計画の再検討
第27回	研究計画書の見直し③	論文構成の検討
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

計画的に博士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各6時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・課題提出 30%
- ・博士論文構想発表会 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会。

【Outline (in English)】

This course is a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to build a research design for writing a doctoral dissertation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), in-class contribution (30%), and presentation in the doctoral dissertation proposal presentation meeting (40%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第2回	関心領域・テーマの検討1	関心に沿った課題の探索
第3回	関心領域・テーマの検討2	研究課題設定に関する報告
第4回	関心領域・テーマの検討3	研究課題の検討
第5回	関心領域・テーマの検討4	研究課題の設定
第6回	先行研究のレビュー1	先行研究の探索
第7回	先行研究のレビュー2	先行研究の検討
第8回	先行研究のレビュー3	先行研究に関する報告
第9回	先行研究のレビュー4	先行研究の整理
第10回	先行研究のレビュー5	近接領域の先行研究の検討
第11回	研究テーマの仮設検討1	先行研究の精査
第12回	研究テーマの仮設検討2	先行研究の精査と問題の明確化
第13回	研究テーマの仮設検討3	近接領域の先行研究との比較検証
第14回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第17回	研究方法の検討1	論文で用いる研究方法の探索
第18回	研究方法の検討2	論文で用いる研究方法の検討
第19回	研究方法の検討3	論文で用いる研究方法の設定
第20回	研究方法の検討4	研究方法の妥当性の検討
第21回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第22回	探索的調査の実施1	調査の実施
第23回	探索的調査の実施2	調査結果のまとめ
第24回	調査結果の検証1	調査の実施と成果の検証
第25回	調査結果の検証2	調査の実施と成果の報告

第26回	調査結果の検証3	成果のまとめ方と分析方法の検討
第27回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化
第28回	1年間の成果まとめ	これまでの総括と今後の展望の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

①演習への参加姿勢 20% ②課題提出 40% ③論文構想発表会 40%
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

【Learning Objectives】 The goal of this lecture is to acquire the skills necessary for writing a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), in-class contribution (20%) , Doctoral dissertation presentation (40%) .

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

眞保 智子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文作成にむけて、課題の設定や分析枠組みの検討を含めた、研究デザインを行います。

【到達目標】

これまでの研究成果および今後の研究課題について、報告会での報告と研究成果報告書を作成し、博士論文執筆につなげることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

先行研究のレビュー、仮説の検討、研究方法の検討などを通して、学位博士論文の構想をもとに学術論文の執筆を個別指導の中で進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第2回	領域・テーマの提示	関心テーマにそった課題設定の検討
第3回	課題設定	課題設定の検討と仮説
第4回	仮説の構築	仮説の検討
第5回	仮説と作業仮説	作業仮説の検討
第6回	先行研究のレビュー	研究課題に関する先行研究の探索
第7回	先行研究の検討	研究課題に関する先行研究の選定
第8回	先行研究の考察	研究課題に関する先行研究の検討
第9回	先行研究と仮説	研究課題に関する先行研究と仮説の検討
第10回	先行研究と作業仮説	研究課題に関する先行研究と作業仮説の検討
第11回	研究テーマの明確化	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討
第12回	研究テーマと仮説検討	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討し発表
第13回	研究テーマと仮説修正	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説の修正
第14回	研究テーマへのアプローチ	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を修正し発表
第15回	中間総括	春学期での総括を発表
第16回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認
第17回	研究方法の検討	論文で用いる研究方法の検討と課題の抽出
第18回	研究方法の実践	論文で用いる研究方法の実践
第19回	研究方法の修正	論文で用いる研究方法の検討と修正
第20回	研究方法の整理	論文で用いる研究方法の検討と発表
第21回	分析枠組み検討	論文で展開する分析枠組を検討する
第22回	分析枠組み報告	論文で展開する分析枠組の発表

第23回	先行研究の分析枠組み修正	論文で展開する分析枠組の修正
第24回	分析枠組み決定	論文で展開する分析枠組の決定
第25回	論文構想の明確化	博士論文を構成する学術論文を執筆
第26回	論文執筆	学術論文の執筆と報告・検討
第27回	論文要旨の報告	学術論文の執筆と報告・議論
第28回	論文要旨の修正	学術論文の執筆と報告・修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、計画的に博士論文執筆を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【参考書】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究成果報告書50％、報告会50％

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉

＜研究テーマ＞

- 1 障害者の就労とキャリアキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】

This seminar builds on the skills learned in other seminar and applies them to writing of a degree paper. Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper. This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, end notes. The goal of this seminar is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on reports (50 %) and in-class presentation (50%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

末武 康弘

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	オリエンテーション
第2回	研究計画の概要の検討2	研究の意図を検討
第3回	研究計画の概要の検討3	研究の背景を検討
第4回	研究計画の概要の検討4	研究の目的を検討
第5回	研究計画の概要の検討5	研究の社会的な意義を検討
第6回	研究計画の概要の検討6	研究のオリジナリティを検討
第7回	研究計画の概要の検討7	研究のグローバル性を検討
第8回	研究計画の概要の検討8	研究のアップデートな意義を検討
第9回	研究計画の概要の検討9	研究の臨床的な意義を検討
第10回	研究計画の概要の検討10	研究の倫理性を検討
第11回	先行研究の探索と検討1	研究テーマに関連する先行研究の概要を検討
第12回	先行研究の探索と検討2	研究テーマに関連する先行研究の探索
第13回	先行研究の探索と検討3	研究テーマに関連する先行研究の探索と検討
第14回	先行研究の探索と検討4	研究テーマに関連する先行研究の分析
第15回	研究デザインと研究方法の検討1	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法の概要を検討
第16回	研究デザインと研究方法の検討2	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法のバリエーションを検討
第17回	研究デザインと研究方法の検討3	研究テーマに沿った研究デザインを検討
第18回	研究デザインと研究方法の検討4	研究テーマに沿った研究方法を検討
第19回	研究デザインと研究方法の検討5	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法を検討
第20回	研究デザインと研究方法の検討6	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法をさらに検討

第21回	研究デザインと研究方法の確定1	研究デザインと研究方法の確定に向けた検討
第22回	研究デザインと研究方法の確定2	研究デザインと研究方法を確定
第23回	データ収集と処理検討1	データ収集の方法を検討
第24回	データ収集と処理検討2	データ処理の方法を検討
第25回	データ収集と処理検討3	データ収集と処理の方法を検討
第26回	論文執筆の指導1	大学院紀要等の論文執筆について指導
第27回	論文執筆の指導2	学会投稿論文等の執筆について指導
第28回	論文執筆の指導3、まとめ	博士論文作成の目的と方法の書き方を指導、指導のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（70％）と投稿論文等の内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③『主観性を科学化する』質的研究法入門（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

The goals of this course are to acquire the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (70%), and contributing activity at academic associations (30%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

図司 直也

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】

関連する領域での博士論文を作成する上で求められる、知見や研究方法、論文執筆の能力を高め、習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成手順の確認	論文作成の流れを確認する
第2回	論文作成計画の検討	論文作成の計画を検討する
第3回	論文作成計画の作成	論文作成の計画を作成する
第4回	先行研究の検索テーマ検討	先行研究の検索テーマを検討する
第5回	先行研究の探索	先行研究の検索作業を行う
第6回	先行研究の読解	先行研究の目通しを進める
第7回	先行研究の論点出し	先行研究の整理メモを作成する
第8回	先行研究の論点整理	先行研究の到達点を確認する
第9回	研究課題の設定	研究課題を設定する
第10回	研究仮説の整理	研究仮説を整理する
第11回	研究仮説の設定	研究仮説を設定する
第12回	研究方法の基礎的理解	課題解決の研究方法を学ぶ
第13回	研究方法の比較検討	課題解決の研究方法を比較検討する
第14回	研究方法の設定	課題解決の研究方法を設定する
第15回	研究フローの整理	研究のフローを整理する
第16回	研究フローの組み立て	研究のフローを組み立てる
第17回	論文構成の整理	章別構成を整理する
第18回	論文構成の組み立て	章別構成を組み立てる
第19回	データ分析の準備	調査データを準備する
第20回	データ分析の実施	調査データを分析する
第21回	データの考察	調査データを考察する
第22回	データの検討	調査データを検討する
第23回	論文冒頭部の指導	冒頭部の指導助言
第24回	論文中間部の指導	中間部の指導助言
第25回	論文後半部の指導	後半部の指導助言
第26回	論文結論部の指導	結論部の指導助言
第27回	論文全体の指導	論題の指導助言
第28回	論文全体の最終指導	論旨の指導助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習前に個別での作業を充分に行った上で、毎回、進捗状況を報告でき、検討や指導が受けやすい環境を整えて臨むこと。準備・復習時間として各2時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文への取り組み過程 50%，論文の内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

＜研究テーマ＞ 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

＜主要研究業績＞

『新しい地域をつくる』（共著、岩波書店、2022年）

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 Learn the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation in your area of interest.

【Learning Objectives】 Acquire research methods and dissertation writing skills necessary for writing a doctoral dissertation on your own theme.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare to report the progress in advance, and confirm future work contents after class. Secure 2 hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Research work : 50%, dissertation content : 50%.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

関谷 秀子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究目的と方法および研究対象に関すること、データ収集に関すること、データの解析に関すること、得られたデータの解釈に関すること、解釈に関する考察および研究の結論に関することが博士課程レベルに到達する必要がある。

【到達目標】

研究の諸段階の各目標が達成されると次の目標を目指す作業に入ることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標及びテーマに必要な質問と議論を1対1形式で行なう。オフィス・アワーで、課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの選び方①	展望論文の選択①
第2回	研究テーマの選び方②	展望論文の選択②
第3回	研究テーマの選び方③	展望論文の選択③
第4回	研究テーマと研究目的的決定	十分な先行論文検索から研究の流れと最先端を知る。現在の最先端の状況把握をする。
第5回	フィールドの選び方①	先行研究論文を検索①
第6回	フィールドの選び方②	先行研究論文を検索②
第7回	フィールドの選び方③	十分な先行研究展望から、どのようなフィールドでデータは取りえるか、また、それぞれのメリット・デメリットを考察する。
第8回	研究フィールドの決定	理想的な研究フィールドと現実
第9回	研究方法の選び方①	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。①
第10回	研究方法の選び方②	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。②
第11回	研究方法の決定①	対象群と比較対照、分析方法の決定。
第12回	研究方法の決定②	評価者間信頼性チェックの必要性がある場合、その方法を決定する。
第13回	倫理委員会申請準備	研究倫理委員会規定を踏まえて、誰からどのような研究協力の承諾を得るべきか検討する。
第14回	研究倫理委員会申請	必要な書式を準備して申請する
第15回	研究実施の最終チェック	必要な書類の準備と研究フィールド準備

第16回	研究実施①	データ収集上の問題点のチェック①
第17回	研究実施②	データ収集上の問題点のチェック②
第18回	研究実施③	データ収集上の問題点のチェック③
第19回	研究実施④	データ収集上の問題点のチェック④
第20回	研究実施⑤	データ収集上の問題点のチェック⑤
第21回	研究実施⑥	データ収集上の問題点のチェック⑥
第22回	研究実施⑦	データ収集上の問題点のチェック⑦
第23回	研究実施⑧	データ収集上の問題点のチェック⑧
第24回	研究実施⑨	データ収集上の問題点のチェック⑨
第25回	研究実施⑩	データ収集上の問題点のチェック⑩
第26回	研究実施⑪	データ収集上の問題点のチェック⑪
第27回	論文作成①	目的（実証すべき作業仮説に至る先行研究の展望を含む）
第28回	論文作成②	研究方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究検索、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは専門雑誌に掲載されている先行研究論文である。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習意欲と研究への取り組みの姿勢によって評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していないため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】

Analysis and study of theory at a doctoral level concerning research objective methods and study, and data collection and analysis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the contribution in class.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

土肥 将敦

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

【到達目標】

研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、リサーチ・クエスチョンを構築していく。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第2回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第3回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第4回	調査手法の設定と確認①	調査手法を確認する①
第5回	調査手法の設定と確認②	調査手法を確認する②
第6回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第7回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第8回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第9回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第10回	RQの創出①	問いをたてる①
第11回	RQの創出②	問いをたてる②
第12回	フィールド調査報告①	フィールド調査を踏まえた研究報告①
第13回	フィールド調査報告②	フィールド調査を踏まえた研究報告②
第14回	フィールド調査報告③	フィールド調査を踏まえた研究報告③
第15回	前期の振り返り	前期の達成度を確認し課題を抽出する
第16回	ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する
第17回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況の報告①
第18回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況の報告②
第19回	RQ再設定と仮説導出①	RQの再設定と仮説の導出①
第20回	RQ再設定と仮説導出②	RQの再設定と仮説の導出②
第21回	RQ再設定と仮説導出③	RQの再設定と仮説の導出③
第22回	調査報告①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第23回	調査報告②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第24回	調査報告③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第25回	調査報告④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第26回	章立て案の作成	章立て案を作成する
第27回	追加フィールド調査①	追加のフィールド調査報告①
第28回	追加フィールド調査②	追加のフィールド調査報告②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【参考書】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100％）をもとに判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

＜研究テーマ＞ ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

＜主要研究業績＞

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline (in English)】

This course will provide not only the basic skills to produce a high-quality research paper, but also a better understanding of the interpretation of these ethnographic method.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究領域において、オリジナリティがあり、最先端である博士論文を学生が作成するために、テーマと調査方法を設定するように指導すること。

【到達目標】

オリジナリティがあり、臨床心理的価値の高い、研究領域における最先端の博士論文のテーマを設定でき、それに最も適した調査方法を設定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、関心領域の検討からはじめ、先行研究の検索と読み込みを通して、研究テーマを絞り込み、テーマと研究方法の決定までを指導する。課題などのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	博士論文のテーマと研究方法決定までのタイムテーブルについて説明。
第2回	関心領域の検討①	関心領域の探索
第3回	関心領域の検討②	関心領域の検討
第4回	関心領域の検討③	関心領域の明確化
第5回	先行研究の検索と読み込み①	明確になった関心領域に関する先行研究の検索
第6回	先行研究の検索と読み込み②	関心領域に関する先行研究の収集
第7回	先行研究の検索と読み込み③	関心領域に関する先行研究の読み込み
第8回	先行研究の検索と読み込み④	再収集する必要がある文献の収集と読み込み
第9回	先行研究の検索と読み込み⑤	関連する先行研究をほぼ全て読み込む
第10回	研究テーマの絞り込み①	先行研究の検討から研究テーマの可能性の検討
第11回	研究テーマの絞り込み②	研究テーマの検討
第12回	研究テーマの絞り込み③	研究テーマの明確化
第13回	研究テーマの設定①	研究テーマの設定
第14回	研究テーマの設定②	研究テーマの設定を検討して再設定
第15回	先行研究のレビュー①	研究テーマに関する先行研究のレビューの準備
第16回	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューに着手
第17回	先行研究のレビュー③	先行研究のレビューの経過報告
第18回	先行研究のレビュー④	先行研究のレビューを進める
第19回	先行研究のレビュー⑤	先行研究のレビューの検討

第20回	先行研究のレビュー⑥	再検討から必要だと気づいた文献の再収集
第21回	先行研究のレビュー⑦	先行研究のレビューの作成
第22回	先行研究のレビュー⑧	先行研究のレビューの検討
第23回	先行研究のレビュー⑨	先行研究のレビューの再作成
第24回	先行研究のレビュー⑩	先行研究のレビューの完成
第25回	研究テーマの明確化	先行研究の詳細なレビューに基づいてさらに研究テーマの明確化
第26回	研究方法の検討①	研究方法の検討
第27回	研究方法の検討②	研究方法についてさらに検討
第28回	研究方法の決定	研究方法の決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の前は、研究テーマに関連する国内外の専門図書と研究雑誌を検索して読み、博士論文作成の準備を進め、その進行状況と疑問点などを報告できる用意をすることが求められます。演習の後は、教員からの助言やコメントを博士論文の作成に反映させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

論文のテーマと方法に応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しておりません。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）

<主要研究業績>

『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007年）
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】

Course outline

In the research area, to instruct students to set themes and survey methods in order to create students with originality and cutting edge doctoral thesis.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to set the theme of the highest doctoral dissertation in the study domain where there is originality, and has high clinical psychological value and can set an investigation method most suitable for it.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the approach to doctoral dissertation making.

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

服部 環

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向け、専門的知識と研究方法を習得します。

【到達目標】

博士論文の作成に必要な専門的知識と技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を投稿論文としてまとめ、博士論文の執筆能力を高めます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予
定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習計画と進め方について確認 します
第2回	先行研究の調査(国内)	国内の先行研究を調べます
第3回	先行研究の調査(国外)	国外の先行研究を調べます
第4回	先行研究の調査の継続	国内外の先行研究を調べます
第5回	先行研究の確認	文献研究の過不足について確認 します
第6回	研究論文のリスト作成	研究論文リストアップします
第7回	書籍のリスト作成	書籍をリストアップします
第8回	先行研究の整理(国内1)	国内の先行研究の意義を整理し ます
第9回	先行研究の整理(国内2)	引き続き意義を整理します
第10回	先行研究の整理(国外1)	国外の先行研究の意義を整理し ます
第11回	先行研究の整理(国外2)	引き続き意義を整理します
第12回	問題点の整理(国内)	国内の先行研究の問題点を整理 します
第13回	問題点の整理(国外)	国外の先行研究の問題点を整理 します
第14回	先行研究の問題点の整理(国内外)	国内外の先行研究の問題点を整 理します
第15回	後期のガイダンス	ガイダンスを行います
第16回	研究雑誌の精査(1)	研究雑誌について精査します
第17回	研究雑誌の精査(2)	必要な文献の見落としがないよ うに研究雑誌について精査しま す
第18回	執筆要項の確認	投稿先雑誌の執筆要項を確認し ます
第19回	投稿論文の執筆開始	投稿形式論文の執筆を始めます
第20回	投稿論文の執筆（問題と目的）	問題と目的を執筆します
第21回	論文投稿の執筆（方法）	方法を執筆します
第22回	論文投稿の執筆（結果）	結果を執筆します

第23回	執筆内容と分析の確認	内容の適否について確認します
第24回	論文投稿の修正（結果）	修正を加えます（結果）
第25回	論文投稿の執筆（考察）	考察を執筆します
第26回	結果までの加筆修正	加筆修正します
第27回	全体の加筆修正	全体を加筆修正します
第28回	添付資料の作成	添付資料を作成します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究を読み込むことが必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜、論文と書籍を紹介します。

【参考書】

心理学の研究方法与データ解析法に関する書籍を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）と演習への参加（50％）とを総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

個別指導が中心ですが、成果を他の受講生と共に発表します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著、サイエンス社）
- (2) 心理・教育のためのRによるデータ解析（単著、福村出版）
- (3) 日本版KABC-IIマニュアル・換算表（共訳編、丸善出版）
- (4) Q&A心理データ解析（共著、福村出版）

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to provide students with the academic skills related to psychological research and writing doctoral dissertation.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to acquire the specialized knowledge and skills necessary to write a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and in-class contribution(50%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】

博士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成計画の検討①	論文作成の流れの確認
第2回	論文作成計画の検討②	論文の構成案の検討
第3回	論文作成計画の検討③	研究作業スケジュールの確認
第4回	先行研究のレビュー①	関連テーマ①に関する検索結果
第5回	先行研究のレビュー②	関連テーマ①の主要論文の概要
第6回	先行研究のレビュー③	関連テーマ②に関する検索結果
第7回	先行研究のレビュー④	関連テーマ②の主要論文の概要
第8回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の概要整理
第9回	研究仮説の検討①	先行研究から導き出された研究課題の提示
第10回	研究仮説の検討②	研究仮説案の確認
第11回	研究仮説の検討③	研究仮説の修正
第12回	研究方法の検討①	文献調査・参与観察の検討
第13回	研究方法の検討②	量的調査手法の検討
第14回	研究方法の検討③	質的調査手法の検討
第15回	研究構成の検討①	研究のフローの確認
第16回	研究構成の検討②	研究の章立て案の確認
第17回	研究構成の検討③	研究の章立ての修正
第18回	データ収集分析①	調査データの分析①
第19回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第20回	データ収集分析③	調査データの分析②
第21回	データ収集分析④	分析結果の考察
第22回	論文執筆の指導①	序章に関する指導助言
第23回	論文執筆の指導②	調査対象・研究の方法に関する指導助言
第24回	論文執筆の指導③	調査結果分析に関する指導助言
第25回	論文執筆の指導④	考察素案に対する指導助言
第26回	論文執筆の指導⑤	考察修正に関する指導助言

第27回 論文投稿の指導① 学会への投稿に向けた技術的な指導

第28回 論文投稿の指導② 同上に向けた構成内容の吟味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire practically learn the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation according to the field in which each person is interested.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Learn the skills of writing a doctoral dissertation.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

人間福祉特別演習 I

宮城 孝

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

【到達目標】

自らの研究テーマについて適切にデザインできる。
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の目的	明確化の検討
第2回	研究の対象	明確化の検討
第3回	研究テーマの設定	主題の明確化の検討
第4回	研究テーマの設定の 具体化	主題の具体化
第5回	研究方法の明確化	研究方法の検討
第6回	研究方法の具体化	研究方法の具体的検討
第7回	先行研究のレビュー	対象の明確化
第8回	先行研究のレビュー の作業	対象の探索と検討
第9回	先行研究のレビュー の振り返り	対象の探索と振り返り
第10回	先行研究のレビュー のまとめ方	まとめ方について
第11回	研究仮説の検討	視点と仮説の検討
第12回	研究仮説の設定	視点と仮説の具体化
第13回	データの収集の対象	データの収集の対象の検討
第14回	データの収集方法	具体的な収集方法の検討①
第15回	データの収集方法の 具体化	具体的な収集方法の明確化
第16回	データの収集内容	具体的な収集内容の検討
第17回	データの具体的な内 容	具体的な内容の明確化
第18回	データの収集と分析 ①	分析方法の検討①
第19回	データの収集と分析 ②	分析方法の検討②
第20回	データの収集と分析 ③	分析方法の明確化①
第21回	データの収集と分析 ④	分析方法の明確化②
第22回	考察の視点と枠組み	視点と枠組みの検討
第23回	考察の骨子	視点と枠組みの明確化
第24回	考察の内容	内容の検討
第25回	論文の構成	論文の構成の検討
第26回	論文の中間報告の構 成の具体化	内容の構成の具体化
第27回	論文の中間報告・指 導	中間報告の内容の検討

第28回 論文の中間報告のまとめ 中間報告について完成
とめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、レポートの提出と報告、その内容60%により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉論

〔主要研究業績〕

・『住民力ー超高齢社会を生き抜くチカラー』（単著）明石書店,2022年
・『仮設住宅ーその10年ー陸前高田における被災者の暮らしー』（共編著）御茶の水書房,2021年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー』（編著）中央法規、2019年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例ー』（編著、中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑むー』（編集代表）、中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探るー』（共編著）中央法規,2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発ー開発的ソーシャルワークの理論とスキルー』（監訳）丸善,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
・『新版ー地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』（中央法規,2000年
・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳）丸善出版,2012年

【Outline (in English)】

【Course outline】

To create research paper, it sets research design. It does the review of the past research paper systematically about the own research subject. Then, it makes to build the purpose, the object, the way of its research.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B, C

A. To complete a research paper.

B. Students can search of the necessary article and data.

C. Students can make sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours after each supervision.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on quality of the students' experimental performance in the lab (40%) and the research paper (60%)

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習 I

望月 聡

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文にかかる研究を構想し、研究に着手するための演習です。

【到達目標】

- 1) 博士論文にかかる研究を構想し、着手することができる。
2) 博士課程にふさわしい高度な研究遂行能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。博士論文にかかる研究指導のための科目ですから、基本的には受講生が能動的に学修を進めていくスタイルになります。対面時に直接、もしくはメール等により、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本演習の進め方について説明します。
第2回	これまでの研究の紹介とこれからの研究の方向性	これまでに行ってきた研究を紹介してもらい、これからの研究の方向性について議論します。
第3回	研究の位置づけについて検討する	博士論文のための研究がどのような研究文脈上の位置づけになるかを議論します。
第4回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介(1)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(1)
第5回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介(2)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(2)
第6回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介(3)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(3)
第7回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介(4)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(4)
第8回	博士論文に関する研究の全体像を構想する(1)	関連する先行研究の総説論文の執筆の構想を練ります。 第7回までの内容に基づいて、博士論文に関する研究の全体像を構想します。
第9回	博士論文に関する研究の全体像を構想する(2)	引き続き、博士論文に関する研究の全体像を構想します。
第10回	博士論文1 年次研究発表会の準備	博士論文の骨子（問題意識（リサーチクエスト）、先行研究のレビューと研究の意義、調査研究方法など）について発表する準備を行います。
第11回	博士論文1 年次研究発表会での発表	博士論文の骨子（問題意識（リサーチクエスト）、先行研究のレビューと研究の意義、調査研究方法など）について発表を發表します。
第12回	博士論文1 年次研究発表会のふりかえり	博士論文1 年次研究発表会で受けた意見等を踏まえ、必要に応じて構想を練り直します。
第13回	研究への着手	研究を開始します。研究倫理審査申請の準備を進めます。
第14回	中間まとめ	春学期の活動をふりかえり、夏季休業中や秋学期以降の活動を計画します。
第15回	研究の実施(1)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(1) (これ以降の回では、研究活動の実施に関する指導・助言を行います。)
第16回	研究の実施(2)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(2)

第17回	研究の実施(3)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(3)
第18回	研究の実施(4)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(4)
第19回	研究の実施(5)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(5)
第20回	研究の実施(6)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(6)
第21回	研究の実施(7)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(7)
第22回	研究の実施(8)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(8)
第23回	研究の実施(9)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(9)
第24回	研究の実施(10)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(10)
第25回	研究の実施(11)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(11)
第26回	研究の実施(12)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(12)
第27回	研究の実施(13)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(13)
第28回	まとめ	この1 年間の成果をふりかえり、研究成果報告書を作成します。春季休業中や次年度の予定を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習に必要な事項はすべて受講生の準備にかかっています。したがって、演習が成立するためには受講生側の事前の準備が不可欠ですし、演習後にはその内容を咀嚼し次回への準備に取り組むというサイクルが形成される必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

日本心理学会（2022）. 執筆・投稿の手びき（2022年版） <https://psych.or.jp/manual>
下山 晴彦・能智 正博（編）（2008）. 心理学の実践的研究法を学ぶ（臨床心理学研究法1） 新曜社
杉浦 義典（2009）. アナログ研究の方法（臨床心理学研究法4） 新曜社
南風原 朝和（2011）. 量的研究法（臨床心理学をまなぶ7） 東京大学出版会
能智 正博（2011）. 質的研究法（臨床心理学をまなぶ6） 東京大学出版会
サトウ タツヤ・春日 秀朗・神崎 真実（編）（2019）. 質的研究法マッピング——特徴をつかみ、活用するために—— 新曜社

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an exercise for students to conceptualize and start research for their doctoral dissertation.

[Learning Objectives]

- 1) To be able to conceive and initiate research for a doctoral dissertation.
2) Acquire advanced research skills appropriate for a doctoral course.

[Learning activities outside of classroom]

Everything necessary for this exercise depends on the preparation of the students. Therefore, it is essential for students to prepare in advance for the exercise to be successful, and after the exercise, it is necessary to form a cycle of digesting the content and preparing for the next time.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Status of research efforts (100%)

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅱ

末武 康弘

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

特別演習Ⅰに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年度目標と課題の確認	博士論文作成のために今年度達成すべき目標と課題を確認します。
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索します。
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集します。
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析します。
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討します。
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査します。
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを再検討します。
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを洗練します。
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅰで確定した研究方法を再検討します。
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅰで確定した研究方法を洗練します。
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅰで確定した研究デザインと研究方法を洗練します。
第12回	論文投稿の準備1	博士論文提出の条件となる学会誌あるいは大学院紀要への論文投稿について、その準備を指導します。
第13回	論文投稿の準備2	大学院紀要や学会への投稿論文のデータ収集について指導します。
第14回	論文投稿の準備3	大学院紀要や学会への投稿論文のデータの分析について指導します。
第15回	研究倫理の指導	大学院紀要や学会への投稿論文の研究倫理について指導します。
第16回	論文執筆の指導1	大学院紀要や学会への投稿論文の書き方について指導します。
第17回	論文執筆の指導2	大学院紀要や学会への投稿論文の目的の書き方について指導します。
第18回	論文執筆の指導3	大学院紀要や学会への投稿論文の方法の書き方について指導します。
第19回	論文執筆の指導4	大学院紀要や学会への投稿論文の結果の書き方について指導します。

第20回 論文執筆の指導5

第21回 論文執筆の指導6

第22回 論文執筆の指導7

第23回 論文執筆の指導8

第24回 論文執筆の指導9

第25回 論文執筆の指導10

第26回 博士論文執筆の指導1

第27回 博士論文執筆の指導2

第28回 博士論文執筆の指導3、まとめ

大学院紀要や学会への投稿論文の考察の書き方について指導します。
2本目以降の投稿論文執筆の指導を行います。
2本目以降の投稿論文の目的の書き方について指導します。
2本目以降の投稿論文の方法の書き方について指導します。
2本目以降の投稿論文の結果の書き方について指導します。
2本目以降の投稿論文の考察の書き方について指導します。
博士論文作成に向けたスケジュールの指導を行います。
博士論文の構成の組み立て方について指導します。
博士論文の展開について指導し、指導のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、投稿論文の執筆、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（70％）と投稿論文の内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅱ

望月 聡

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文にかかる研究を着実に実行するための演習です。

【到達目標】

- 1) 博士論文にかかる研究を、継続的に実行することができる。
2) 博士課程にふさわしい高度な研究遂行能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。博士論文にかかる研究指導のための科目ですから、基本的には受講生が能動的に学修を進めていくスタイルになります。対面時に直接、もしくはメール等により、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本演習の進め方について説明します。
第2回	これまでの研究の紹介とこれからの研究の方向性	これまでに行ってきた研究を紹介してもらい、これからの研究の方向性について改めて議論します。
第3回	研究の位置づけについて検討する	博士論文のための研究がどのような研究文脈上の位置づけになるかを改めて議論します。
第4回	関連する最新の先行研究の精査(1)	関連する国内外の最新の先行研究について精査し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(1)
第5回	関連する最新の先行研究の精査(2)	関連する国内外の最新の先行研究について精査し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(2)
第6回	関連する最新の先行研究の精査(3)	関連する国内外の最新の先行研究について精査し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(3)
第7回	関連する最新の先行研究の精査(4)	関連する国内外の最新の先行研究について精査し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(4)
第8回	博士論文に関する研究の全体像をアップデートする(1)	関連する先行研究の総説論文の執筆の構想を練ります。 人間福祉特別演習Ⅰおよび演習Ⅱ第7回までの内容に基づいて、博士論文に関する研究の全体像を確認・見直します。
第9回	博士論文に関する研究の全体像をアップデートする(2)	引き続き、博士論文に関する研究の全体像を確認・見直します。
第10回	博士論文2年次研究発表会の準備	博士論文2年次研究発表会の準備を行います。
第11回	博士論文2年次研究発表会における発表	博士論文2年次研究発表会にて発表します。
第12回	博士論文2年次研究発表会のふりかえり	博士論文2年次研究発表会で受けた意見等を踏まえ、必要に応じて研究計画・実施体制を練り直します。
第13回	さらなる研究への着手、論文投稿への意識を高める	さらなる研究を開始します。研究倫理審査申請の準備を進めます。また、投稿論文を完成に近づけ、投稿先を確定し、執筆投稿要項/要領/規程類の確認をします。
第14回	中間まとめ	春学期の活動をふりかえり、夏季休業中や秋学期以降の活動を計画します。
第15回	研究の継続的な実施(1)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(1)（これ以降の回では、研究活動の実施に関する指導・助言を行います。）
第16回	研究の継続的な実施(2)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(2)

第17回	研究の継続的な実施(3)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(3)
第18回	研究の継続的な実施(4)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(4)
第19回	研究の継続的な実施(5)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(5)
第20回	研究の継続的な実施(6)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を遂行します。(6)
第21回	研究の継続的な実施(7)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(7)
第22回	研究の継続的な実施(8)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(8)
第23回	研究の継続的な実施(9)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(9)
第24回	研究の継続的な実施(10)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(10)
第25回	研究の継続的な実施(11)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(11)
第26回	研究の継続的な実施(12)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(12)
第27回	研究の継続的な実施(13)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆・投稿・査読結果を受けての改稿等、研究活動を継続します。(13)
第28回	まとめ	この1年間の成果をふりかえり、研究成果報告書を作成します。春季休業中や次年度の予定を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習に必要な事項はすべて受講生の準備にかかっています。したがって、演習が成立するためには受講生側の事前の準備が不可欠ですし、演習後にはその内容を咀嚼し次回への準備に取り組むというサイクルが形成される必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

日本心理学会（2022）. 執筆・投稿の手びき（2022年版） <https://psych.or.jp/manual> その他、論文投稿先の執筆投稿要項/要領/規程類
アメリカ心理学会（APA）（著），前田 樹海・江藤 裕之（訳）（2023）. APA論文作成マニュアル 第3版 医学書院
ハリス・クーパー（著），井関 龍太・望月 正哉・山根 嵩史（訳）（2024）. 心理学における量的研究の論文作法——APAスタイルの基準を満たすには—— 勁草書房
ハイディ・M・レヴィット（著），能智 正博・柴山 真琴・鈴木 聡志・保坂 裕子・大橋 靖史・抱井 尚子（訳）（2023）. 心理学における質的研究の論文作法——APAスタイルの基準を満たすには—— 新曜社

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an exercise to steadily carry out the research for the doctoral dissertation.

[Learning Objectives]

1) To be able to continuously carry out the research for the doctoral thesis.

2) Acquire advanced research skills appropriate for a doctoral course.

[Learning activities outside of classroom]

Everything necessary for this exercise depends on the preparation of the students. Therefore, it is essential for students to prepare in advance for the exercise to be successful, and after the exercise, it is necessary to form a cycle of digesting the content and preparing for the next time.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Status of research efforts (100%)

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅲ

末武 康弘

配当年次／単位数：3年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画の確認	博士論文作成の年度計画確認
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを再検討
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを洗練
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅱで確定した研究方法を再検討
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅱで確定した研究方法を洗練
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅱで確定した研究デザインと研究方法を洗練
第12回	博士論文の構成の検討1	博士論文の構成の整合性を検討
第13回	博士論文の構成の検討2	博士論文の構成を洗練
第14回	博士論文予備登録の指導	博士論文予備登録のための指導
第15回	博士論文完成の指導1	博士論文を仕上げるための指導
第16回	博士論文完成の指導2	博士論文のテーマの妥当性の指導
第17回	博士論文完成の指導3	博士論文の論述形式の妥当性の指導
第18回	博士論文完成の指導4	博士論文の論理的整合性の指導
第19回	博士論文完成の指導5	博士論文の論述内容の妥当性の指導
第20回	博士論文完成の指導6	博士論文の研究倫理の検討
第21回	博士論文完成の指導7	博士論文のオリジナリティの検討
第22回	博士論文完成の指導8	博士論文の社会的意義の検討
第23回	博士論文完成の指導9	博士論文の学術的意義の検討

第24回	博士論文完成最終指導1	博士論文を仕上げるため最終的な指導
第25回	博士論文完成最終指導2	最終的な論述形式の指導
第26回	博士論文完成最終指導3	最終的な論述内容の指導
第27回	博士論文審査に向けた指導	博士論文審査に向けた指導
第28回	博士論文発表に向けた指導、まとめ	博士論文発表に向けた指導とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（40％）と論文の内容（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】

You learn the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.

The goals of this course are to acquire the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (40%), and the content of doctoral dissertation (60%)

